

59

67

熱帶衛生
並
熱帶病提要

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



59-67

臺灣軍醫部編纂



熱帶病提要





序

一タヒ領臺史ヲ緝ケハ上陸軍ノ百分ノ八十八麻刺利亞ニ犯サレ赤痢
脚氣腸窒扶斯到ル所ニ頻發シ澎湖列島ニ於ケル虎疫ノ猩獺之ニ加ハ
リ幾多將卒ノ焦土ニ殉シタル熱帶地ノ作戰ノ如何ニ夥シキ犠牲ヲ拂
ハサルヘカラサルカニ一驚ヲ喫セサルモノアラサルヘシ漸ク匪賊ノ
平定ヲ告ケ駐軍ノ期ニ移ルヤ又毎歲ベスト疫ノ流行ヲ逞フスルアリ
加之麻刺利亞黒水熱ノ發生四季絶ユルノ時ナク諸般ノ施設醫事衛生
ヲ疎外シテハ一モ手下シ難キノ觀アリ爾來幾星霜先進ノ努力奮勵
ハ著々瘴癘ノ土地ヲ變シテ樂土タラシムルニ至リタルモ由來熱帶地
ハ天産物ノ富饒ト共ニ又疫癘ノ好發地タルヲ以テ任ニコノ地ノ衛生
ニ關與スルモノ其ノ研學上ノ興趣深キヲ感スルト共ニ又其ノ責ノ重

キヲ恁ハサルモノナカルヘシ

二

熱帯病及熱帯地ノ衛生ニ關スル成書ハ從來決シテ乏シキニ非ラサルモ或ハ亞弗利加或ハ南米ヲ基礎トシ極東南洋ニ關スル記載甚タ粗ナルモノ比々皆然ルカ如シ又所謂熱帯病ト稱スルモ廣ク世界通有ノ疾患ニ屬スルモノニシテ其ノ知見却ツテ熱帯圏外ノ地ノ研究ニ於テ長セルモノアリ彼此涉獵容易ニ短時日ヲ以テ要點ヲ捉ヘ難キノ憾ナシトセス是ニ於テカ領臺以來ノ經驗ト南支南洋等一葦帶水ノ隣邦ニ於ケル現況ヲ參酌シコレヲ地圏ニ於テ每常遭遇スル所ノ疾患竝熱帯地行動上必要ナル衛生事項ノ全班ヲ網羅シ簡潔明確ニ據ル所ヲ示摘スルニ足ルヘキ摘録的冊子ノ特ニ初メテ任ニコノ地ニ來レル青年醫官ノ爲必要ナルヘキヲ認メ前ノ臺灣軍々醫部長木村辰次氏ニ依リ先ツ起稿セラレタル所ヲ銳意繼續シ團下各隊病院附軍醫諸彥ニ分擔依囑

シ執筆セラレタル原稿ヲ再次取捨撰擇シ軍醫部々員上野俊昌野村義章兩君ヲシテ更ニ文獻ト諸統計トニ依リ新タニ補追セシメ又臺灣總督府醫學專門學校長堀内次雄氏ノ援助ノ下ニ同校竝臺灣中央研究所等ノ教授技師各位ニ依頼シ各専門ニ關スル輓近ニ於ケル研究進歩ノ現況ヲ逸セサランコトニ努メタリ余ノ淺學固ヨリコレカ編纂ヲ主宰スヘキ器ニアラサルモ前記各位ノ熱心盡力ノ賜トシテ速カニ脱稿上梓ヲ告クルニ到リタルハ欣榮トスル所タリ其ノ内容ノ蕪雜繁簡要ヲ得サルモノアレハコレ一ニ拙速事ヲ督セルノ到ス所ニシテ更ニ大方ノ叱正ヲ待ツテ訂正ヲ期セントス微々タル小冊固ヨリ期スル所大ナラサルモ幸ヒニ熱帯地醫事衛生ニ執務スルモノノ若干參考ノ資トスルニ足ルモノアレハ望外ナリ聊カ本書發刊ノ顛末ヲ記シテ序ニ代フト謂フ

三

大正十一年十月

臺灣陸軍軍醫分團長

陸軍一等軍醫正

英

健

也

四

目次

一、氣象	【頁】(一)
一、被服	(一〇)
一、糧食	(二三)
一、水	(三七)
一、行軍	(四五)
一、虎列刺	(五七)
一、細菌性赤痢	(六三)
一、「アメーバ」性赤痢	(七〇)
一、熱帶肝膿瘍	(八八)
一、「ペスト」	(九九)
一、腸室扶私「バラチフス」	(一〇六)

- 一、流行性腦脊髄膜炎……………(二二六)
- 一、再歸熱……………(二三七)
- 一、デング熱……………(二三二)
- 一、麻刺利亞……………(二三八)
- 一、黒水熱……………(二〇四)
- 一、ペラグラ……………(二二七)
- 一、カラアザール……………(二一九)
- 一、恙蟲病……………(三一一)
- 一、脚氣……………(三三九)
- 一、喝病……………(三三五)
- 一、船暈……………(二五五)
- 一、蛇毒中毒即毒蛇病……………(二六三)

- 一、甲狀腺腫……………(二九二)
- 一、土指腸蟲病……………(三〇三)
- 一、「ストロネギロイデス
ステルコラーリス」……………(三一一)
- 一、「メタゴニムス
ヨコガワイ」……………(三二六)
- 一、日本住血吸蟲病……………(三二七)
- 一、蛔蟲病……………(三三三)
- 一、住血腺狀蟲病……………(三三六)
- 一、肺チストマ病……………(三三一)
- 一、肝チストマ病……………(三三七)
- 一、廣節裂頭條蟲病……………(三四一)
- 一、無鈎條蟲病……………(三四五)
- 一、有鈎條蟲病……………(三四七)

- 一、白癬、寄生性匍行疹及頑癬……………(三五二)
- 一、汗疹性濕疹及摩擦濕疹……………(三五四)
- 一、渦狀癬(屋瓦癬)……………(三五五)
- 一、ビンタ……………(三五七)
- 一、熱帶覆盆子腫(フランベジヤ)……………(三五八)
- 一、東方腫……………(三六〇)
- 一、氣候性横痃……………(三六一)
- 一、急性限局性浮腫……………(三六四)
- 一、熱帶地ニ於ケル精神病……………(三六六)
- 一、衛生材料……………(三六八)
- 一、南洋諸島ノ氣象並衛生狀況表……………

氣象

氣溫

日射溫ノ高低ハ光ノ射入角ニ關シ其ノ大ナルヤ日益強シ熱帶地暑ノ烈シキモ之カ爲ナリ衛生學上地帯ノ區別ハ氣溫ヲ標準トスルヲ便トス平均年溫華氏六十八度ヲ降ラサル地帯ヲ熱帶ト言ヒ七十二度ヲ超エス三十二度以下ニ降ラサル地帯ヲ溫帶ト言ヒ三十二度以下ニ昇ラサル地帯ヲ寒帶ト云フ而シテ熱帶ハ更ニ之ヲ熱帶及亞熱帶ノ二地帯ニ分チ熱帶地ハ最寒ノ月ト雖平均月溫七十二度以上ニアルモノヲ云フ。

臺灣ハ回歸線其ノ中央ヲ横斷シ氣候亞熱帶ニ屬スルヲ以テ夏季長ク綠葉常ニ樹冠ヲ飾リ花卉ハ四季ヲ通シテ開キ果實豐熟シ稻梁一

歲兩度ノ收穫アル等内地ト全ク其ノ趣キヲ異ニセリ而シテ全島ノ年平均温ハ七十三度ニシテ春夏秋冬ノ區別内地ノ如ク著シカラス地勢南北百餘里ニ延長スルヲ以テ島内各地ニ於ケル氣温モ亦著シキ相違アリ。

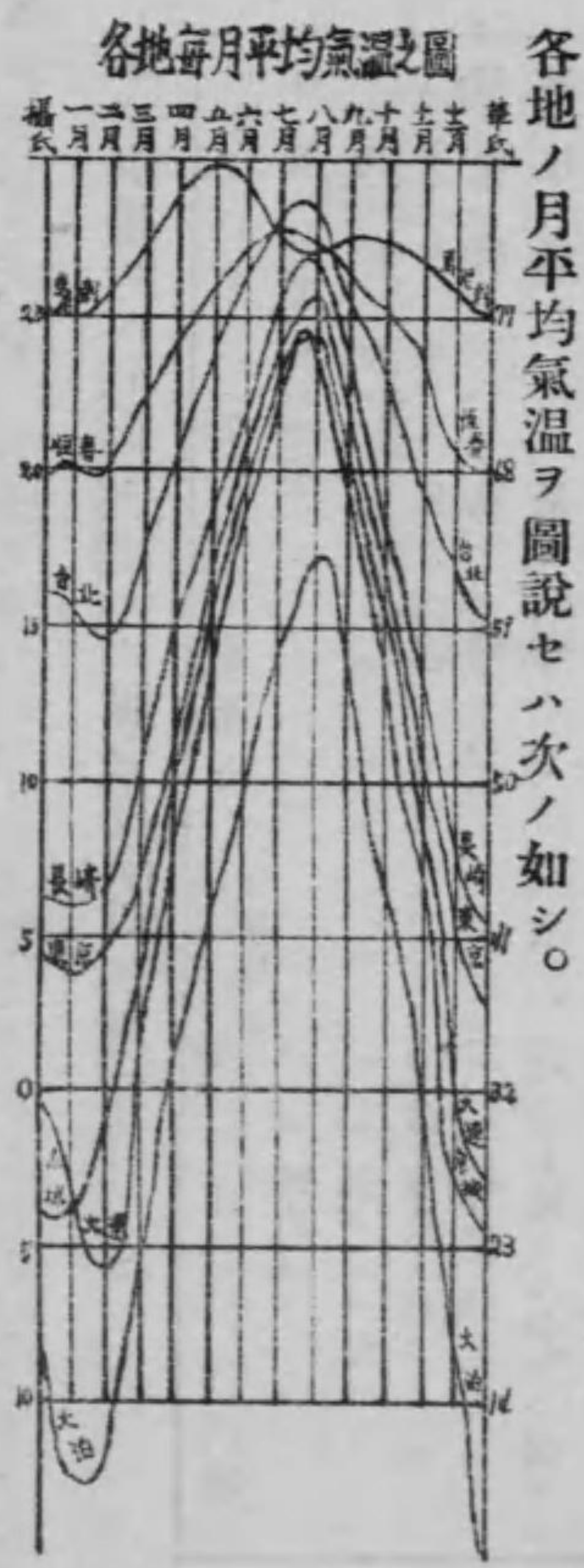
而シテ臺灣ニハ年間雨季ト乾季トアリ北部ハ夏ハ天氣晴朗降南殆ント稀ナルニ反シ冬ハ陰鬱ニシテ霖雨霽レス南部ハ全ク之ニ反シ冬ハ連日晴天一點ノ雲ナキモ夏ハ時々車軸ヲ流スカ如キ豪雨アリ各地ノ累年平均温度ヲ示セハ次ノ如シ(華氏)

地名	温度	地名	温度	地名	温度
基隆	八〇、三	臺南	七三、六	臺北	七〇、九
臺中	七五、九	臺東	七二、八	澎湖島	六〇、二
嘉義	七五、八	香港	七三、〇		
大港	七五、八				

一日ノ最高温度ハ内地ト大差ナキモ一日中ニ於ケル高温持續時間長シ。

一日ノ氣温經過ヲ掲クレハ次ノ如シ。

區別	土地別	基隆	臺北	臺中	臺南	恒春	臺東	澎湖島
午前六時	同	八五、八	七九、五	七五、〇	七三、〇	七六、〇	七九、〇	八〇、〇
同十時	同	九〇、〇	九一、〇	八五、〇	八八、〇	八七、〇	八五、〇	八五、〇
午後二時	同	九三、〇	九四、〇	九一、〇	九三、〇	八九、〇	九三、〇	八七、〇
同六時	同	八八、二	八八、五	八五、〇	八七、〇	八四、〇	八五、〇	八五、〇
同十時	同	八四、〇	八四、〇	八二、〇	八三、〇	七九、〇	八二、〇	八二、〇
午前二時	同	八二、五	八〇、〇	七七、〇	七八、〇	七六、〇	七九、〇	七九、五



風

風ノ觀測ニハボーホルトノ風力度階級ヲ用フ。

區	分	秒風速(米)	平方ニ對スル風壓(瓦)	目	標
零度	無風(又ハ靜穩)	0.0-0.5	0.0-0.5	煙直上ス	
一度	軟(弱)	0.5-4.0	0.5-1.87	風アルヲ感ス	
二度	和(中)	4.0-7.0	1.87-5.96	樹葉ヲ動カス	
三度	疾	7.0-12.0	5.96-15.27	樹枝ヲ動カス	
四度	強	12.0-17.0	15.27-34.35	大枝ト小幹トヲ動カス	
五度	烈(暴)	17.0-24.0	34.35-95.40	樹幹ヲ動カス	
六度	颯	24.0以上	95.40以上	建築物ヲ破壊ス	

外氣ハ絶ヘス移動スルモノニシテ一秒時五米突ノ時始メテ風アルヲ知ル臺灣ハ四季ヲ通シテ風多ク暑中ノ苦熱モ之カ爲緩和サルルコト大ナリ十月ヨリ三月迄ハ支那大陸冬季ノ影響ヲ受ケ北東ノ季節風卓越シ近海ノ波高ク東海岸ノ花蓮港臺東ハ往々船客貨物ノ揚卸ヲナスコト能ハサルコトアリ孰中風力強烈ナルハ臺灣水道ニシ

テ澎湖島ノ如キハ冬季ヲ通シテ烈風砂塵ヲ飛ハシ樹木ハ家屋牆壁等ノ隱蔽下ニアラサレハ繁茂シ能ハス爲ニ同地冬季間ノ屋外勤務演習行軍ニハ防砂眼鏡ヲ要スルコト多シ之ニ反シ四月ヨリ九月ニ至ル間ハ天候平穩風力極メテ微弱トナル今臺灣竝内地各地ノ平均風速度(毎秒時米)ヲ示セハ次ノ如シ。

地名	風速	地名	風速
臺南	四、七長	澎湖島	一〇、四
臺中	三、〇熊	臺東	三、五
臺北	四、八恒	神戶	三、八
		京	三、八
		崎	七、四

暴風

臺灣ハ颶風ノ進路ニ當ル颶風ノ起點ハ東ハマリアナ、カロリン諸島西ハヒリツピン群島ニ至ル間ノ洋上ニ發ス此他南支那海ニ發生スルモノアレトモ甚タ稀ナリ其ノ發生時期ハ主トシテ七月以後ニ

シテ始メハ西乃至北西ニ進行シ北緯三十度邊ニ至レハ屈曲シ北東ニ向フヲ普通トス本島ニ襲來スルモノハ呂宋ノ北東若クハ東部海上ニ起リ其ノ中心北西ヲ進行シテ本島ヲ横斷シ若クハ南端或ハ北端ヲ掠メテ通過シ支那大陸ニ去ルモノ多數ニシテ特ニ南端ヲ過クルモノハ最猛烈ナリ。

暴風ノ襲來スヘキ月ハ概ネ六月ヨリ八月ノ間ニシテ其ノ回数及百分率次ノ如シ。

回数及百分率	月別					計
	六月	七月	八月	九月	十月	
回数	三	七	七	八	二	三七
百分率	八	一九	一七	三	五	一〇〇

雨

臺灣ニ於テハ冬季ノ北東季節風ハ海上ヨリ多量ノ水分ヲ抱擁シ來

リ基隆一帶ノ山嶺ニ達スレハ忽チ變シテ雨トナル。故ニ基隆附近ハ十一月ヨリ翌年四月ニ至ル半歲間天氣陰鬱降雨連日ニ互リ太陽ヲ見ルコト稀ナリ而シテ南スルニ從ヒ雨量次第ニ減シ臺中以南ニアリテハ冬季ハ一般ニ乾燥期ニシテ天氣快晴稀レニ降雨アルノミ四月ヨリ九月ニ至ル間ハ南方ノ季節風卓越スルモ風力緩和ニシテ雷雨頻繁ニ起リ時ニ豪雨ヲ來シ數時間ニシテ交通ノ杜絶スル等其ノ勢強烈ナルコトアリ而シテ北部ハ此ノ期間乾燥期ニ屬ス。

臺灣及内地各地ノ累年平均降雨量ヲ示セハ次ノ如シ。

地名	雨量(耗)	地名	雨量(耗)	地名	雨量(耗)
基隆	三、四九三、五 (六、七三九)	澎湖島	一、〇三三、四 (二、〇八五)	大坂	一、三七八、八 (三、七五二)
臺北	二、〇六七、〇 (三、七七八)	恒春	二、一八九、九 (四、〇一一)	長崎	一、九四六、七 (三、五五二)
臺中	一、八〇三、六 (三、三三〇)	臺東	一、七九七、七 (三、二二四)	金澤	二、五八八、八 (四、七七一)

臺南 一、七〇、六
 (三、二) 東 京 一、五九、七
 (三、七八) 青 森 一、三六、〇
 (三、四〇)

備考 括弧内ハ一坪ニ對スル樹目ニ換算シタル量ヲ示スモノトス。

尙本島各地ニ於ケル累年平均降雨日數ヲ示セハ左ノ如シ。

地	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
基隆	二二	二〇	二二	一九	一五	一〇	一四	一六	一九	二二	二二	二二	二二
臺北	二七	二六	二八	二五	二一	一四	一五	一四	一九	二二	二二	二二	二二
臺中	二九	二九	二二	二一	一六	一四	一五	一四	一九	二二	二二	二二	二二
臺南	三六	三五	二二	二一	一六	一四	一五	一四	一九	二二	二二	二二	二二
恒春	三九	三七	二六	二一	一六	一四	一五	一四	一九	二二	二二	二二	二二
臺東	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
澎湖島	六	七	九	八	一〇	一〇	一〇	六	四	五	六	六	九

臺灣ノ氣候トヒリツピン竝南洋諸島トノ氣候ノ差異

臺灣ノ氣候ハ其ノ南北ニ依リ差異アルコトハ前述ノ如ク北部亞熱帶地ハ冬季ニ於テハ日本内地ノ晚春初秋ノ候ニ比スヘク南郡ハ純

熱帶地ニ類シ四季ノ差異乏シク夏季冷シク冬季モ亦夏衣袴ヲ以テ凌キ得ヘシヒリツピン島ハ南部臺灣ニ類シ雨季ハ六月ヨリ十月ニ亘リ雨量ノ多キコトハ臺灣ノ最雨量三、〇二六耗タル基隆ヲ凌駕シ四、五〇〇耗ニ及フ其ノ平均氣溫ハ八十度最モ氣溫高キハ三月ヨリ五月ニシテ最高百度ニ及フ、之レニ反シテ瓜哇ボルネオ等ニアリテハ赤道下ノ特徴氣溫トシテ四季ノ區別ナク氣溫常ニ一定シ八十四度内外ニシテ而モ夏季ハ臺灣ノ七八月ノ候ヨリモ寧ロ凌キ易シト謂フ。

南洋諸島ノ氣象並衛生狀況別表ノ如シ。

被服

一〇

軍帽

熱地ノ軍帽ハ天蓋ハ完全ニ日射ヲ遮リ烈日ノ下能ク光線ヲ防禦スルト同時ニ降雨ニ堪ヘ側方ヨリノ通氣良好ニシテ頭部ノ蒸熱ヲ防キ然モ重量輕ク著裝確實ニシテ威儀ヲ整フルコト必要ナリ。

仰々熱地軍隊ノ行動ニ際シ特ニ障碍スルモノハ喘病ナリ而シテ熱帶或ハ亞熱帶地ニアリテハ熱中症アリト雖モ熱帶地ニアリテハ日射病ニ依リテ來ルモノ又重要ナリ故ニ頭部ノ保護ニ就テハ細心ノ注意ヲ要ス然ルニ現制式軍帽ハ通氣不良ニシテ蒸熱ヲ感スルノミナラス臺灣ノ實驗ニヨレハ帽内溫度四十度ヲ超過シ項部ヲ直接日光ニ曝露シ天蓋ヨリノ透射ヲ防クコト頗ル薄弱ナリ之ニ反シヘル

メツト帽ハ顛頂部ノ空隙多ク通氣良好ナルノミナラス頂部ヲ保護シ現制軍帽ニ比シ帽内溫度平均約攝氏五度低ク日照溫ヲ感受スルコト殆ントナシ故ニ酷熱ノ下完全ニ頭部ヲ保護シ生命ノ安全ヲ計ラントセハヘルメツト帽ヲ優レリトス而シテヘルメツトハ燈芯製ヘチマ製バナマ製キルク製等各種アルモ燈芯ヘチマ製ハ降雨ニヨリテ重量ノ増減變形ヲ來シ防暑亦十分ナラス、キルク製ハ成績概シテ良好ナルモ其ノ材料ニ乏シク、バナマ製ハ重量ノ點ニ於テハ一般ニ優レルモ天蓋ヨリノ光線透射ノ缺點アリ然ルニフエルト製ハ降雨又ハ發汗ノ浸潤ニ依リテ重量ノ増減ナク乾燥時ノ重量亦比較的輕少ニシテ帽内溫度著シク低ク天蓋ヨリノ透射ヲ防キ然モ品質堅牢ナリ米國ハ熱地軍帽トシテ中折式緣廣硬羅紗製ノモノヲ採用セリ。

現制軍帽

一二

(一) 現制軍帽ノ構造ヲ變スルコトナク帽内溫度ヲ低下セシメントセハ軍帽ヲ水ニ浸シタルトキハ攝氏約三度低ク軍帽中ニ草ヲ入レルトキハ攝氏約四度低シ。

(二) 軍帽ノ鳩目ヲ大ニシ且ツ其ノ數ヲ増加シテ八箇トナシ前後左右ニ各二箇宛ヲ附着スル時ハ通氣良好トナリ帽内溫度ハ減シテ平均約三度下降ス然レトモ現制式大ノ鳩目ナル時ハ通氣ハ若干良好ナルヲ覺ユルモ前者ノ如キ顯著ナル降溫ヲ認ムル能ハス。

(三) 軍帽ニ垂布ヲ用フルハ項ヲ保護スルモ無風又ハ後方ヨリ風ノ追吹スルトキニアリテハ頸部ニ纏絡シ蒸熱ノ感ヲ増シ不良ナリ。

夏衣袴

熱地ノ衣袴ハ體溫ノ放散防暑ニ良好ナルヲ要ス。

(一) 地質 毛織ハ夏衣ノ地質トシテ良好ナレトモ薄キ爲脆弱ニシテ

洗濯頻回ノ洗濯ニ堪ヘサルノミナラス光線ノ通過ヲ許シ熱地兵卒ノ

夏衣袴トシテ使用スルハ尙研究ヲ要ス殊ニ防暑力アル稍厚キモノニアリテハ絨布ノ特性タル大涵水量ハ却テ汗ノ吸收多ク重量著シク増加シ放溫ヲ妨ケ蒸熱ヲ感セシム故ニ勞働ヲ條件トスル軍衣袴ノ地質ハ木綿又ハ麻布ヲ撰フヲ適當トシ綿麻雜織ハ兩短ヲ補ヒ最モ良好ナルカ如シ。

(二) 構造 衣袴ト地質トハ密接ノ關係ヲ有ス然レトモ夏衣ノ目的ヲ發揮セシメントセハ地質ヨリモ構造ニ重大ナル意義ヲ有ス故ニ地質良好ニシテ構造完全ナルニ於テ初メテ放溫ヲ達成シ得ヘキナリ構造ハ一般ニ寬裕ナルヲ要ス然レトモ袴ノ大ニ失スルハ發汗ニ伴ヒ股間ニ擦傷ヲ生スルノ不利アリ襟ハ折襟ヲ有利トシ平

一三

素ハ延展シテ詰襟トシ必要ニ應シ背廣服ノ如ク折返シ使用シ得
ハ便ナリ。

腋ハ窘迫スルコトナク腋下約二寸ノ所ヨリ釦鉤ノ稍上方ニ至
ル間ハ開放シ釦鉤ハ曲リ金ヲ使用スルコト便ナリ。

袖ハ寛大ニシテ換氣良ク長サハ手首ニ達セシメ袖口ヨリ五、六
寸ハ其ノ縫目ヲ縫著スルコトナク二、三箇ノ釦ヲ以テ留メ必要
ニ應シテ折返シ釦留トスル如ク製スルハ可ナリ。

袴ハ餘リ深カラサルヲ可トス腰部ノ寛裕ナルハ必要ナルモ股部
ノ寛ニ過キタルハ歩行ニ不利アリ袴ノ下端ヲ下腿ノ中央トセハ
放熱容易ニシテ防暑上有利ナリ。

被服ノ色

光線ノ豫防上何レノ色彩ヲ最良トスヘキヤハ尙研究ヲ要ス赤色或

ハ綠色ハ化學線ヲ豫防スルノ效アリト云フモ日射病ヲ發セシムル
ノ原因尙疑問ナルヲ以テ假ニ明溫線其ノ作用最モ力アルモノトセ
ハ物理的法則ニ從フ明線ノ色彩コソ豫防上ノ資ニ供スヘキモノナ
リト信ス。

抑々色彩中明線ヲ吸收スルハ黒最モ大ニ白最モ少ニ反射又ハ通過
セシムルハ白最モ大ニ黒最モ少ナリトスサレハ防暑ノ目的トシテ
ハ白必スシモ良好ニシテ黒劣等ナリト言フヘカラス黒ハ溫ノ吸收
層ヲ皮膚ヨリ遠サケ周圍氣層ニ移スト言フ點ヨリ防暑上却テ效果
大ナリト言フモノアリ化學光線ハ必スシモ物理的ノ法則ニ從フモ
ノニアラス白色ニシテ吸收スルモノ黑色ニシテ通過ヲ許スモノア
リヨードハ黑色ナルニ拘ハラス暗溫線ヲ通過スサレハ色彩ノ防暑
ニ關スルノ事項ハ尙將來ノ研究ニ俟タサルヘカラス。

襦袢袴下

一六

熱地ニ於ケル襯衣ハ專ラ汗取トシテ使用セラルル絨製品ハ最モ好適ナル襯衣ナリト雖モ兵業ノ如ク勞動大ニシテ發汗ノ爲全身水ヲ灌キタルカ如キ状態ニアリテハ絨製品ノ特性ハ消失シ抱水量ニ富ミ上衣ニ浸出スルコト木綿麻布ニ比シ遲キヲ以テ身體ト上衣トノ間ニ厚キ濕濡布ノ一層ヲ纏絡スルノ感ヲ呈シ體溫ノ放散ヲ妨クルコト大ナリ殊ニ汗ハ腰部膝部ニ滯留シ負擔量ヲ増加シ行軍力ヲ減殺ス然ルニ木綿麻布類ハ濕濡セラレ易ク而モ涵水量少ナルヲ以テ容易ニ上衣ニ徹濡シ傳導力著ク増大シ風力稍々強キトキニアリテハ體溫ヲ奪フコト一層激シキヲ以テ寧ロ快感ヲ覺エ清涼甦生ノ氣ヲ感スヘシ故ニ勞動時發汗多量ナル時ハ木綿麻布ノ缺點ハ却テ特點トナリ然モ地質薄キニモ拘ハラズ堅牢ニシテ頻回ノ洗濯ニ堪ユル

等有利ノ所尠カラス尙絨布ニアリテハ皮膚ヲ刺戟シ個人ニヨリテハ全ク連用ニ堪ヘサルト雖モ木綿麻布等ニハ全ク其ノコトナシ。臺灣ニ於ケル實驗ハ日中ハ綾織白綿布及麻布ヲ賞用シ夜ニ入り宿營地ニ到着スルカ又ハ露營スルカ如キ場合ニアリテハ必要ニ應ジ薄ネル製ノ襦袢袴下ニ交換セハ衛生上有利ナリ。

襯衣並其ノ構造

熱地夏衣袴ノ襯衣ハ汗ヲ吸收シテ速ニ外方ニ遷スト共ニ其ノ厚經重量ヲ増大スルコトナク皮膚ニ貼着セスシテ肌ニ輕ク爽快ナル感ヲ與ヘ且ツ刺戟少クシテ汗疹等ノ發生ヲ促進セサルモノヲ優良ナリトス之カ爲ニハ其ノ構造ハ相當寬裕ナルヲ要スルハ勿論地質又一定ノ厚經ヲ有シ含氣量ニ富ムモノ必要ナリ綾織、縮、網シヤツノ襯衣トシテ賞用セラル、ハ全ク之ニ基因ス。

一七

構造襦袢袴下ノ構造ハ共ニ寛裕ナルヲ要ス襦袢ハ襟ノ部分ヲ廣闊ニシ寧ロ丸襟トシテ中央釦ノ線ハ最下部迄切り離シ腋下二寸ノ所ヨリ三―四寸下方ニ至ル間ハ縫著セサルヲ可トス袖ハ筒袖トシテ釦ヲ以テ留ムルコトナク手首ヨリ約一寸位短クシ袴下モ亦足首ヨリ一寸位短クシテ下端ヲ開放シテ紐ヲ附セサルヲ可トス。

雨 覆

熱地ハ驟雨多クシテ然モ其ノ經過迅速ナルカ故ニ一時ノ驟雨ヲ凌クカ如キ單簡ナル雨覆ヲ要ス從テ地質ハ通氣ノ良否ヨリモ防水ノ完全ニシテ防水材料ノ高溫ニ對シ耐久性强力ナルヲ要ス兵卒ハ好シテ携帯天幕ヲ利用セリ。
尙土地ノ濕潤ナルト露營ノ多キ關係上露營用敷布ヲ要ス雨覆ト敷布ト天幕トニ兼用スルモノアラハ利大ナリ。

脚 胖

脚胖ハ脱著容易ニシテ靴ノ著脱又輕易自由ナラシス且濕潤ノ爲キノ重量ヲ増加セサルモノヲ良トス一般ニ麻布製ニシテ紐編上ケ式ヲ良トセリ。

靴

熱地用ノ靴トシテハ現制編上ノ他特ニ要求スヘキモノナシ只乘馬者ハ足背部ニ著シキ熱感ヲ覺ヘ不快ノ伴フコトアリ故ニ小ヨリハ相當大ナルヲ撰ミ靴下ノ厚キモノ佳良ナリ。

靴 下

靴下ハ彈性ヲ有シ強壓ヲ加フルモ多量ノ空氣ヲ含ムモノヲ以テ良トス絨製品ハ其要件ニ合ス綿ト絨トノ混合ハ堅牢ニシテ絨製ノ特性ヲ有シ頗ル可ナリ。

防蚊覆面同手套

防蚊覆面同手套ハ麻刺利亞流行地方ニ於テハ最モ必要品ナリ覆面ハ圓柱形ニシテ針金ヲ用ヒ透視シ得ル粗薄ナル麻布ニテ覆ハレ伸縮自在ナリ地質ハ麻ヲ佳トシ白色ノモノハ視力遠方ニ及ハサル關係上青色ヲ選フヲ適當トス。

手套ハ袖口ヨリ尙深ク覆フ如ク製作シ雲齊ヨリモ木綿ヲ可トシ指ハ區分シテ物ノ把握ニ便ナルヲ要ス。

背囊及背負袋

背囊ハ肩及腋下ヲ壓迫シ熱地行軍ノ服裝トシテハ適當ナラス網製ノ背囊ハ輕快ニシテ便ナリ。

背負袋ハ暑熱ヲ感スルコト比較的少シ然レトモ一方ノ肩ノミニテ支フルヲ以テ負擔ニ於テ稍平均ヲ缺クノ不利アリ防水ヲ施セルモ

ノハ汗ヲ浸徹スルコトナク頗ル可ナリ。

水筒

臺灣夏季行軍ノ一日ノ所要最大飲量約四升最小量約二升ニシテ多キハ一回ノ休止時既ニ水筒ヲ盡シ少キモ二回ノ休止時ニハ消盡スルヲ以テ午前三回午後二回ノ補充ヲ基礎トシ少クモ現制ノ二倍以上ノモノヲ適當トス。

蚊帳

覆面ハ蒸熱ヲ感シ永ク使用ニ堪ヘサルノミナラス睡眠ヲ防ケ到底蚊帳ノ使用ニ若カサルナリ故ニ野外ニアリテハ單簡携行用ノ蚊帳ヲ便ナリトス三、四人ヲ容ルヘキ圓錐形小蚊帳ニシテ頭部ヲ中心トシ菊花狀ニ就寢シ上半身ヲ蚊帳内ニ容ルルモノ竝士官下士用一人専用ノ折疊式寢臺(鐵線ヲ以テ作ル)ニ小兒用ホロ蚊帳ヲ裝置セ

ルモノハ佳良ナリ。

天幕

熱地ニ於ケル雨量ノ多キハ單ニ年間或ハ月間ニ於ケル事實ノミナ
ラス短時間ニ於ケル量ニ於テモ亦甚タ多キヲ以テ本部用トシテ方
錐形又ハ屋形天幕ヲ準備スルヲ必要トス又一般ノ天幕ニ對シテハ
防水上一層ノ顧慮ヲ要スルナリ。

糧食

氣候ニ應シテ養素ノ配合ニ變化ヲ要スヘキヤハ大ナル顧慮ヲ要セザ
ルナリ食慾ハ之カ調節ニ精確ナル尺度ヲ示シ熱帶地ニ於ケル食素ノ
配合食品ノ撰定等ハ概ネ食慾ノ示ス所ニ委セテ足レリトス天然ノ食
物モ亦此ノ要求ニ應スルカ如クニ產生セラレ寒帶不毛ノ地ニハ脂肪
ニ富メル獸類ヲ産シ三伏酷暑ノ熱帶地ニハ豊富ナル植物繁茂セリ故
ニ其ノ居住スル地域ノ物質ニヨリ生ヲ營ムノヲ以テ最モ當ヲ得タル
モノトス宜シク習慣ヲ重ンシ嗜好ヲ害セサルヲ以テ可ナリトス。

兵食

米食ハ炊爨變敗等ノ障礙アレトモ古來ノ舊習容易ニ破リ得ヘカラ
サルノミナラス米ヲ主食トスル熱帶地域ノ行動ニ當リテハ之カ利

用ハ又捨ツヘカラサルノ要件タリ臺灣陸軍兵食ハ内地軍隊ト異ナルコトナシ只主食ハ本島ノ硬精米ヲ用ヒ粘氣乏シキ爲糯精米ヲ混ス副食物亦内地ノソレト大差ナシ一般ニ汁多キ調理ヲ嗜好スルカ如シ。

臺灣米ト内地米トノ差異ヲ舉クレハ概ネ次ノ如シ。

- (1) 臺灣米ハ内地米ニ比較シ其ノ色濁リ光澤ニ乏シ。
- (2) 臺灣米ト内地米トハ化學分折上大ナル差異ナク其ノ相違ハ含有スル澱粉ノ性狀ニ基因ス。
- (3) 臺灣米ハ内地米ニ比シ煮熟ニ時間ヲ要シ煮熟後ハ粘性少キ爲冷ユルニ從ヒテ「ぼろぼろ」トナル而シテ此ノ「ぼろぼろ」トナルハ水分ノ少キ爲ニ起ルモノニアラス。
- (4) 炊爨ニ際シ臺灣米ハ内地米ニ比シ多量ノ水分ヲ要シ煮熟後ノ容積

ハ前者ハ後者ニ比シ三割以上増加ス故ニ同一容積ノ温飯ニ於テハ臺灣米ハ内地米ヨリ其ノ實質少量ナリ是レ臺灣米ノ消化速カナリト稱セラルル所以ナリ。

行 厨

行厨ノ炊爨及携行ニ就テハ研究ヲ要スル點寡カラス特ニ熱帶及亞熱帶地ノ如ク變敗シ易キ地ニ在リテハ一層此ノ感ヲ深フス。

一炊爨法

炊爨ハ狀況ニヨリ合同ヲ利トスルコトアリ或ハ否ラサルコトアリ良水ヲ得難キ地ニアリテハ合同炊爨ニ依ルヲ可トシ水ヲ得易ク交通不便ナル地方ニアリテハ各箇炊爨ニヨルヲ有利トス然レトモ變敗ヲ考慮スル時ハ各箇炊爨最モ可良ニシテ米麥ノ淘洗充分ニ炊爨容易ナルト分配ニ際シ變敗ノ誘起物ヲ混合スルノ慮少キトニ因リ

飯盒炊爨ハ平釜炊爨ヨリ變敗ニ對シ約三時間ノ耐久性ヲ延長ス米
麥淘洗ノ良否又變敗ニ關係アリ良好ナルハ淘洗ノ不良ナルモノヨ
リ約二時間ノ耐久性ヲ増加ス米麥ハ各別ニ洗滌シ洗水ノ白濁ヲ呈
スルコトナキニ至リテ止ミ水ヲ切り混スルヲ良トス而シテ洗滌ノ
時機ハ炊爨前ニ近キモノ耐久性長ク九時間前ノモノニ比シ約一時
間ノ差異アリ。

飯ヲ炊クニ際シ水加減ハ極メテ重要ナリ臺灣米ハ水ヲ吸收スルコ
ト多シ水質及火力等ニヨリテ差異アレトモ米麥一ニ對シ一・五乃
至二・〇倍ノ水量ヲ以テ最モ適當トス軟飯ハ硬飯ニ比シ變敗ノ程
度著シ米麥飯ハ米飯ニ比シ變敗シ易シ米麥飯ハ直射溫華氏百十度
ノ作用ヲ受ケ炊爨後約八時間ニシテ變敗シ米飯ハ約十時間ヲ經テ
變敗セリ。

醋酸加炊爨法並梅干混入ノ方法

○・二乃至○・三%ノ醋酸ニテ炊キタル飯ハ酸臭酸味ヲ呈シ飯粒粗
トナリ粘靱性ヲ損スト雖著シク耐久力ヲ増加シ普通米飯ノ約二倍
ノ時間ヲ保チ得○・二%醋酸水ヲ以テ炊キタルモノハ強酸性ヲ呈
シ酸味微弱ニシテ味ヲ損スルコト少ク耐久性又可ナリ然レトモ其
ノ味ハ腐敗ニ依ル酸味ト誤解セラル○・二%ノモノハ酸味強キヲ
以テ此ノ誤ハ避ケ得ルモ飯盒ヲ腐蝕シ酸味ヲ放チ嗜好ニ悖ルノ嫌
アリ食鹽ヲ混入スルハ多少腐敗期ヲ遅クスルモ渴ヲ覺ユルコト甚
タシキヲ以テ夏期ノ行軍ニ適セス梅干ヲ一食ニツキ二―三箇ノ割
合ニ混シ炊爨シタルモノハ僅ニ紅色ヲ呈シ酸味ナク然カモ耐久性
ハ醋酸ニ及ハサルモ普通飯ニ比較スレハ約五時間ノ耐久性ヲ増加
シ行厨用トシテ便ナリ然レトモ飯盒炊爨ニ限り使用スヘキモノト

ス梅干ヲ飯ニ入レ「むすび」トセルハ普通食ニ比シ約三時間ノ耐久
性ヲ増加スルモ醋酸又ハ梅干ヲ加ヘテ炊爨シタルモノニ劣レリ梅
干ヲ行厨ニ入ルルニハ其ノ位置ヲ可成器底ニ近クシニ食分ニアリ
テハ中央ニ入ルルヲ可トス。

飯ニ食酢ヲ混シタルモノハ醋酸ノ如ク不快ノ味ナク其ノ耐久力ハ
梅干ヲ炊爨後入レタルモノト殆ント相同シ。

一般ニ炊爨ハ軍隊行動上前夜ニ於テ終了シアラサルヘカラス而シ
テ米麥飯ハ日射温百十度ノ下約八時間ノ耐久性ヲ有スレトモ夜間
ヨリ翌日ニ互リ携行スルトキニアリテハ最大限十八時間ノ耐久性
アリ故ニ如何ナル氣温ニアリテモ前夜炊爨セルモノヲ翌日ノ行動
ニ用ヒントセハ晝食ヲ以テ限度トス臺灣ノ行軍ニ於テ日射猛烈ナ
ルカ炊爨携行等其ノ當ヲ得サル時ニアリテハ晝食ニシテ己ニ臭氣

ヲ發スルコト屢々ナリ故ニ熱地行厨ハ何レカノ防腐法ヲ講スルヲ
以テ最モ安全ノ策ナリトス。

即チ炊爨ハ飯盒炊爨最モ佳ナリ米麥ノ洗淘ハ充分ナルヲ要ス洗淘
ハ炊爨直前ニ近キヲ可トシ硬キ飯ニシテ米飯ノミヲ宜シトス。

合同炊爨ニアリテハ腐敗ヲ防カントセハ炊爨後梅干ヲ一食ニ二三
筒入ルルカ又ハ食酢ヲ一食ニ五瓦入ルルヲ可トス醋酸ハ米一斗ニ
就キ七〇瓦(約四勺)ヲ用フレハ可ナリ飯盒炊爨ニハ一食ニ就キ梅
干二―三筒ヲ入レ炊爨スルヲ可トス。

二 容 器

容器トシテ飯盒飯骨柳飯包布ノ三種アリ飯骨柳ハ飯盒ニ比較シ
(日射約百十度)前者ハ炊爨後約十時間ニシテ變敗シタルニ後者ハ
既ニ約八時間ニシテ變敗セリ飯包布ハ飯骨柳ト略相同シキモ異臭

アリテ嗜好ヲ損ス故ニ容器ハ飯盒又ハ飯骨柳ヲ適當トス飯盒ノ不利次ノ如シ。

(1) 温飯ヲ盛ルヤ水蒸汽盒ノ裏面ニ鬱滯シ水滴トナリ内壁ニ沿フテ流下シ飯ヲ濕シ此部ヨリ發臭腐敗ヲ始ム。

(2) 盒ハ極メテ導温シ易ク冷熱共ニ速ニ影響スルヲ以テ飯ノ變敗スルコト比較的早シ且外氣トノ交通不良ナルヲ以テ一旦變敗ニ傾ク時ハ速ニ其度ヲ高ム。

飯盒ノ利トスル所次ノ如シ。

(1) 主食ト副食食物トヲ區分スルヲ以テ之ヲ混同スルモノニ比シ變敗ニ陥ルコト遅シ。

(2) 熱帶地ノ驟雨ニ際シ雨水浸入ノ虞ナシ。

容器ノ缺クヘカラサル要件ハ洗滌乾燥ニ在リ洗滌ハ生水ヨリモ

熱湯ヲ効多シトス乾燥ハ火力ヲ用ユルコト必要ナリ故ニ晝食後ハ直ニ洗滌シ能ク乾燥セシムヘシ乾燥十分ナル容器ハ濕潤シタルモノニ比較シ約三時間ノ耐久力ヲ延長ス。

三盛リ方

適度ニ冷ユルヲ待チテ充填携行スヘク飯盒炊爨ニアリテハ飯ノ冷

ユル迄蒸汽ヲ逸散セシメ水滴ヲ飯内ニ流下セシメサル如クシ一度盛リタルモノハ内容ヲ攪拌セサルヲ要ス副食ハ主食ト區分シ携行スヘシ二食分ヲ盛ルニ當リ變敗ノ豫防上盛リ方ニ三種アリ。

第一、二人共同シテ二食分ヲ一飯盒ニ收ム。

第二、二食分ノ内晝食ハ乾燥清潔ナル飯骨柳ニ收メ飯盒ノモノヲ

朝食ニ充ツ。

第三、二食中一半ヲ朝食トシ殘餘ヲ晝食ニ充ツ。

三種中飯盒炊爨ニアリテ内容ヲ攪拌セスシテ其ノ儘携行シ得ルヲ以テ第一法最モ良好ニ合同炊爨ニテハ第二法最モ有利ナリ第三法ハ容器一箇ノ利アルモ朝食ノ際自然晝食ヲ攪拌シ腐敗ノ動機ヲ與フルノ不利アリ。

飯盒炊爨ニ際シ一食ハ袋ニ收メテ炊爨シ朝食ニ當テ残りヲ晝食ニ充ツルノ方法ハ攪拌セサルヲ以テ有利ナリ。

四携行法

行厨ハ直射日光ニ曝露セシメサルヲ最モ必要トス百十度ノ直射温ニ照ラサルコト二時間多ケレハ變敗スルコト八時間速ナリ携行部位ハ背囊外部ニ装着シ日光ノ曝露ヲ避クルコトヲ得ハ最モ良好ナリトス即チ木葉綠草又ハ厚絨日布ヲ以テ被ヒ休憩時ハ飯盒ヲ相面シテ背囊ヲ組合セ或ハ蔭影地ヲ撰ミ以テ直射ヲ豫防スルヲ可ト

ス。

五喫食時

出發早キ時ハ朝食ヲ二回ニ分食セシムルヲ有利トス之レ夏期行軍中最モ恐ルヘキ喝病ハ往々空腹ニ因スルヲ以テナリ即チ出發前朝食ノ一半ヲ出發後二三時間ヲ經テ更ニ殘餘ヲ喫セシム然レトモ又出發前喫食セシメス出發一二時間後ニ於テ全部ヲ喫セシムル時ハ大ニ空腹ノ感ヲ緩和セシムルヲ得ヘシ一般ニ午前中間食ヲ給スル場合ニアリテハ出發前半食分ヲ行軍二三時間後ニ於テ殘餘ヲ喫セシメ間食ナキ場合ニ於テハ出發一二時間ノ後一回ニ全量ヲ喫セシムルヲ可トス。

晝食ハ一回ニ全量ヲ喫セシムルヲ可トス若シ一回ノ定食ヲ二回ニ分食セシメンカ空腹ノ感ヲ癒スルコト能ハサルノミナラス其ノ殘

餘ハ變敗スルノ虞アリ又一回ニ喫食スレハ容器ヲ洗滌乾燥シ翌日ノ使用ニ便ナリ副食物ハ腐敗シ易カラス且食慾ヲ亢進セシムルモノナルヲ要ス即チ水分ヲ避ケ砂糖醬油等調味料ヲ豊富ニシカレー粉、胡椒生姜胡麻等ノ刺戟物ヲ適當ニ使用スルヲ可トス故ニ晝食トシテハ佃煮、梅干、薤漬、芥子漬、鹽鮭、鹽昆布、福神漬、奈良漬、金山寺味噌、鐵火味噌等ヲ選ミ朝ハ味噌汁、漬物、醬油汁等ヲ選ミ夕ハ味噌煮、薩摩汁、煮附(鶏肉、生魚、野菜類)等ヲ賞用スヘシ罐詰ハ田麩類、魚類、獸肉類等何レモ可ナルモ豫メ検査ヲ遂ケ且時々品ヲ換ヘテ給スルヲ適當トス胡麻鹽ヲ分隊毎ニ携行シテ有効ナリシ事例アリ。

間食

常食一食分ハ行軍四五時間ニシテ既ニ空腹ヲ感シ疲勢ヲ倍シ喝病

發生ノ因トナルサレハ熱帶地ニ於テハ行軍或ハ演習時間ノ長短ニヨリ一日一回乃至二回ノ間食給與ハ極メテ必要ナルコトナリトス而シテ間食ハ蛋白食カ含水炭素食カニ就テハ行軍時糖ノ加給ハ行軍ノ進行ニ伴ヒ體內ニ於ケル燃燒作用異常ニ亢進シ發温量ノ過剩トナリ反ツテ喝病發生ヲ誘發スルノ虞アリト云フモ一般ニ炎暑ノ行軍ニアリテハ水分多キ粥汁又ハ喝ヲ起ササル砂糖湯氷砂糖飴ノ製品砂糖餅葛湯ノ類ヲ好ミ乾麩麩ハ間食トシテ使用スルモ喝ヲ來スノ不利アリ鶏卵肉團子等ハ未タ好ミタルコトナシ粥汁ヲ間食ニ使用スルニハ一人一回分ヲ大凡米四勺トシ水一斗ニ對シ米一升ノ割合ヲ以テ調理スヘシ一人約二・四合ニ相當ス而シテ之ニ少量ノ鹽ヲ加フ其ノ他渴ヲ醫スルニ芭蕉柑橘類アリ甘蔗又絶好ノ消渴料タリ臺灣ノ土人ハ炎熱夏日ノ下能ク久シキ劇動ニ堪ヘ常習トシテ

時々好シテ麵類又ハ米粥ノ如キ液分及甘味ニ富メル含水炭素間食ヲ嗜好ス。

水

水ノ需用 氣溫高キニ從ヒ多量ノ水ヲ要ス水道ノ使用水量ハ一人一日三立方尺(約四斗七升即チ二十ガロン)ヲ標準トスレトモ實際スル量ニテハ十分ナラス紐育市ニ於テハ一〇〇ガロン巴里市五三ガロン倫敦市四二ガロン伯林一八ガロンヲ算ス宿營行軍ニ際シ通常一人一日ニ要スル量ハ約三〇リートル以内トシ止ムヲ得サレハ約六リートルヲ標準トス。
病院ニアリテハ一人一日三〇〇リートル以上ノ水ヲ要シ馬一頭ニ就テハ約五〇リートルノ水ヲ要ス。
行軍中ノ飲用水 熱地軍隊ノ行動ニ際シ緊要缺クヘカラサルモノハ給水ナリ若シ給水ニシテ缺クル所アランカ戦闘ヲ開始セサルニ先

チテ著シク諸般ノ行動ヲ制肘セラルヘシ熱地ハ水質一般ニ不良ニシテ水量ニ乏シク殊ニ乾燥期ニ至ラハ水量著シク減シ河水ハ乾涸シテ僅ニ細流ヲ殘シ點在セル村落ハ一、二ノ堀井ヲ有スルニ過キサルヲ以テ勢ヒ池沼ノ水ヲ求メサルヘカラス茲ニ於テカ短時間ニシテ多量ノ飲料水ヲ得ヘキ濾過滅菌法ヲ講スルノ必要ヲ生ス一方又熱地露營地ノ撰定ハ冷涼竝防蚊ノ關係上專ラ高燥ノ地ヲ要件トスルヲ以テ給水ノ利ト相反スルコト多シ臺灣ニ於テハ軍隊ノ演習行軍ニ際シテハ豫メ地方官憲ニ依頼シ數日前ヨリ沈澱濾過シテ蓄水スルカ或ハ地方人ヲシテ遠方ヨリ運搬セシメ軍隊ノ行ク所先ツ運搬苦力ノ蝟集スル奇觀ヲ呈ス斯ノ如キコトハ到底戰時ニ於テ要求シ得ヘキ限リニアラサルヲ以テ熱帶亞熱帶地作戰ニ於ケル給水ノ方法ハ平時周密ナル研究ヲ要ス而シテ現今使用スル沸水車ハ其

ノ容量甚タ少ニシテ所要ノ幾分ヲモ補給シ得サルノミナラス道路不良ナルトキハ軍隊ノ追從ニ頗ル不便ヲ感ス故ニ行軍時ニ於テハ英國印度軍隊ノ夫レノ如ク馱馬(牛或ハ水牛)ニヨリテ水ヲ携行スル如キ手段ヲ講ス可キナリ。

臺灣ニ於テ夏季行軍間ノ需水量ヲ調査セルニ一日一人最多水筒十二本約四升最少四本一升三合ニシテ平均二升餘ニ相當ス又湯茶ノ供給時刻ハ早朝ノ出發ニアリテハ午前八時頃迄ニ殆ント補給ノ必要ナキモ其レヨリ午後四時頃迄ハ每一時間ニ大凡一本ノ水筒ヲ要シ爾後行軍ヲ續行セハ六吉米突毎ニ尙水筒一本宛ヲ與フルノ要アリ而シテ晝食時ニアリテハ水筒約三本(約一升)ヲ要ス水ノ需用量ハ風力氣溫濕度演習ノ狀況其ノ他個人ノ體質及習慣ニヨリ著シク差異アレトモ運動ト需水量トハ常ニ相比例スルモノトス。

淨水法 野外ニ於ケル淨水法ハ種々アレトモ現今實際ニ適セルモノ

ハ藥品ノ注加濾過煮沸ノ三トス此ノ他オゾン紫外線等ノ方法アレトモ濁レル水ニハ殺菌作用乏シク装置モ亦適當ナラサル等實地ノ使用ニ不便ナリ。

(1) 藥品ハ過マンガン酸並ニ過酸化鹽等使用スレトモ明礬クロール石灰最モ稱用セラル明礬ハ粉末又ハ水溶液トシ濁水ニ加ヘ充分攪拌スヘシ其ノ使用量ハ濁濁ノ度ニ應シ差異アルモ通常水二斗ニ對シ一匁―四匁(約四―一六瓦)ニテ可ナリ明礬ヲ冷水ニ加フレハ清澄ニ至ル迄約一時間ヲ要スレトモ煮沸シツツ加フレハ約十分ニシテ清澄トナル而シテ清澄ニ時間ヲ費スモ差支ヘナキ時ハ水二斗ニ對シ明礬〇・一匁―〇・三匁(〇・四―一・二瓦)ヲ加ヘ十分ニ攪拌シ放置シ置クヘシ又明礬ニヨル水ノ味ヲ矯正センニ

ハ最初ヨリ之ニ重碳酸曹達ヲ加フレハ可ナリ。

(2) 煮沸ハ滅菌ノ効他ニ卓越セリ濁濁ヲ除去スル目的ヨリ主トシテ明礬清澄法ト併用セラル平時軍隊行軍ニ際シ最モ使用セラルルモノナリ只清涼ノ味ヲ損スルヲ以テ茶又煎麥ヲ加ヘテ風味ヲ與フ獨逸ニハ此ノ缺點ヲ補フト共ニ煮沸水ハ冷却器ヲ通過シテ煮沸ト冷却トニ便ナル装置ヲ有スル濾過器アレトモ我國ニハ未タ採用スルニ到ラス然レトモ熱地ニ於テハ清冷ノ味ヲ加フルニアラサレハ好ンテ生水ヲ求ムルノ恐レ多シ宜シク壓搾炭酸瓦斯等ヲ以テ冷味ヲ加フルヲ可トス。

(3) クロール石灰ハ一斗ノ水ニ一〇瓦ヲ混和シ同時ニ少許ノ鹽酸ヲ加ヘ充分ニ攪拌シ一・三十分作用シタル後濾過後相當ノ重曹ヲ混スレハ不快ナル味覺ヲ去ルヘシ明礬ト異リ消毒ノ効ヲ有ス。

クロール石灰混入後次亞硫酸曹達ヲ加ヘテ過剩ノクロールヲ除去スルモ可ナリ。

(4) シュムブルグ氏ハ一立ノ水ニ左ノ溶液〇・二ガヲ加フ。

水 一〇〇〇〇

臭素 二〇〇〇

臭素加里 二〇〇〇

後アンモニア水又ハ亞硫酸曹達炭酸曹達ノ合劑ヲ以テ中和スヘシ。

(5) 岡崎式濾水器ハ明礬清澄法ト濾過法トヲ併用シタルモノナリ。

本濾過法沈澄藥トシテ明礬ヲ使用スルノ他ニクロール石灰ヲ併用スレハ同時ニ消毒ノ作用ヲナシ一舉兩得ナルヲ得ヘシ。

(6) 石地式濾水器ハ過マンガン酸加里ト明礬トヲ併用シタルモノニ

シテ水一立ニ甲劑(過マンガン酸加里明礬及陶土) 一・三瓦ヲ入

レ攪拌シ水ノ紅色ヲナシタルトキ乙劑(單寧酸鹽酸及陶土) 一・

三瓦ヲ入レ攪拌シ脱色シタル後ズツク製ノ濾水器ヲ以テ濾過スルモノナリ。

生地ニ於ケル水ノ探索 生地ニ行動シテ水ノ存在ヲ發見シ或ハ速ニ

之ヲ得ントスルニハ次ノ各項ニ注意スルヲ緊要トス。

(一) 平地ニアリテハ一般ニ尋常平面ヨリ低ク見ユル所ニ著眼シ殊ニ

最モ多ク青草ヲ被レル地ハ最モ表面下ニ近ク水ヲ所有ス。

(二) 乾燥セル平砂地ニアリテハ曉霧ノ多キ地點若クハ昆虫群集スル

トキハ下部ニ水アルヲ證ス。

(三) 海ノ近邊ハ通常水ヲ存ス假令海ニ接近スル所ト雖モ淡水高地ヨ

リ流下シテ潮水ノ浸入ヲ防ク時ハ淡水ヲ存ス。

(四) 山中ニテ水ヲ得ントスルニハ山麓殊ニ其ノ最モ低キ處ニ井ヲ堀
ニルヘシ決シテ山ノ嘴端ニ堀ルヘカラス。

(五) 溪谷ニアリテハ二長溪谷ノ湊會點就中其ノ狹窄セル所ハ常ニ水
ニ得ヘシ。

其ノ他行進間目的地ノ水ノ有無其ノ水量水質ヲ知ラン爲衛生部員
ノ屢々先行スルコトアリ然ルトキハ隊ノ到着前水ノ存在ヲ察知シ
現場ニ臨檢シテ涌出量及良否ヲ定メ炊事場ト馬繫場トヲ區分シ洗
濯所ヲ撰定シ若シ泉源一ナレハ數個ノ貯水場ヲ設ケ一流ノ河川ナ
レハ數箇所ヲ撰ミテ人ノ飲料水ハ最上流ニ洗濯所ハ最下流ニ定メ
哨兵ヲシテ監守セシムヘシ。

行 軍

近寒炎熱共ニ軍隊ノ行軍戰鬥能力ヲ減殺セル事例寡ナカラス而シテ
炎熱ノ軍隊ヲ侵害スル寧ロ近寒ニ優ルモノアリ故ニ指揮官ハ常ニ周
密ナル注意ヲ拂ヒ以テ慘害ヲ未然ニ防カサルヘカラス。

其ノ一 熱帶地ノ行軍ニ於ケル體溫脈搏

一體溫 劇動ニ伴ヒ一過性ニ體溫ノ昇騰スルハ健康者ニ顯ハルルノ
現象ニシテ臺灣夏季行軍ニ於テ體溫三十八度以上ヲ示スモノハ注
意ヲ要シ腸病ヲ發スルトキハ三十八度—四十度ニ昇リ就中三十九
度ノモノ最モ多シ。

一脈搏 脈搏ハ體溫ト異リ箇人ニヨリテ其ノ増減ニ著シキ差異アレ
トモ百以上ノ脈搏持續者ハ相當ノ注意ヲ要ス。

脈搏増加ハ行軍ニ移レル二十分乃至二十五分ニシテ畧最高度ニ達シ爾後同一狀況ノ持續スル間ハ著シキ變化ナシ然レトモ隊伍ニ後レ之ニ追及セントシテ歩度ヲ増加スル時ハ僅ニ五十米突ニシテ脈搏數急ニ増加シ爾後休憩時迄同數ヲ持續スルモノナリ而シテ回復ハ個人ニヨリ差異アリト雖行軍距離ノ進ムニ從ヒ時間延長シ一度百以上ニ達シタル脈搏ハ八十六度以上ノ氣溫ニアリテハ三十分餘ノ休憩ニアリテモ平脈ニ復スルコト困難ナリ又脈搏回復ノ狀況ハ休憩後十分間ハ比較的迅速ナレトモ爾後ノ十分ハ比較的顯著ナラズ脈性ハ通常變化ヲ認メサルモ疲勞漸ク加ハルトキハ重復脈ヲ呈スルコトアリ呼吸數亦常ニ脈搏ニ伴ヒ増加ス。

其ノ二 熱帶地及亞熱帶地ニ於ケル行軍

一 氣象ト行程トノ關係

氣溫及溫度ノ上昇ハ一日ノ行程ヲ減縮ス臺灣ニ於テ氣溫華氏八十六度(行軍間列中ニ於テ計測セルモノ)迄ハ一時間一里ノ割合ヲ以テ行進シ得ルモ九十七度ニ近ツク時ハ行程約二分ノ一ニ減ス一般ニ行程ハ氣溫濕度風ノ有無地形ノ難易陰影ノ存否ニ應シ定ムルヲ要ス。

二 出發時刻

行軍ノ目的一日ノ行程天候等ニヨリ出發時刻ニ差異アルモ拂曉後一時間ヲ適當トナス蓋シ出發時ヲ天明ニ選定スルハ炎暑ヲ避ケ行軍ニ利アルカ如キモ之ヲ一時間延シタルモノニ比シ行程ニ於テ一里内外ノ相違ニシテ之カ勞力減耗ハ睡眠時間ノ不足ヨリ生シタル勞力消費ト相償ハス寧ロ睡眠不足ニヨリテ起ル危害ハ行軍力ニ超越スルコト頗ル大ナリ臺灣ニ於ケル夏季行軍ノ實驗ニヨレハ日沒

後ト雖炎暑尙烈シク假令臥床スルモ午後九時以後ニアラサレハ就眠スルコト能ハス午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ハ最モ熟睡シテ克ク前日ノ疲勞ヲ恢復シ得ルノ時ナリ故ニ拂曉約一時間後ニ出發セシムル時ハ最良ノ睡眠時間ヲ妨クルコト少ク起床モ亦略拂曉後ナルヲ以テ武裝其ノ他ノ動作ニモ便多シ。

歩砲兵隊ニ於テ起床後出發迄ノ時間ヲ細分スレハ次ノ如シ。

二 歩兵ノ起床後服裝ヲ整ヘ洗面シ及朝食ノ準備 約十五分

宿營地整理後武裝ヲ整ヘ中隊集合ニ至ル迄 約十五分

人員點檢軍裝檢査注意後大隊集合迄 約十五分

大隊集合シテ諸報告ヲ受ケ支隊集合迄 約十分

支隊集合ニ於テ所要報告ヲ受ケ出發迄 約十分

計 約一時三十分

砲兵隊ノ起床ヨリ出發マテ要スヘキ時間

起床ヨリ砲廠集合迄 約一時三十分

砲廠集合ヨリ支隊集合位置ニ至ル爲 約三十分

計 約二時間

三 宿營地到着時刻

戰鬪上ノ顧慮少ナキトキハ宿營地到着時刻ハ日没前一時間乃至二時間ナルヲ要ス之レ着營後ハ出發前ニ比シ業務多ク武器被服ノ手

入宿營地ノ地形認識炊事場集合場所等ノ位置之ニ通スル道路各箇炊爨ニアリテハ炊事ニ要スル準備、堀井ノ位置材料ノ分配等最小限一時間ヲ要シ尙幹部ノ注意入浴炊爨食事等熟練シタル兵卒ニアリテモ三時間半ヲ要ス故ニ此業務ノ約三分ノ二ヲ日没前ニ結了シアルハ有利ナリ歩兵隊ニ於テ著營後就眠迄ノ時間ヲ細分スレハ

次ノ如シ。

五〇

宿營ニ關スル命令注意ノ下達

約三十分

兵器及被服ノ手入宿營設備入浴若クハ全身

約四時間

拭淨炊爨食事後ノ始末等

四一日ノ行程及行軍速度

炎熱時ニ於テハ平均一里ノ行進ニ一時三十分ヲ要シ連日行軍ヲ續行スル時ハ一日ノ平均行程ハ六里ヲ標準トス則チ臺灣ノ夏期行軍ニ於テ大正五年ニハ一里ノ行進ニ平均一時三十分ヲ要シ同六年ニハ一時三十六分同七年ニハ一時二十九分同八年ニハ一時三十分ヲ要セリ又時間ニヨリテ配當スレハ二十四時間中七時間ハ出發準備宿營設備並雜務八時間ハ睡眠時間以上ヲ控除シタル九時間ハ行軍ニ使用シ得ヘキ時間ニシテ一里ニ一時間三十分ヲ要スルモノトス

レハ恰モ一日ノ行程六里ニ當ルヘシ。

五行軍隊形

行軍間ノ隊形ハ戰術上ノ顧慮ノ外道路ノ景況天候殊ニ氣温及部隊ノ大小等ニヨリ異ナレリト雖モ炎熱時ノ行軍ハ成ル可ク隊形ヲ疎開シ通氣ヲ好クスルヲ要ス然レトモ伍間ノ距離ハ延長スルヲ避クヘシ之レ群集心理上却テ兵ノ持久力ヲ失ヒ行軍力ヲ減殺シ疲勞ヲ增加スルヲ以テナリ故ニ道路ノ狀況ニ應シ二列行進ハ左右ニ開キ三列ハ一列ト二列ニ分チ四列ハ二列宛亦左右ニ分チ以テ通風ヲ能クスルヲ可トス而シテ通常大部隊ニアリテハ三列側面小部隊ハ二列側面ヲ取リ砂塵飛揚スレハ中隊間約百米突小隊間約二十米突ヲ隔ツルヲ適當トス。

六休憩地ノ選定休憩時間

五一

炎熱時ノ行軍ニアリテハ體温ノ放散及給水ノ爲メ兵ノ疲勞如何ニ拘ハラス休憩ヲ行フヲ有利トス休憩地ハ樹陰廣ク日光ノ直射ヲ遮リ通風良好ニシテ清涼ナル水ヲ得ヘキ地點ヲ適當トス休憩時間ハ主トシテ氣温ニ關シ夏季ト雖午前八時乃至九時ニ至ル間ハ概ネ八十六度以下ナルヲ以テ十分乃至十五分ノ休憩ニテ足り時ノ移ルニ從ヒ氣温漸次昇騰シ午後五時乃至六時ニ至ル迄ハ八十六度以上ニ昇ルコト多キヲ以テ三十分若クハ四十分ノ行軍後一回ノ小休止ヲ行フ而シテ小休止ハ少クモ二十分氣温ノ狀況ニヨリテハ三十分ヲ要ス則チ華氏八十六度以下ニアリテハ概ネ一時間ニ一里ノ率ヲ以テ行軍ヲ續行シ得ルト雖八十六度ヲ超ユル時ハ行軍時間ヲ減シテ休憩時間ヲ増加シ行軍四十分ニ二十分ノ休憩ヲ行ヒ日照温百四度氣温九十度ヲ超ユルトキハ三十分ノ行軍ニ三十分餘ノ休憩ヲナサ

サルヘカラス故ニ一日間ノ最高温ヲ示ス午前十一時ヨリ午後三時ニ互ル時ニ於テ大休止ヲ行ヒ此ノ機ヲ以テ睡眠ヲ行ハシメ氣力體力ノ減耗ヲ豫防セバ利スル所大ナリ然レトモ宿營地ノ出發ヲ早メ到著ヲ遅延セシムルノ不利アルカ故ニ數日續行スル時ニアリテハ睡眠狀態平素ト異リ累加的ニ行軍力ノ減耗ヲ來スヲ以テ狀況ニ應シ適宜取捨スルコト緊要ナリ軍隊休憩セハ裝具上衣卷脚絆及靴ヲ脱セシムルニ三分ヲ要シ出發準備ニハ四分ヲ要ス其他湯茶ノ補充體力恢復ニ要スル時間ヲ算スレハ少クモ三十分間ノ休憩ニアラサレハ其ノ效乏シ然レトモ狀況ニヨリ休憩短時間ニ止ル時ハ單ニ上衣ノ卸ヲ脱シ帶革ヲ解キ涼ヲ納レ體温放散ヲ計ルヲ要ス何レノ場合ヲ問ハス休憩中單獨ニテ隊ヲ去ルヲ宥スヘカラス休憩時ニ於テ喝病ヲ發スルモノ比較的多キヲ以テナリ。

七夜 行軍

五四

夜行軍ハ晝行軍ニ比シ兵卒ノ睡眠時間ヲ減シ疲勞ヲ大ナラシムルノ害ハ喋々スルヲ要セス然レトモ氣溫華氏九十度日射溫百四度内外以上ニ達シ然モ無風ニシテ連日行軍ヲ續行スル場合ニアリテハ炎熱ノ時ヲ避ケ夜行軍ヲ撰ムヲ適當トス而シテ夜行軍ニ於テ比較的苦痛大ナルハ夜間ノ行軍ニアラスシテ翌朝日出後ニ於ケル行軍ナリトス故ニ成ルヘク日出後ノ行軍竝晚涼トナラサル以前ノ出發ヲ避ケ過早ノ疲勞ヲ招クノ害ヲ戒メサルヘカテス。

熱地夜半ノ溫度ハ比較的高クシテ寒胃ニ冒サルルカ如キ虞ナシト雖蚊軍ノ爲メニマラリアノ因ヲ作ルヲ虞ル。

夜行軍ノ速度ハ晝間ニ比シ稍歩幅及度ヲ減シ通常三千米突テ五十分トスルヲ適當トス休止時間ハ最大限十分乃至十五分ニ止メ要ス

レハ寧ロ大休止ヲ有利トス是レ夜間ニアリテハ體溫ノ放散迅速ナルト體力ノ恢復速カナルト休止永キニ互ルトキハ假眠ニ陥リ蚊族襲來ニヨルノ危險大ナルト一方睡眠ノ爲爾後ノ行軍氣勢ヲ減殺スルノ不利アルヲ以テナリ休憩地ハ地形ノ認識困難ナルヲ以テ又銃ヲ確實安定ナラシメ迅速ニ休憩ニ轉センカ爲メニハ平坦地ヲ可トス殊ニ熱帶地ニ於テハ毒蛇ノ害ハ夜間特ニ多キヲ以テ之カ危害ニ近カラシメサルノ注意又必要ナリ夜間休憩ニ轉スルヤ直ニ睡眠ヲ貪リ熟睡ニ陥リ部隊出發ヲモ心付カサルコトアリ故ニ遠方ニ離隔セシメサルヲ要ス。

八宿 營

舍營ト露營ト一般の利害ニ就テ陣中要務令中示セルノ原則ハ熱地ニアリテモ適用シ得ヘシト雖モ普通ノ土人家屋タルヤ狹隘不潔ニ

五五

シテ通氣竝ニ光線ノ射入極メテ不良ナルヲ以テ突然軍隊ヲ家屋内ニ舍營セシムルコトハ頗ル困難ナリトス殊ニ通氣不良ノ爲メ暑氣烈シク安眠頗ル困難ナリ故ニ降雨ナキ場合ニアリテハ野外ニ於ケル涼味多キ高燥ニシテ通氣十分ナル土地ノ露營ニ優ルモノナシ臺灣ニ於テ宿營スル場合ハ殆ント地方ノ學校大會社ノ社宅警官駐劄所宿舍等ヲ應用スルヲ常トシ土人家屋ハ一戸ニ中央ノ土間ヲ應用スルモ僅カニ二三名ヲ宿營セシムルニ過キス且蚊帳ヲ懸吊スルニ不便ニシテ動モスレハ行軍途中等ニアリテハ蚊帳ヲ使用シ難クマラリア感染ノ機會ヲ與ヘタル實例多シ。

虎列刺

流行

病源地ハ南洋及印度地方ニシテ歐洲ニハ數回ノ大流行アリ我カ國船ニハ殆ント毎年支那、南洋諸島ノ交通ニヨリ開港地ニ輸入シ次テ國內ニ傳播ス。

症 狀

潜伏期ハ一—三日トス。

(1) 輕症 數回ノ下痢、惡心、腹痛、全身倦怠、四肢厥冷、尿量減少等(虎列刺下痢)トス。

(2) 中等症 下痢増加(米泔汁様便)劇シキ嘔吐、口渴衰弱増進甚シキ四肢厥冷腓腸筋ノ攣縮、脈搏細小頻數、尿量減退、蛋白ヲ證

明ス。

(3)重症 米泔汁様便、衰弱顯著、嘔吐、口渴、口唇及爪甲等チ
アノーゼ皮膚蒼白厥冷、彈力消失、眼窩陷沒、眼瞼半開顴骨及
鼻渠尖起(虎列刺顔)聲音嘎嘶脈搏細小或ハ絶脈尿量減少尿閉心
尖第一音ノ幽微(假死状態)トス。

最重症ハ吐瀉ナクシテ劇烈ナル虎列刺毒素ノ中毒ニヨリ致死ス
ルアリ(乾性虎列刺)

豫後

流行時ニヨリ差アリ初期ニハ死亡率多ク末期ニ至ルニ從ヒ減少ス
最モ多キハ發病後一二日ナリ(日本六〇—七〇%)コレラチフオイ
ド或ハ續發症ノタメ死亡スルモノ尠カラス。

診斷

初發患者ノ診斷ハ迅速ニシテ慎重ナルヲ要ス臨床症狀ノ他診斷ノ
確定ニハ吐瀉物、糞便ヨリ細菌ノ檢出トス(傳染病及食中毒症細
菌學的檢査法參照)

療法

水分脱脚ヲ補充シ毒素ノ排除ヲ計リ過酸症ヲ呈スルヲ以テアルカ
リヲ補ヒ腸管内容ヲ稀釋シ腸管内ニ存スル虎列刺菌ヲ減セシメ他
方毒素ニ侵襲セラレタル心臟力ヲ維持スルニ在リ此カ爲ニハ一般
胃腸ニ對スル治療ノ他重曹加高張食鹽水ノ靜脈内注射竝強心劑ノ
併用ヲ必要トス。

重曹加高張食鹽水ノ製法及用量

(A) 食鹽三十四瓦葡萄糖五十瓦新製蒸餾水四千瓦、右溶解後濾過
シ十本ノ投藥瓶ニ四百瓦宛分注シ一時間滅菌ス。

(B) 食鹽八・五瓦新製蒸餾水千錠

右一時間滅菌シ冷却後重曹五十瓦ヲ投シ溶解セシメ豫メ滅菌セル纒ニ百錠宛分注ス。

(注意重曹ハ加ヘタル後加熱スヘカラス加熱ニ依リ分解スルヲ以テ重曹ハ普通無菌ニシテ秤量ノ際紙匙等ノ滅菌セルモノヲ使用スレハ可ナリ)

用法 A液一纒ヲ五十度ニ加温シ滅菌イリリガートルニ容レ之レニB液一纒分ヲ加ヘ靜脈注射ス(重曹糖ハ一%食鹽八〇—八五%トス。

用量 一回注射量千五百錠—五千錠

本液ノ注射ハ脈性忽チ良トナリ一般症狀輕快スルモ更ニ増悪スルヲ普通トスルヲ以テ頻回反復シ眞ニ疾病ノ回復スル迄續行ス内服

トシテハ温茶ヲ服用セシム血液過酸症ヲ來ス關係上寧ロ重曹水ヲ數回内服セシムルヲ可トス。

豫防法

健康菌保存者ノ多數ナルト菌排泄期間チブスノ如ク長期ニ互ラサルトハ豫防上必要ナリ。

豫防接種有效トセラルニ回法(第一回二密瓦第二回四密瓦)ハ可ナレトモ一回法(二密瓦)又效果アリ。

附

コレラ菌用特殊培地

(イ) コレラ用ペプトン水培地

ペプトン一〇〇〇食鹽五〇〇硝酸加里〇〇一定規苛性曹達液二〇〇

〇(或ハ結晶炭酸曹達〇〇二)水一〇〇〇〇ヲ混シ加熱溶解濾過試

驗管分注滅菌シテ貯フ。

(ロビロル氏血液曹達寒天培地)

脱纖維血液ニ同量ノ十二%結晶炭酸曹達液ヲ加ヘ(加熱スルコトナク)之ヲ豫メ溶解シテ適度(五〇—六〇度)即チコルベンニ乾燥セル手ヲ長ク觸レ得ル程度)ニ冷却セル三—四%中性寒天ノ倍量ニ加ヘヨク混和シ直ニシャーレニ注ク而シテ全ク乾燥スル迄蓋ヲ下ロサス(血液ハ豚、牛、馬、山羊、家兔モルモット何レノ動物ニテモ可ナリ)

細菌性赤痢

原因 菌型ノ異ナルニ從ヒ左ノ二型ニ分ツ。

(1)本型菌又ハ非酸性菌(志賀クルーゼ菌)

(2)異型菌又ハ酸性菌(フレキシナー菌Y菌及ストロング菌)

症狀 潜伏期ハ通常二—三日ニシテ頻回ノ下痢特異ノ便性裏急後

重腹部痙痛腹鳴左腸骨窩部壓痛疼痛發熱等ヲ主徴トス。

血液所見ハ白血球ハ第三日ヨリ增多スルモノ多シ就中中性多形核白血球ノ增多トス主トシテエオジン嗜好細胞ハ病勢ニ伴ヒ減少若クハ消失シ恢復ト共ニ發現ス淋巴細胞ハ初期ヨリ減少シ恢復期ニ入り漸次増加ス。

診斷 (1)臨床的診斷前記主症狀ニ依リ多クハ容易ナレトモア

性赤痢直腸癌直腸梅毒水銀中毒痔核等ト鑑別ヲ要ス。

(2)細菌學的診斷「イ」菌ノ性狀短桿狀ニシテ固有運動ヲ有セス活潑ナル分子運動ヲ營ムアニリン色素ニヨリ染色ス新鮮ナル培養又ハ糞便ニ於テ精液臭ヲ發ス。
グラム陰性

「ロ」糞便ヨリ分離培養法竝ニ診斷決定順序ノ大要 赤痢菌ハ發病初期ノ粘血便中ニハ多數ニ排泄セラレトモ便性漸ク固形トナルニ及ヒ數ヲ減ス而シテ菌檢素ハ每常初期ノ粘血便程陽性成績ヲ得ル割合多シトス。

(一)糞便ヨリ赤痢菌ヲ分離培養スルニハ新鮮ナル粘血便ヲ取り滅菌食鹽水ニテ洗ヒ普通左記ノ平板培養ヲ行フ。

培養種類	コロニーノ狀態
赤痢菌	赤痢菌
チブス菌	鹽基性糞便菌
	普通大腸菌

遠藤氏培養	無色菲薄透明ノ「コロニー」	同	上	同	上	赤色厚キ不透明ノ大ナル「コロニー」
赤痢寒天培地	帶青露滴狀ノ「コロニー」	同	上	同	上	赤色不透明ノ大ナル「コロニー」

(二)前記「コロニー」ニ就キ志賀菌Y菌フレキシナー菌ノ各免疫血清ヲ以テ豫定凝集反應ヲ檢シ(大凡一〇〇倍内外ヲ陽性トス)陽性ノ場合ニハ

- (三)寒天斜面ニ純粹培養ヲ行フ
- (四)葡萄糖高層寒天ニ穿刺シ瓦斯ノ發生ナキヲ證ス
- (五)懸滴法ニ依リ固有運動ナキヲ證ス
- (六)試験管内凝集反應純粹培養ハ翌日ニ至リ各菌型毎ノ免疫血清ヲ以テ試験管内凝集試驗ヲ行フ(略記載チーテル程度ノ凝集ヲ陽性ト定ム)

(七) 菌型ノ分類ヲ行フレンツ氏一%糖加ラクムス寒天培地ヲ用ヒ二十四—四十八時間俟左記ヲ檢ス。

區分	志賀菌	Y 菌	ストロング菌	フレキシナ菌
マンニツト	青	赤變	同上	同上
サツカローゼ	青	青	赤變	青
マルトーゼ	青	青	青	赤變

ウキダール反應ハ通常發病後二—三週ニシテ發現ス各菌型ニ就キテ檢査ヲ行フヘシ但志賀菌型患者血清ハ志賀菌ニ對シテ通常三〇—五〇倍陽性ニ止マリ一〇〇倍以上ニ及フコト比較的稀ナリ反之酸性菌ハ該患者血清ニ對シテハ勿論志賀菌腸チブス、バラチフス患者血清ニ對シテモ屢高度ノ類屬反應ヲ呈スルコトアリ。

(八) 臟器ヨリ培養スルニハ其ノ一片ヲトリ昇汞或ハ石炭酸水

中ニ暫時浸シテ表面ノ細菌ヲ滅殺シタル後滅菌蒸餾水ヲ以テ洗滌シ次ニ消毒セル刀又ハ鉗ヲ以テ之ヲ切斷シ斷面ヨリ培養ヲ行フ。

療 法

安靜ヲ嚴守シ硫麻(急性期ニハ比較的大量(三〇—四〇瓦)ヲ用ヒ漸次減量(一〇乃至一五瓦)スルヲ賞用ス)リチネ油甘末等ヲ投シ急性炎症消散シ慢性下痢ヲ貽スルニ至リテ初メテ收斂劑ヲ投ス可シ若シ急性炎症期ニ於テ洗腸及注腸ヲ行フ場合ニハ食鹽水若クハ重曹水ニ止メ殺菌劑及收斂劑(硝酸銀(五千倍—一萬倍)單寧酸(〇・二—〇・五%)等)ハ潰腸期ニ用フヘキモノトス腹部ハ穿孔性腹膜炎等ノ合併症ノ他ハ溫卷法ヲ施ス可シ。赤痢血清ハ病勢ノ輕重年齡等ニヨリ多少其量ヲ異ニスルモ輕症ニアリテハ一〇c.c中等症ニアリテハ一〇〇c.cニ一回(午前午後)

重症ニアリテハ一日二回ヲ二―三日持續ス可シ要スルニ一〇〇c.c宛一日二回注射シ翌日ニ至リ症狀輕快セスシテ増進ノ傾向アルトキハ更ニ注射ヲ反覆ス(志賀氏ニ據ル)

豫後 我國ニ於ケル死亡率ハ一―二四%ノ間ニアリ慢性赤痢ハ腸過敏症腸狹窄等ヲ貽スコト稀ナラス。

豫防法 傳染原トシテ特ニ注意スヘキハ患者ハ勿論輕症者小兒ニ於ケル夏季下痢慢性赤痢菌排泄者及健康菌携行者トス。一般豫防法ノ他豫防接種ハ效アリ。

附

(1) 赤痢寒天培地(ドリガルスキーコンラーヂ)ノ製法

- 「一」三%普通寒天培地一立ヲ作ル。
- 「二」ラクムス乳糖溶液(カールバウムラクムス液)一三〇〇c.c

ニ乳糖一五〇ヲ加ヘ十五分間重湯煎内ニ於テ煮沸溶解セシム)ヲ前記溶解シタル寒天ニ加フ(之ヲ標示藥トシ僅ニ青色ヲ帶フヲ度トス)

「三」一〇%重碳酸曹達水四〇c.cヲ加フ。

「四」化學的純粹ナル「クリスタルヴィオレット」〇・一ヲ滅菌蒸餾水一〇〇〇c.cニ溶解シタルモノ一〇c.cヲ加フ。

(2) レンツ培地ノ製法

- 「一」普通寒天培地ニラクムス溶液ヲ加フ(青色ヲ帶ルヲ度トス)
- 「二」マンニット、マルトローゼ、サツカロローゼヲ(十五分間重湯煎ニ於テ滅菌)各一%ノ割ニ加フ。

アメルバ性赤痢

七〇

原因 嘗テシヤウヂンハ人體腸寄生アメルバヲ二種ニ區分シ無害ナルエントアメルバコーリー(レツシエ)ト病原性ナルエントアメルバヒストリーチカ(シヤウヂン)トヲ擧ケタルモ其ノ後フイーレックハ更ニエントアメルバテトラゲナナル新アメルバヲ報告シ病原性赤痢アメルバハ以上兩種ヲ以テ原因トセラレ尙ホ諸多ノ學者ニヨリ種々ノアメルバヲ發見セラレ紛糾ニ陥リシカ現今ニテハ一説ニ傾キ是等アメルバノ種々ナル形態的變化ハ畢竟ヒストリーチカノ發育期ニ於ケル形態的變體ニ過キサルモノトノ説有力トナリ今ヤ赤痢アメルバハエ、ヒストリーチカノ一説ニ歸セリ。

地理的分布 本病ハ寒温熱帶ノ別ナキモ概シテ熱帶未開ノ地ニ多ク

特ニ亞米利加、亞弗利加、小亞細亞、亞刺比亞、印度、ジャバ、スマトラ、比列賓、支那、等トス臺灣ニ在リテハ麻刺利亞ニ次テ多發スル惡疫ト見做サレ確タル統計ナキモ北ヨリ南ニ移ルニ從ヒテ漸ク滋ク每常南部ニ多發スルヲ常トス東海岸ニ於テハ比較的尠キモノノ如シ。

傳染經路 赤痢アメルバノ孢子ハ抵抗力強ク人體内ニ入りテアメルバ性赤痢ヲ惹起セシムルモノニシテ傳染病學上重要ナル意義ヲ有スルモノタリ特ニ歐洲戰爭以來諸學者ノ腸内寄生原蟲ニ注目スルモノ多ク赤痢アメルバ孢子排泄者ニ關スル研究旺盛トナリ孢子攜帶者ノ報告續々發表セラレ在營軍人又ハ入院患者中或ハ一・四%五・八%一四・二四%ノ多數ヲ占メ印度軍隊ニアリテハ二七・九%ヲ證明セリト謂フ孢子排泄者ハ戰場ノ如ク集合不衛生生活ヲナス

七一

モノニアリテハ其ノ傳染甚ク盛ニナルカ如クカリフォルニア大學
生中歐洲戰場ニ臨メル者九十一名中六七%戰場ニ臨マサルモノ三
十四人中二六・五%ナリシト謂フ尙亞米利加ニアリテハ歐洲戰場
ヨリ歸リ各軍隊ニ於テハ戰場ニ赴カサリシ者ニ比シ三倍乃至六倍
ノ高率ヲ示シタリト故ニアメーバ傳染ノ經路ニ就テハ孢子排泄者
ノ分布状態ヲ追究スルハ豫防上重要ニシテ軍隊衛生トシテ又興味
深キコトナリトス臺灣ニテハ臺南衛戍病院ノ調査ニヨレハ全アメ
ーバ赤痢患者ノ約三分ノ一ハ孢子攜帶者ニ移行スト。
ウオーカーノ實驗ニ依レハ十八名ニ赤痢アメーバ孢子ヲ嚥下セシ
メテ四名即チ二二・二%ハ赤痢症狀ヲ發シ十四名即チ七七・八%
ハ孢子攜帶者トナレリト云ヘルモドベル等ノ種々ナル觀察ニ依レ
ハ孢子ヲ嚥下セシ者ノ内發病スルモノハ一〇%以下ナラント。

臺灣土人中慢性罹患ノ下ニ絶ヘス孢子ヲ排出散蔓スルモノ多ク其
%數ノ如キ未タ調査ヲ缺クモ四時本病ノ散發スルニ照シ防疫上重
要視スヘキモノナリトス。

病理所見

アメーバ赤痢ト細菌性赤痢トノ病理解剖上ノ所見ハ各特
有ニシテ細菌性赤痢ニアリテハ主トシテ腸粘膜上皮層ニ於ケル實
扶埵里性出血性炎ニシテ炎症現象強キニ反シアメーバ赤痢ニアリ
テハ粘膜層ノ變化ハ第二次的ニシテ當初ハ粘膜下層ニ於テ輕度ノ
浸潤アリ直チニ特異ノ組織破壞ヲ呈シ潰瘍ヲ形成スルモノトス此
ノ破壞作用ハ器械的ニ非スシテ強力ナル細胞溶解性物質ヲ分泌ス
ルモノナリトアメーバハ局處ニ棲息シ破壞組織片ヲ營養トシテ攝
取スアメーバノ侵入路ハ恐ラクリーベルキユン氏腺ヲ通シ濾胞腺
ノ底部ニ達シ病竈ヲ作り漸次粘膜下組織筋層等ヲ侵スモノトス是

レ細菌性赤痢ノ主トシテ表皮層ノ壞疽脱落スルニ反シアーメバ赤痢ニアリテハ大腸ノ著シク肥厚ヲ惹起スル以所ナリトスアミーバ赤痢ノ潰瘍ハ多クハ孤立セル淋巴濾胞ヨリ初マリ腸管ノ長軸ト平行ニ走り形ハ圓形又ハ楕圓形ニシテ表面ハ小底面ニ於テ擴大セルフラスコ狀ヲ呈セリ細菌性赤痢ノ潰瘍ハ褶襞ノ遊離端ノ部位ニヨリ初マリ腸管ノ長軸ニ直角ニ横走シ外形ハ不正屢近傍ノ潰瘍ト相交通シ各潰瘍面間ノ粘膜ハ絹綿天鵝絨様ノ觀ヲ呈ス。

症狀 急性惡急性及慢性ニ分ツモ急性惡急性ノ區別確然タラス尙慢性下痢者竝ニアミーバ攜帶者アリ潜伏期ニ關スル問題ハ極メテ困難ニシテ五・六年ニシテ再發スルモノ等アリテ學者ノ意見一致セズ慢性症ノ持續期間ハ非常ニ長ク稀ニハ十六年乃至三十餘年ニ及フモノアリ。

急性惡急性 好ンテ夜半下腹部疼痛及下痢ヲ初メ便狀ニ變化ナク

水様胆汁様下痢裏急後重アリ排便終リテ粘液ヲ有ス血液ハ點狀線狀又ハ凝塊狀ニ混入シ或ハ粘液便乃至粘血便ヲ出ス惡臭ノ甚シキモノ多ク細菌性赤痢ト異ナル所ナリトス便意頻數夜間便意多シ排便多クハ十二乃至十五回アリ惡寒熱發シ弛張スルモノアリ無熱ニ終ルモノモ亦多シ急性惡急性症ニアリテハ必スエ、ヒストリーチカノ成育型ヲ排出スルモノトス。

慢性 腹部ニ弛緩アルモ下腹部ノミ膨滿ス下行結腸ノ索狀肥厚ヲ觸知シ又盲腸部ノ抵抗雷鳴疼痛限局性盲腸炎ヲ起スコトアリ肝膿瘍稀ニハ膿瘍ヲ伴フ事アリ便通一日一、二行時ニ少許ノ粘液乃至血液ヲ交フ時々急性ニ逆轉スル事アリ便ハ汚穢灰白色粘液血便腐肉様臭氣アリ固形便ヲ排出スルニ至ラハ粘液及血液ハ僅ニ膜狀又ハ塊狀ヲナシテ終便ニ附着スルニ止マルアミーバノ外多核細胞

ノ比較的少ナク單核細胞ノ多クシテ細胞ノ蛋白溶解性消化 (Proteolytic digestion of cells) ノ現象炎症性變化ノ缺如等ハ比較的特異ナルモノナリト謂フ (Willmore & Selvarajam) 其他赤血球白血球膿様破壊セル上皮細胞時トシテエオジン嗜好細胞殊ニ慢性ノ患者便中ニハシヤルコー、ライデン氏結晶ヲ見ルコト多シ無熱ノモノ前胞型又ハ孢子ヲ見ルコト多シ。

アメーバ携帶者 自覺症狀ナシ便ノ外觀赤痢症狀ヲ缺如ス前胞型又孢子携帶者アリ既往ニ赤痢ナクシテアメーバヲ携帶スルモノアリ孢子ハ一回ノ糞便検査ニテ三分ノ一ヲ三回ノ検査ニテ三分ノ二ヲ發見スト謂フ故ニ一回検査ニテハ不確實ニシテ少ナクモ六回ノ検査ヲ要ス。

アメーバ下痢近來反覆シテ下痢ヲ來スモノニアメーバノ原因トナ

レルモノ多キコト認メラルルニ至リ下痢ノミニシテ眞ノアメーバ赤痢ノ症狀ヲ呈セサルモノアリ然レトモ必スエ、ヒトリーチカノ前胞型ヲ見出サルルモノナリ。

診斷

前記症狀ニ依ルノ他糞便中ヨリエ、ヒストリーチカヲ證明スルコト必要ナリ若シ急性症狀ヲ呈スルニ拘ラス孢子ノミヲ發見スルトキハ赤痢菌トノ混合傳染ニ疑ヲ置カサルヘカラス。

糞便中アメーバ檢出法 オブエクト硝子上ニ一滴ノ生理的滅菌食鹽水ヲ置キ脱糞後出來ル丈ケ早ク新シキ糞便 (アメーバ成育型ハ忽チ容易ニ褪變ス) ノ粘液血性ノ一塊ヲ入レ靜ニ攪拌シテツク硝子ヲ置キ弱擴大ニシテ検査ス強ク光線ヲ屈折セル球體ノ散在セルヲ見ル此レヲ強擴大ヲ以テ觀察スル時ハ假足ヲ出シテ運動シツツアルアメーバヲ認ム其ノ性状病原性アメーバニ一致スルヤ否ヤ

含 所	
オゾムノ周囲ノ染色質粒 列ノ間ニ表ル 性ニシテ周囲ノ染色質粒 列外心性カリオソーム及透 明ナル輪ハ比較的大ナリ カリオソームト周囲ノ染色 質粒列トノ間ニハ普通染色 質粒存在ス ナリナリノ核ハ中央ニ位シ 二―三ミクロンノ直径ナリ シ周囲ニハ染色質粒列ナ セス中央ニ不規則特意ノカ リオソームナリ有スピツチ イハ核ハ小ナル水泡形ニシ テ中央ニ球状ノカリオソ ムアリ總テノ染色質ハ其 包含セリカリオソームト核 膜トノ間ニハ染色質ノ染色 法ニテハ染マサル顆粒アリ エオチン又ハ他ノ重復染色 法ニヨラザレハ認め難シ	内肉内赤血球ハ青キ像トシ テ表ハルゴリリハ細菌酵 母源粉粒濃染ス ナリナリハ細菌其他含有物 アリ
血液ナシ 襞變セルモノハ内肉内ニ細 菌入り込ムコトアリ又屢々 染色質様體ナ有スルモノナ リ	

核ハ常ニ明瞭ナリ核ノ周
圍染色質ハ稍厚クカリオ
明瞭ニカリオソームハ少
シ

核ハ大キク核膜トカリオ
ソームノ間ノ染色性顆粒

ニ就テハ左ノ鑑別ヲナスヲ要ス尙トリコモナスノアメーバ型ニ褪
 變セル者 及腸管ニ由來セル細胞等ノ鑑別必要ナリ是等ハ多ハ五―一
 五ミクロンニシテ小サク進行運動ナク旋轉運動ヲ營ミ血管内皮細
 胞ニ由來スルモノハ大キク血球ヲ含有スルモノアルモ内外肉ノ區
 分不明ニシテ核ハ明瞭ニシテ幾分少ク染色體ハ平等ニ分配セラル
 一般ニ運動ナク核カ中心ニ位シ赤血球ヲ含マサル等ニヨリ區別セ
 ラル臺灣島ニ於テハ比較的多クトリコモナスノ共存アリト謂フ。
 アメーバトシテ人體中ニ寄生スルハ赤痢アメーバ(ヒストリーチ
 カ)ノ他病原性ナキエントアメーバコーリー Entamoeba coli
 エンドリマツクスナーナ Endlimax nana
 ヨードアメーバピツチリイ Jodamoeba bütschlii
 テイエントアメーバフラギリス Dentamoeba fragilis ニシテ是等

ハ赤痢アメーバト鑑別ヲ要スルモノナリ。

染色シタル標本並各種アメーバノ區別ニアリテハ次表ノ如シ。

ヒストリーチカ染色標本並他トノ鑑別(ヘムアラウム液染色)

成 育 型	前 胞 型	胞 子
藤色(淡紫色)ニシテ外肉ハ 内肉ヨリ透明ニ色淡ク區別 容易ナリ コーリーハ著明ニ顆粒狀ニ シテ暗黒色ナリ内外肉ノ區 分ナシ マ ス ラ プ	成育型ヨリ稍小 核ハ比較的大ニ周圍ノ染色 質粒列及中央カリオゾーム 割合ニ大ナリ染色質カ染色 質粒列トカリオゾームトノ 間ニ存在スルヲ見ル コーリートノ區別ハ困難ナ リ テイエントアメーバ コーリートノ區別ハ困難ナ リ	球形ナリ ナーナハ染色様體存ヒス 只顆粒狀又ハ束狀又ハ線狀 ノ物質ヲ有スアツチリイハ 定型的ノ空胞存シグリコー ゲンヲ有ス 核ノ構造ハ成育型前胞型ニ 同シ核側ハ二又ハ四核ヲト キハ一側厚ク三ヶ月形ヲナ スコトアリ染色質様體ハ濃 グ染色スコーリーハ八個ノ 核ヨリ區別スアツチリイハ 一核ニシテ一方ノ膨大セル 塊狀形ヲナシ其一側ニハ大 ナル染色質塊ヲ有ス フラギリスハ二核ヲ有シ特 異ノ構造ニヨリ區分セラル
核ノ周圍ニハ染色質ノ顆粒 列アリ中心ニハ周圍ニ透明 ナル暈輪ニ圍繞セラレタル カリオゾームヲ有ス カリオゾームト染色質粒列 トノ間ニハ染色質ヲ缺如セ リ 核ハ中心性圓形ニシテ四 七ミクロン變ニ傾キタル 個體ハ水泡狀ノ空胞細菌ヲ 有シ核ノ周圍ノ染色質粒列 ハ球形トナリ二三個所ニ集 合シ染色顆粒カ中央ノカリ	核ハ比較的大ニ周圍ノ染色 質粒列及中央カリオゾーム 割合ニ大ナリ染色質カ染色 質粒列トカリオゾームトノ 間ニ存在スルヲ見ル コーリートノ區別ハ困難ナ リ テイエントアメーバ コーリートノ區別ハ困難ナ リ	球形ナリ ナーナハ染色様體存ヒス 只顆粒狀又ハ束狀又ハ線狀 ノ物質ヲ有スアツチリイハ 定型的ノ空胞存シグリコー ゲンヲ有ス 核ノ構造ハ成育型前胞型ニ 同シ核側ハ二又ハ四核ヲト キハ一側厚ク三ヶ月形ヲナ スコトアリ染色質様體ハ濃 グ染色スコーリーハ八個ノ 核ヨリ區別スアツチリイハ 一核ニシテ一方ノ膨大セル 塊狀形ヲナシ其一側ニハ大 ナル染色質塊ヲ有ス フラギリスハ二核ヲ有シ特 異ノ構造ニヨリ區分セラル

核ハ常ニ明瞭ナリ核ノ周
圍染色質ハ稍厚クカリオ
明瞭ニカリオゾムハ少
シ

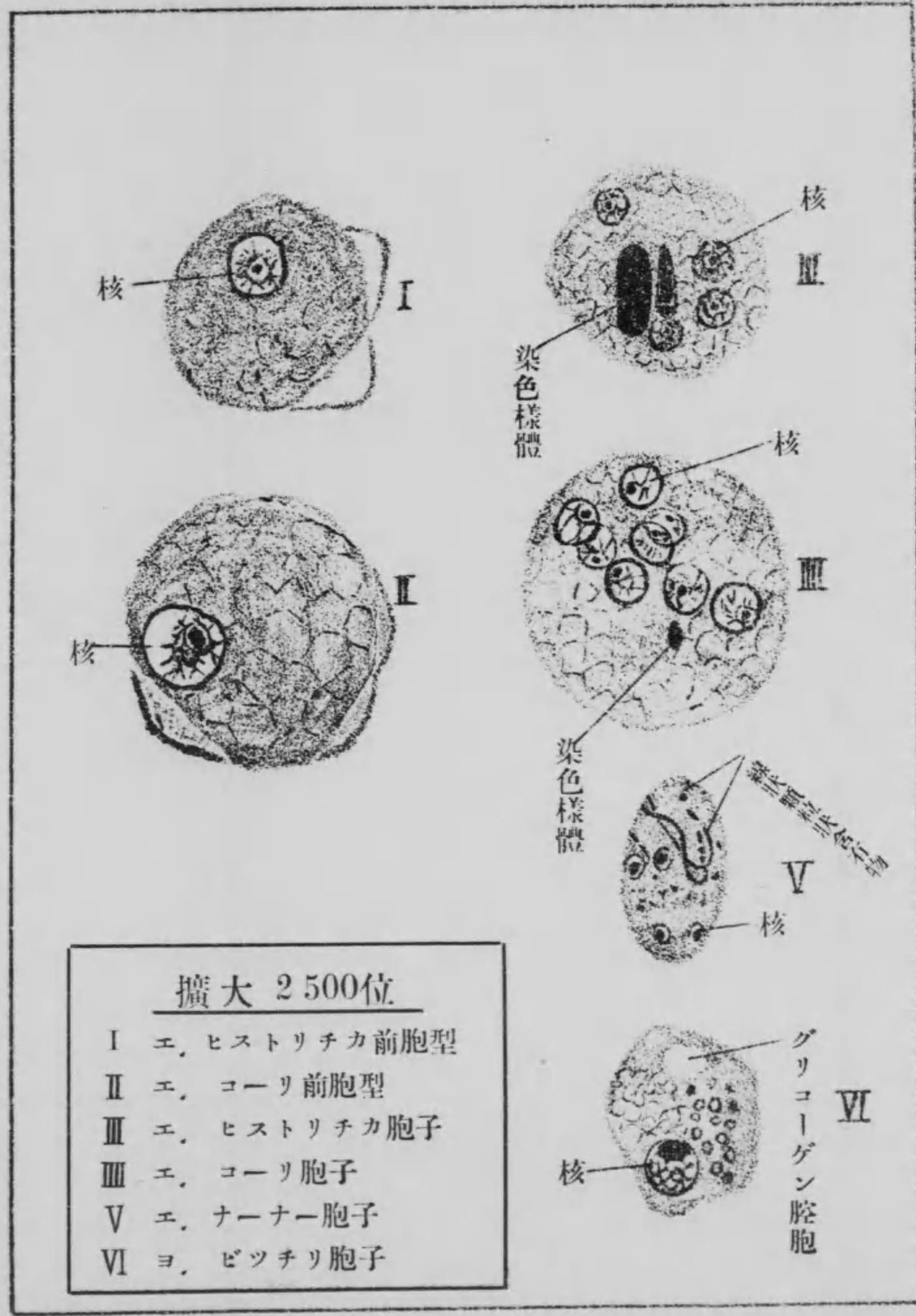
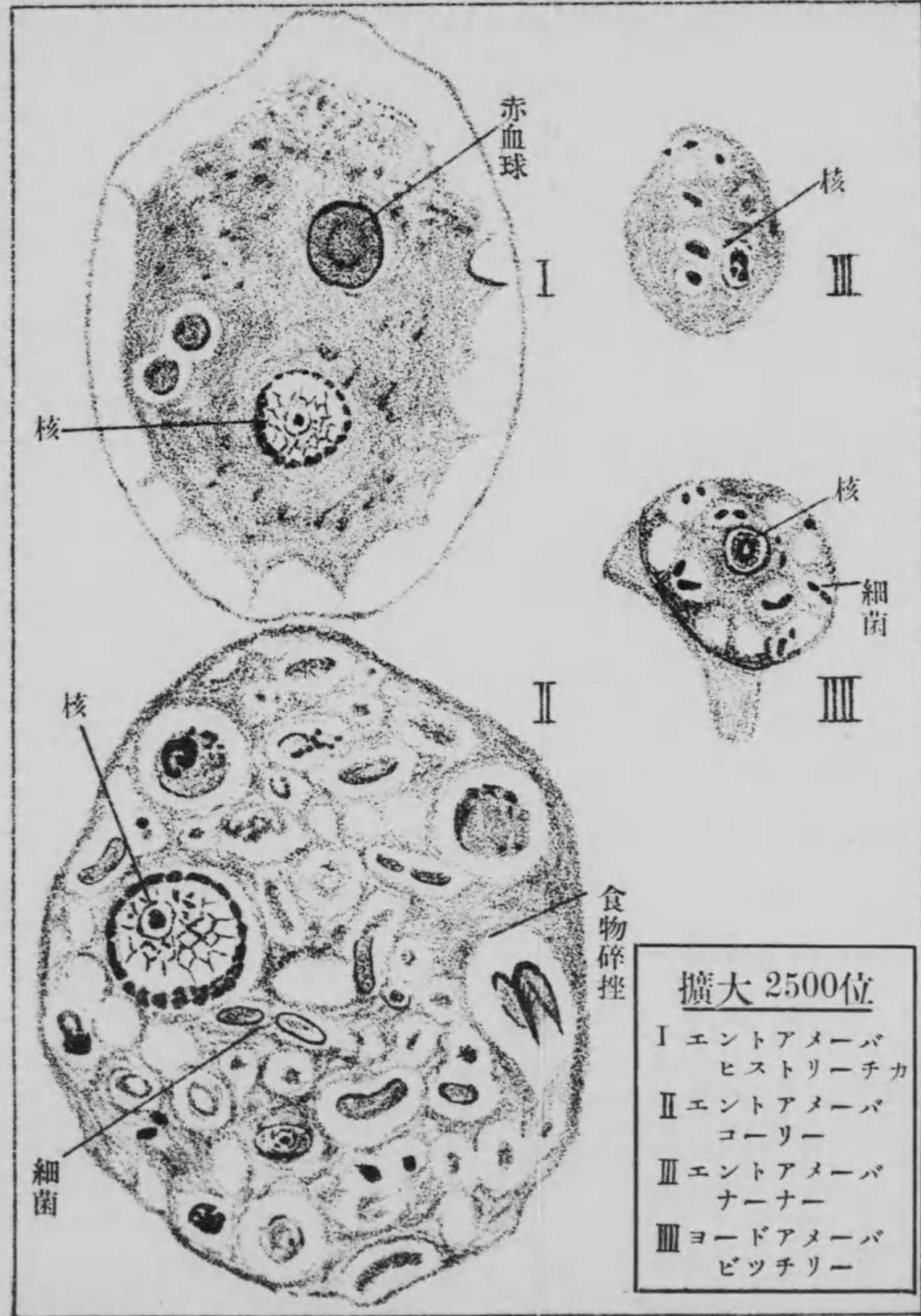
核ハ大キク核膜トカリオ
ゾムノ間ノ染色性顆粒
ハ少シ

含 所	
アリ	オゾムノ周圍ノ染色質粒 列ノ間ニ表ル 性ニシテ周圍ノ染色顆粒 列外心性カリオゾム及透 明ナル輪ハ比較的大ナリ カリオゾムト周圍ノ染色 質顆粒トノ間ニハ普通染色 質顆粒存在ス ナリナリノ核ハ中央ニ位シ 二―三ミクロンノ直径ナ有 シ周圍ニハ染色質粒ヲ有 セス中央ニ不規則特異ノカ リオゾムナ有スビツチリ イハ核ハ小ナル水泡形ニシ テ中央ニ球状ノカリオゾム ムアリ總テノ染色質ハ其ニ 包含セリカリオゾムト核 膜トノ間ニハ染色質ノ染色 法ニテハ染マサル顆粒アリ エオチン又ハ他ノ重複染色 法ニヨラザレハ認メ難シ
ナリ	内肉内赤血球ハ青キ像トシ テ表ハルコロリハ細菌酵 母澱粉粒濃染ス ナリナリハ細菌其他含有物
ナリ	血球ナシ 細菌セルモノハ内肉内ニ細 菌入り込ムコトアリ又屢々 染色質様體ヲ有スルモノナ リ

胞	ラ	形サ大	考	前			考	型	育			成			
				動運	含所	核			動運	含所	核	マスラプ	サ大		
線粒状ニシテ内部ニハ光ヲ屈ス多ク棒状ノ形ヲ有ス	一五	球形又ハ楕圓形六・六一	緩慢ナルカ又ハ缺如ス他ノ前胞型トノ區分困難ナリ	何等含有セス	核ハ常ニ明瞭ナリ核ノ周圍ニ染色質ハ稍厚クカカリシク大ニ中心性ナリモ少シク大ニ中心性ナリモ外心性ノコトアリ染色質トカリオゾムト間ニ染色質存在スルコトアリ	トアリ	内外肉ノ區分ナシ	成熟型ト胞子トノ中間大ニシテ七一・二ミクロン又ハ一一・四ミクロン	全體トシテ白色ナリ	新鮮ノ時活潑ナリ時間ノ経過ニ伴ヒ大ナル硝子様ノ假足ヲ出シ運動ス	赤色球ヲ有ス	核ハ中心ニアルナシ特徴トシテスグロマチンノ量少シ生	極メテ新鮮ノモノハ内外肉ノ區分明瞭ナルヲモ	直徑一八一四〇ミクロン 普通二〇一三〇	エ、ヒストリーチカ
二核ノ時ニ多クハ核ニテ沃度液ニヨリ	一〇一三〇	球形	極メテ緩慢ナリ認め難シ	何等含有セス無色硝子様	核ハヒストリーチカヨリ明瞭ニカリオゾムハ少シク大ニ外心性ナリ			一五一一八ミクロン	全體トシテ淡青色ヲ帶フ他非病原性アメーバ大カ故ニ區別シ得	急ニ透明ノ假足ヲ出スコトナシ假足ハ内外肉ノ區分ニシテシムルニ過キス	赤血球其他組織片ナシ然レトモ細菌植物ノ碎塊物ノ存在ス	核ハ甚々明瞭ニシテカリオゾムハ外心性ナルナリ常トシテ球状ハ卵圓形最	内外肉區別明瞭ナラス内肉ノ粗ナル顆粒狀ニ富ム	直徑六一二ミクロン 普通二〇一三〇	エ、コーリー
ホルゲン顆粒ノ外グリコゲン顆粒ノ存スルコト	三	卵圓形ニシテ長サ八一	成育型ト大差ナシ	何物モ含マヌ無色透明ナ					誤り易シ	緩慢ニシテ位置ノ變更ヲ出入	食物胞ヲ含ムコトナリ一種ノ微生物(Sphacteria)ノ属モノ存スルコトナリ	核ハ不明瞭ナリ大サ一三ミクロン核ハ外心性ナリ塊ニシテ小ナル染色質粒トシテ連絡ス核膜ニシテ透明無構造ナルトモ	内外肉ノ區別ナシ顆粒狀ヲ呈ス	直徑六一二ミクロン 普通九一一三	エ、ナナ
白色透明内部ニ光線ヲ強ク屈折スル顆粒及沃度液	九一一	類圓形腎臓形梨子狀不正			核ハ大ニシテ核膜トカリオゾムハ漸次増加スカリオゾムハ特ニ被胞セントスル際ニハ内層濃ク外層薄ク内外層ニ區別セラル				ナノ大ナルモノニ似タリ	エ、コーリーニタリ似	腐々細菌ヲ多數ニ有スル食物胞ヲ含ム	核ハ二個ノコト又ハ一個ノコトアリ〇・八一・二・三ミクロン生體ニハ核ハ見	エ・コーリーニ似タリ	直徑六一二ミクロン 平均八・九	ヨ、ア、ビツチリイ
										緩慢ナリ		非染色質纖維ニテ中間ハ	内肉ハ顆粒狀外肉ハ無構造透明ナリ	直徑三・五最大一・二ミク	デ、エ、フラギリス

含所	含所
テ中央ニ球状ノカリオゾム ムアリ總テノ染色質ハ其二 包含セリカリオゾムト核 膜トノ間ニハ染色質ノ染色 法ニテハ染マサル顆粒アリ エオチン又ハ他ノ重復染色 法ニヨラザレハ認め難シ	内肉内赤血球ハ青キ像トシ テ表ハルコトナリハ細菌酵 母濃粉粒濃染ス アライナーハ細菌其他含有物 染色質樣體ヲ有スルモノナ

備考	子胞			備考	型胞			備考	型育		
	膜被	核	マ ス ラ プ 形サ大		動運	含所	核		マ ス ラ プ サ 大	動運	含所
一般ニ食鹽水ニハ微綠色チ呈ス	二重縁チ有ス	成熟シタルモノハ四核ナリ 有ス時ニハ中心性ナリ 鮮アリ核ハ中心性ナリ モトモハ初期ノモノハ明瞭ナリ	顆粒状ニシテ内部ニハ光線チ屈ス多ク棒状ノ形ヲナセル染色様體アリ又グリコロゲン顆粒チ有スルコトアリ	球形又ハ楕圓形六・六一五ミクロン	何等含有セス	核ハ常ニ明瞭ナリ核ノ周圍染色質ハ稍厚クカリオゾム少シク大ニ中心性ナルモ外性ノモノアリ染色質トカリオゾムノ間ニ染色質存在スルコトアリ	内外肉ノ區分ナシ	全體トシテ白色ナリ	新鮮ノ時活潑ナリ時間ノ経過ニ伴ヒ大ナル硝子様ノ假足ヲ出シ運動ス	赤色球チ有ス	活潑ナル時ハ明瞭ナラサルモ死亡スルトキハ明瞭トナル體外排泄後直ニ検査スルニ非ラサレハ多クハ進行形ニシテ四・七ミクロン周圍ニ非染色質ノ膜アリ核膜ニ沿ヒテ染色質顆粒アリ中央○・五ミクロン内外ノ直径チ有スル無構造ノカリオゾムアリマソソノ染色法ニヨリハカリオゾムハ赤染シ其ノ周圍ニ淡青色ノ環輪ヲ呈ス而シテカリオゾムノ下ト周圍ノクロマチン顆粒列トノ間ニハ染色質チ有セサルチ普通トス
	「ヒストリーチカ」ノモノヨリ厚シ	核ハ普通ハ八個ナリ有スカリ オゾムハ外性ナリ核ノ大サハ核ノトキハ五分ノ一又ハ六分ノ一ニ核トキハ八核ノトキハ二倍大ニ核ハヒストリーチカヨリ大ナリ 三・五・七・又ハ九・一六核ノコトアリ核ハ沃度ニテ所置シタルモノハ明瞭ニシテ輪狀染色質列ハヒストリーチカヨリ不規則ニシテ粗大ナリ	グリコロゲン顆粒チ有スルコトアリ時ニシテ沃度液ニヨリ褐色ニ染色ス	一〇一三〇ミクロン 普通一五二〇ミクロン	何等含有セス無色硝子様	核ハヒストリーチカヨリ明瞭ニカリオゾムハ少シク大層々外心性ナリ	ナリ	全體トシテ淡青色チ帶フ他非病原性アメーバハ大サ二〇ミクロン以下ナルカ故ニ區別シ得	幼虫運動ニシテ緩慢ナリ急ニ透明ノ假足ヲ出スコトナシ假足ハ内外肉ノ區分明瞭ナラス	赤血球其他組織片チシ然レトモ細菌植物チ碎挫物穀物粒原蟲ノ胞子チ有ス	常トスル球形又ハ卵圓形最チ大ナルハ八ミクロン直徑アリ非染色質ノ比較的大層々内層ニ位置スル染色質ノ列ハオゾム比較的大ニ環輪著明ナリカリオゾムト周圍ノ染色質顆粒チ有ス
		初メ一核ニ二核四核時ニ八核チ有ス核ハ一核ノトキハ三ミクロンニ達シカリオゾム大ナリ	ホルゲン顆粒ノ外グリコロゲン顆粒ノ存在スルコトアリ	卵圓形ニシテ長サ八一一三ミクロン「幅一〇一三ミクロン	何物モ含マズ無色透明ナリ			誤リ易シ	緩慢ニシテ位置ノ變更チセシムルトナク假足ヲ出入セシムルニ過キス	食物胞チ含ムコトコリー一種ノ微生物 Sphaeriaノ屬モノチ含ムコトアリ赤血球ノ存在スルコトナシ	塊ニカリオゾムハ大ナル塊ニシテ小ナル染色質核ノ所々ニ染色質顆粒チ有シシテカリオゾムト周圍ノ染色質顆粒チ有ス
		核ハ一個ニシテカリオゾムハ透明ニ近ク附着スルニ至ル核ハ不明瞭ニシテヒストリーチカノ一核ノモノヨリ小ナリ	白色透明内部ニ光線チ屈折スル顆粒及沃度液ニテ深キマホガニ一色ニ染色スル部分アリ是レハ水ニ溶解スル故ニ水ニテ處置スレバ空胞トナル	類圓形腎臟形梨子狀不正形ニシテ九一一一ミクロン		核ハ大キク核膜トカリオゾムノ間ノ染色性顆粒ハ漸次増加スカリオゾムハ特ニ被胞セントスル際ニハ内層濃ク外層薄ク内外層ニ區別セラル		ナノ大ナルモノコリー一ノ小ナルモノニ似タリ	エ、コリーニタリ似	食物胞チ有ス	大ナル顆粒チ有シ核ノ大ナルニ三・五ミクロンニ四分ノ一五分ノ一ニシテカリオゾムハ核ノ二分ノ一又ハ三分ノ一ナリ
								エ、ナナ エ、ヒストリーチカノ前胞型ニ似タリ無色ナリ胞子ハ尙發見セラ	緩慢ナリ	食物胞チ含ム	ミクロン生體ニハ核ハ見エサレトモ染色ニヨリ球形ニ中心ニ顆粒狀ノカリオゾムト核膜トノ間ニハ非染色質纖維ニテ満たサ



染色標本(バルサムニ封スル迄ハ乾燥セシメサルヲ緊要トス)

(1) 簡單ナル染色検査法

(イ) ノイトラルロート一%純アルコール液ノ生體染色ハ他ノ原蟲鑑別上竝蟲體發見上試ムヘキ法トス。

(ロ) マンソン氏染色法 試験管ニマンソン氏液一 cc (マンソン氏液メチーレンブラウ二瓦ヲ熱蒸餾水一〇〇 cc ニ溶解シ礬砂五瓦ヲ混ス)トクロロフォルム四乃至五 cc トヲ約三十秒間強ク振盪シ後全量一〇 cc 迄クロロフォルムヲ加フ而シテ深紅紫色ノクロロフォルム色素溶液ヲピペットニテ採取シ濾過ス此ノ液中ニ可檢物ヲ薄ク塗布セシ蓋板ヲ入レ二十秒乃至四十秒後ニ取り出シ流動パラフィンニテ封鎖シ檢ス。

(2) アメーバ及囊子ノ詳細ナル構造検査法

- (イ) 急速ニ使用可成粘液部ヲテツキ硝子ニ塗布シ直ニ時計皿ニ盛
リタルシヤウデン氏液飽和昇汞水 一〇〇〇無水アルコール
五〇〇水醋酸五滴ヲ混和セシモノニ塗抹面ヲ下向トシテ(沈
降スレハ上向トナス) 浮ハシメ十分乃至二十分間固定ス胞子
ハ之レヨリモ時間ヲ要ス。
- (ロ) 六〇%アルコールニ沃度或ハルゴール氏液ノ少量ヲ加ヘタル
液(色ハビール色)ヲ以テ昇汞ヲ洗フ。
- (ハ) 七〇%ヨリ八〇%九〇%無水アルコールノ順序ニ沃度ヲ洗ヒ
ツツ固定ス然シテ染色ニ先チテ逆ニアルコールヲ薄キモノニ
順次浸洗ス。
- (ニ) 更ニヨク水洗シ媒介劑(二・五%鐵明礬水) 中ニ三乃至四時間
侵漬ス。

- (ホ) 更ニ水洗シテテラフイールド氏ヘマトキシリン又ハハイデン
ハイン氏ヘマトキシリン水溶液ニテ染色ス(ヘマトキシリン
ハ使用前必ス濾過シビール色ニ薄メ使用スルモノトス。)
ヘ明礬又ハ鹽酸アルコールニテ適度ニヘマトキシリンノ脱色ヲ
ナシ
- (ト) 之ヲエオジン或ハオランヂノ水溶液ニテ複染ス。
- (チ) 次ニ順次アルコールノ階梯ヲ追ヒ無水アルコールヨリ石炭酸
キシロールニ進ンデバルサムヲ以テ封ス。
- (リ) ハノ處置ヲ終リタル後次ノ如クスルモ可ナリ即チ更ニ十分乃
至二十分(ヘムアラウム液ノ内ニ放置ス(過染セハ明礬又ハ
鹽酸アルコールニテ脱色ス) 次ニ青色ニ變化スル迄水中ニ放
置シエオジンニテ後染色ヲナシ)(トノ處置ヲナシテ終ル。

ヘムアラウム溶液一瓦ノヘマトキシリンヲ蒸留水一立ニ溶カ
シ〇〇二瓦沃度酸ナトリウム五〇瓦明礬ヲ加ヘ溶解後濾過ス

(3) 胞子検査法

胞子検出法ハ容易ナラス一定ノ熟練ト數回ノ検査ヲ要ス胞ノ
ミノ検査殊ニ治療ノ完全ニ行ハレタリヤ否ヤ検査スルニハ下
劑ヲ使用セス又エメチン使用中ニ非ラサルヲ要ス。

集胞子法(便一瓦ニ食鹽水三〇) 此ヲ加ヘ振盪器ニ裝置スル事
三〇分之ヲ分離漏斗ニ移シ其二・三―六瓦ノエーテルヲ加ヘ
手ニテ振盪スル事一・二分而シテ放置スルトキハ便ハエーテ
ルヲ吸收シテ上方ニ上リ胞ハ下方ニ殘ル) ヲ用フルハ有利ナ
リ又胞子染色法トシテ一%ノ沃度加里液ヲ沃度ニテ飽和セシ
メタル液ヲ便ニ混シ視野ヲ少シク暗クシテ行フ時ハ比較的行

易ナリ。

療法

(1) エメチン療法 エメチンノ一回量ハ略ホ〇・〇四ヲ適當ト
シ初期ニ於テ比較的多量ヲ用フルヲ可トス通常一日一回又ハ
隔日ニ一回ヲ皮下又ハ筋肉内ニ注射スレトモ一日中午後更ニ
一回注射シ奏効確實ナルモノアリ概ネ五回以上ニ亘リテ注射
スルヲ可トス(便中ニ於ケルアメーバ及嚢子消失ハ人ニ依リ
テ差アルモ五週間内ニ於テ二二%十週間以内ニ七二%トセラ
ル(ウエニオン及オーコンナーハ一日一グレイン)(〇・〇六四
八瓦)ノ皮下注射ト二分ノ一グレインヲ内服セシメ十二日間
持續シ總量一八グレインヲ使用スレハ佳ナリト副作用ハ下痢
全身違和食慾不進浮腫トステール氏ハ沃度着鉛エメチンヲ三

ゲレインヲ膠囊ニ入レ毎夜一回十三日間持續シ總量三十六ゲ
レインヲ攝取セシメ好果ヲ得タリト(本劑ノ三ゲレインハ一
ゲレインノ鹽酸エメチンニ相當ス)

胞子攜帶者ニ對シテハ奏効確實ナル藥物ナシ沃度蒼鼠エメチ
ンノ内服ヲ賞用スルモノアルモ不快ノ副作用ヲ有シ奏効疑シ

(2) アドレナリン(ペーマ氏)法 一時間毎ニ千倍鹽化アドレナリ
ン二〇—三〇滴ヲ與フ殊ニ肝臟膿瘍ニ用フヘクエメチント併
用スル時ハ卓効アリト。

(3) ネオサルバルサントエメチンノ併用効アリト謂フ共ニ内服又
ハ直腸内注入用トシテ使用ス。

(4) Bengillengate ノ二〇%アルコール溶液二〇滴ヲ一日三回與
ヘ良好ヲ得タリト謂フモノアリ其他ヘノボチ油ヲ使用スルモ

ノアリ。

(5) トリコモナスハ頑固ノ下痢ヲ伴フモノトス一千倍ノ沃度水ノ
注腸最モ有効ナリ。

豫 後

肝臟膿瘍腦膿瘍腹膜炎盲腸炎等ヲ併發セシモノハ危シ然トモエメ
チン發見以來生命ニ對スル豫後ハ一般ニ良好トナレリ尙治療ノ完
全ニ行ハレタリヤ否ヤハ胞子ヲ検査スヘキモノニシテ少クモ六回
ヲ必要トストベルニヨレハ第一回ハ處置完了後三・四日目第二回
更ニ一週後残り四回ハ第三週後例之第十八日目第二十二日目第二
十四日ニ於テ検査スヘシト而シテ治療中ニ試験スルハ實地上ニハ
多クハ意義ヲ有セサルモノナリ。

熱帯肝膿瘍

八八

原因 本病ノ原因ハ赤痢アメーバノ肝臓侵入ニヨリテ起ルモノト認メラル一般ニアメーバ赤痢ニ續發スヘキモノナレトモ稀ニ何等アメーバ赤痢ノ症狀ヲ呈セス所謂胞子攜帶者ニ肝膿瘍ヲ表スコトアリ而シテ是等第二次感染ノ際ハ常ニ膿瘍内ニハ成育型カ見ラル、モノニシテ前胞型ヤ胞子ハ存在セサルモノナリ(膿中ニハ胞子ヲ發見セリト報告セルモノアリ)然レトモ糞便中ニハ胞子並前胞型等發見セラル。

赤痢アメーバノ肝臓ニ侵入スルノ方法ニ三途アリ。

- 1、血管ニヨルモノ
- 2、淋巴管ニヨルモノ

3、直接腹腔内ニ出テ肝ニ達スルモノ

赤痢アメーバ罹患後普通ハ一―五ヶ月ニ亘ルモノ多シ然レトモ遅キハ數年乃至十數年後ニ發スルモノアリ。

赤痢アメーバ中肝膿瘍ヲ起ス比例ニツキテハ未タ確實ナル統計ナキモ臺北醫院ニ於ケル六ケ年間ノ統計左ノ如シ。

區別	年	別	肝膿瘍内科患者數	外科患者數	計	同年間アメーバ性赤痢患者數
	43		15	21	36	59
	44		9	13	22	104
	1		5	8	13	108
	2		5	13	18	111
	3		17	10	27	154
	4		14	16	30	86
	計		65	81	146	622

症狀 多クハ孤立性ニシテ肝右葉ニ發スル場合多シトス。

主症狀

(1) 肝臓部ノ一部分ニ於ケル局所的過敏又ハ疼痛自發痛壓痛放散性

八九

疼痛右肺下ニ於ケル刺戟症狀殊ニ右肩胛部

(2) 肝ノ一般的腫大表面平滑波動ヲ觸ルルコトアリ隣接臟器ノ壓迫續發的炎症時ニ膿瘍ノ破裂ニヨリ種々ノ合併症及危險ヲ伴フ

(3) 黃疸ハ輸膽管炎又ハ胆囊炎ヲ合併シタルモノノ外ハ多クハ輕微ナルカ全ク表ハレサルモノ多シ

(4) 熱惡寒又ハ戰慄ヲ以テ起リ稽留性弛張性又ハ間歇性トナル

(5) 白血球增多症(一八〇〇〇以上)

(6) 迅速ニ來ル亞液質

(7) 夜汗症

其他肝膿所在部ノ壓痛限局性浮腫腹壁ノ限局性硬結(腹筋ノ痙攣ニヨル)ヲ認メラル

診 斷

(1) 原因的調査ニヨリアメーバ赤痢罹患ノ有無ヲ知ル

(2) 臨床的症狀

(3) 臨床的検査ニヨリ充分肝膿瘍ニ疑アル場合ハ試験的穿刺ヲ行ヒ然シテ採取シタル膿汁ニツキアメーバ原虫ノ検査及細菌學検査ヲ行フ

切開シタル際ニハ膿ヲ検査材料トナス膿瘍壁ヲ鈍キスプーンニテ搔キ取り検査ス

(4) 糞便ノ検査ヲナスハ必要ナリ孢子又ハ前胞型ヲ發見セラル

療 法

(1) 營養療法

一般營養障礙ノ恢復ニ努ムヘシ

(2) 鹽酸エメチン療法

エメチン注射ハ重要ナル治療法ナリ。

穿刺ニヨリ取り得タル丈ノ膿ヲ排泄セシメエメチン療法ヲ行フ

(3) 便中ニ胞子又ハ前胞型アルトキハ沃度蒼鉛エメチン療法ヲ併用ス。

(4) 外科的手術

本療法ハ必要トス死亡率ハ約1/3ニ減セラル。

(5) 手術式 肝膿瘍手術ノ要ハ部位ヲ確診シ膿竈ヲ充分ニ露出シ肝ノ止血ヲ完全ニシ排膿ヲ自由ナラシムルニアリ而シテ膿瘍ノ診定及其部位判定ニハ穿刺ヲ緊要トス。

(1) 穿刺 穿刺ハ反覆之ヲ行フモ毫モ危険ナシ膿竈ニ刺入セトキハ直ニ手術ヲ行フヘシ。

(2) 膿竈露出 術式ノ如何ニ關ス膿瘍占位部ノ體壁ハ廣ク切開シ

望診觸診ヲ自由ナラシメ以テ膿竈切開ヲ施スヘシ膿竈ノ部位ニヨリ其ノ露出式ニ次ノ諸法アリ。

「イ」斜切法 右葉ニ發シ前腹壁ニ向ヒ發育セルモノニ用フ右季肋弓ニ沿ヒ之ニ平行ニ右直腹筋ハ斜横向ニ切離シ擴腹筋斜腹筋ハ其ノ纖維ノ方向ニ切離スヘシ。

「ロ」腰部切法 右後下方ニ存スル膿瘍ニ用ヒ第十二肋骨ノ下方ニ之ニ浴ヒ横ニ切開ス。

「ハ」心窩部正中切法 右葉ノ膿瘍ニ用フ白線ニ於テ縦切開ヲ施ス

「ニ」肋軟骨辨狀切法 肝穹隆部ノ膿瘍露出ニ用フ即チ前方ヨリ提肝及帶ヲ剝離シ或ハ之ニ肋軟骨切除法或ハ肋軟骨辨狀切法ヲ併用シ其ノ目的ヲ達成スヘシ肋軟骨辨狀切法ハ劍狀突起ヨリ第十肋骨マテ肋骨弓ニ沿ヒ之レヨリ二指横徑下方ニ弓狀皮切

ヲ施シ第七肋軟骨ノ胸骨端及第九乃至第七肋軟骨ノ肋骨端ト
ヲ切離シ肋膜ヲ損傷スルコトナク之等ノ肋軟骨ヲ包容スル軟
部ヲ鈎ヲ以テ上方ニ向ヒ牽引スルニアリ該切法ニ於テハ流出
スル膿汁ノ爲メ軟骨切斷端感染シ壞疽性軟骨炎ヲ起スコトアリ

「ホ」肋膜切開法 高ク上方ニ蔓延セルモノニハ本法ヲ最モ適當ト

シ且ツ危険少シ本法ハ罹患部位ニ沿ヒ側胸部或ハ後部ニ於テ
一・二ノ肋骨(多クハ第七乃至第九肋骨)ヲ長約六乃至八仙米
骨膜下切除ヲ行ヒ肋間組織ヲ切除シ體壁肋膜ヲ露出セシ後膿
瘍ノ爲ニ膨隆セル橫隔膜部ニ於テ之ヲ圍リ所要ノ大サニ體壁
肋膜ノ橫隔膜表層ヲ通シ丸針ヲ以テ連鎖狀ニ結紮縫合ヲ行フ
ヘシ即該縫合ハ各結紮縫合互ニ連鎖ノ如ク交叉シ連鎖的ニ環
狀ヲ呈スルニ至ル縫合糸ハ腸線絹糸燃糸ヲ用フ肋膜脆弱ニシ

テ斷裂スルトキハ其部ニヨードフォルム綿紗ヲ填塞スヘシ。

(3)膿瘍切開膿竈露出セハ其ノ周圍ニ滅菌綿紗ヲ硬ク填塞シ腹腔ト
遮斷シ觸診スヘシ表在性膿瘍ハ膨隆セル柔軟物トシテ觸知セラ
ル深在性ノモノハ試験的穿刺ヲ行フヘシ注射針ニ膿汁ヲ吸出セ
ハ針ハ其ノ儘放置シ爾後ノ手術ノ誘導トナスヘシ 一・二仙米ノ
菲薄ナル實質層ハ尖刀ヲ以テ穿截シ膿汁流出セハ左示指ヲ腔
内ニ挿入シ肝臟ヲ腹壁ニ壓抵スヘシ實質層非常ニ厚キ際ハ注射
針ニ沿ヒ閉鎖セル麥粒鉗子狹キ起子又ハ指ノ類ヲ鈍性ニ實質内
ニ鑿入シ膿竈ニ達スヘシ此際刀ヲ使用スルハ大血管ヲ損傷シ大
出血及血管内空氣吸入ノ恐アリ慎ムヘシ灼熱刀ニヨル截斷ハ稍
輕便ナルノ他止血其ノ他ノ利益ヲ認メス腺實質ヨリノ實質性出
血ハ敢テ注意ヲ拂フノ價值ナシ括約法ヲ要セサル程度ノ出血ハ

指壓後綿紗栓塞ヲ施セハ可ナリ。

(4) 膿竈内清淨 膿汁流出後綿紗拭法又ハ滅菌水洗滌ヲ行フ腔壁ノ脂肪様物抓把ヲ行フモノアルモ大血管胆管等ヲ損傷スル危険アリ以上ノ處置ヲ終レハ腔内ニ厚壁ノ排膿管ヲ挿入シ周圍ニヨリドフォルム又ハツイオフォルム綿紗ヲ輕ク栓塞ス過酸化水素ハ後療法ニ有効ナリ。

(5) 肝腹膜縫合 膿瘍切開前又ハ膿排除後ニ肝表面ト腹壁漿液膜トノ縫合ヲ行フモノアリ而シテ準備的縫合ハ手術野ヲ狹少ナラシメ適當ナラス又腹腔保護ニハ綿紗栓塞ニヨリ目的ヲ達シ得ルヲ以テ必要ヲ認メス此縫合ハ膿汁排除後肝創口ト腹壁創ト適合セサルトキニノミ緊要ナルコトアリ例ヘハ肝穹隆部膿瘍ノ切開ヲ前腹壁創ニ於テ肝ヲ下方ニ牽引シテ施セシ場合ノ如シ其ノ他ノ

場合ニハ必要ヲ認メス即チ膿汁ハ排膿管ニテ排除セラレ腹腔ハ綿紗ニヨリ保護セラルヘケレハナリ肝下面ノ膿瘍切開ニ當リテハ綿紗ニヨリ腹腔ヲ遮斷シ得ルモ場合ニヨリ網膜ヲ腹壁創ニ牽引シ防腐的遮斷ニ應用スルコトアリ。

(6) スترونマイヤークトルノ法 即チ穿刺針ニ沿ヒ長キ炎及刀ヲ腹壁及肝ニ一頓ニ刺入シ創口癒合スレハ更ニ開大スル法ハ不慮ノ危険ヲ伴フコトアルヲ以テ一般ニ承認セラレス。

(7) 套管針排膿法 大套管針ヲ以テ穿刺後其ノ筒管又ハゴム管ニヨル排膿法ハ往時應用セラレタルモ廣ク切開スル術式ニ及ハサルコト明瞭ナリテ現今ハ衰弱ノ爲大手術ニ堪ヘサル者ニ救急處置トシテ用ヒラル、コトアルノミ。

(8) 多房性膿瘍 單房性ニ比シ豫後不良ナリ手術ニ當リ他ノ膿竈ヲ

モ發見シテ更ニ排膿シ得ルコトハ稀ナリ其ノ頻度ハ報告者ニヨリ差アリジメネツブ(メキシコ)ハ二百九十四例中六%ツアンカロール(エジプト)ハ多數ノ例中約四〇%レグラント(エジプト)ハ約二〇%ヲ實驗セリト。

(9)合併症及再發 肺ニ自潰スルコトアリ然ルトキハ肋膜切法ニヨリ兩腔ヲ切開排膿スヘシ斯ノ如キ合併症ハ豫後最モ不良ナリ初發ノ膿瘍治癒後更ニ肝ノ他ノ部分ニ膿瘍ヲ再發スルコト稀ナラス。

(10)手術後ノ死亡率 約三〇%ナリ。

(11)ロガースハ〇〇五ノエメチンヲ水三〇〇ニ溶解セル液ニテ肝膿瘍ヲ洗滌セリ。

ペスト

一、ペスト流行

ペストハ最初東洋ニ起リ後世界ニ傳播シテ數次ノ大流行ヲ來セリ臺灣ニ於テハ明治二十九年(西曆一八九六年)始メテ病毒ヲ廈門ヨリ輸入シ爾來病毒臺灣全島ニ侵淫シテ年々流行ヲ反覆スルニ至リシカ近時全ク其ノ跡ヲ絶ツニ至レリ。陸軍ニ於テハ地方ニ於ケル流行ノ餘波ヲ受ケ患者ノ散發ヲ見タレトモ三十五年以降本病ノ侵襲ヲ蒙リタルコトナシ。病原體ハエルサン氏ノ發見ニヨルペスト菌ニシテ人體ヘノ侵入門戸ハ皮膚及吸器稀ニ眼結膜トス。

二、症候

潜伏期ハ通常三―五日トス。

病型(1)腺ベスト (2)肺ベスト (3)皮膚ベスト (ベスト膿疱及ベスト癰) (4)ベスト敗血症 (5)眼ベスト等ニ區別スレトモ其ノ八〇―九〇%迄ハ腺ベストナリ。

(1)線ベスト 前驅症違和、惡寒、腰痛、筋痛、食思缺損等アリ多クハ惡寒又ハ寒戰ヲ以テ發熱シ次テ腺ノ疼痛腫脹ヲ來スモ輕症ナルモノハ先ツ腺腫ヲ生シ後發熱スルヲ通例トス、腺ハ股腺鼠蹊腺ニ最モ多ク腋窩腺頸腺等是ニ次ク輕キモノ(殊ニ股腺又ハ鼠蹊腺ヲ胃スモノ)ハ一週間内外ニシテ熱平溫ニ復シ腺腫モ亦消散或ハ化膿ニ傾ク、液窩腺及頸腺ヲ胃スモノハ皆比較的重症ナリ多クハ一週以内ニ死亡ス。

要スルニ一週間ノ經過ヲ觀察スレハ凡ソ豫後ヲト知ルヲ得ヘシ

只腺腫體腔ノ深部ニ存在シ手術ヲ加ヘ難キモノニシテ化膿ニ陥ルトキハ假令解熱後ト雖其ノ侵蝕甚タシク經過數週數月ニ亘リ遂ニ衰弱ノ爲ニ斃ルルモノアリ。

(2)肺ベスト 其原發性ノモノハ惡寒高熱ヲ發シ初ハ輕キ咳嗽痰アリ胸内苦悶(殊ニ氣管支分岐部ノ熱痛)アリ痰ハ初ハ粘稠ナルモ後ニハ漿液様若クハ膿狀トナリ血液ヲ混シ或ハ純血ヲ喀出スルコトアリ肺ノ理學的症狀ハ全身症候ノ重劇ナルニ比シ甚タ著明ナラス是レ本症ノ特徴ニシテ普通ノ肺炎トノ鑑別上緊要ナリ就中發病後二三日ニシテ已ニ脈性軟弱浮大又ハ不正トナルカ如キ獨リ本症ニ於テノミ見ル所ナリ本症ハ四―六日ニシテ悉ク死ノ轉歸ヲ取ル但シ續發性肺ベストハ往々治癒ニ赴クモノアリ。

(3)皮膚ベスト原發的ニ皮膚ヨリ傳染セル時ハベスト膿疱ヲ生ス

時トシテ局所ノ病變增大シテ所謂ベスト癩ヲ起シ終ニ壞疽ニ陥ルコトアリ。

(4) ベスト敗血症 腺ベストヨリ二次的ニ敗血症ヲ起スコトアリ又一次的ニ起スコトアリ。

(5) 眼ベスト 稀ナリ膿漏眠ノ重症ナルモノノ如シ。

三、豫後

死亡率ハ通常七〇—九〇%トス肺ベストベスト敗血症、眼ベストハ不良ニシテ殆ント治癒スルモノナシ但シ腺ベスト皮膚ベストハ稍良ニシテ其ノ死亡率五〇%以下ヲ示スコト多シ而シテ其ノ侵サレタル腺カ頭部ニ近キ程豫後ハ不良ナリ即チ股腺鼠蹊腺ハ最良液窩腺之ニ次キ頸腺扁桃腺ヲ侵スモノハ比較的不良ナリ。

四、診斷

検査材料ノ撰擇及検査方法ニ關シテハ傳染病及食中毒細菌學的検査法ニ詳ナリ。

検査法 材料ヲ蓋板又ハ物體板ニ塗布固定十倍石炭酸フクシン又ハ同メチーレンブラウ液ヲ以テ染色鏡見スヘシ。

十ベスト菌ハ短桿狀兩端鈍圓恰モ卵圓形ヲ呈スグラム陰性尙培養動物試験凝集反應検査ヲ行フ。

五、傳染經路

皮膚ノ創傷ハ體內侵入ノ門戶トセラレタレトモ蚤ハ重要ナル者トナレリ肺ベストハ飛沫傳染トス鼠ハ咬食スルヲ以テ傳染經路ト考ヘタレトモ鼠蚤ハ其ノ主ナルモノナリ(防疫學教程參照)

鼠ベストト人ベストトノ數的關係ハ臺灣ノ調査ニヨレハ一箇月ニ鼠検査數ニ對シ有菌鼠〇・〇—〇・一%ニ至レハ初メテ患者ヲ發生シ〇・

五%ニ達スレハ患者五十人以上ヲ出シ一・〇%ヲ超過スレハ百乃至二百人ヲ出ス。

六、豫防法

飛沫傳染ノ杜絶竝驅鼠ヲ勵行シ嚴密ナル細菌學的検査ヲ必要トス各豫防法ノ他豫防接種ハ有効ナリ但シ治療看護ニ従事スル者等感染ノ危険大ナル者ニハ先ツ免疫血清ノ注射ヲ行ヒ引續キ豫防接種ヲ行フヲ可トス方法ハベスト豫防接種法ニ倚ル。

七、療 法

腺ベストニ於テハ先ツ腺腫ヲ剔除去スルヲ可トス血清療法ノ効果ニ就テハ實驗者ノ所説尙一致セサルカ如シ。

ベスト血清ニ殺菌性血清(日本血清バリー血清ベルリン血清)ト抗毒性血清(マルクル及ルスチツヒ氏血清)トアリ抗毒性血清ヲ理想

トスレトモベスト菌ハ遊離毒素ヲ産出セサルヲ以テ抗毒性血清アルヤ疑ハシト。

バリー血清ハ三〇・〇CC乃至五〇・〇CC皮下ニ注射ス注射後體温下降セサレハ熱發全身並ニ局所症狀減退スルニ至ル迄之ヲ反覆ス。ベスト肺炎ニハ一〇・〇〇—一五・〇CC極メテ除々ニ靜脈内ニ注射シ同時ニ四〇・〇CCヲ皮下ニ注射ス。

腸室扶私、パラチフス

地理的分布 到ル所ニ存在スルモ臺灣ニアリテハ腸室扶私患者ハ人口ノ三・〇%ニ達シ多發ノ傾向アルハ南洋熱帶地ニ於テモ亦同様ノ關係ヲ示スモノニシテチフス、パラチフスカ何レノ地ニモ發生スルニ係ラス熱帶病トシテ特ニ必要アル所以ナリトス。

尙臺灣ニ於ケル内地人ノミノ死亡統計ニ據レハ腸室扶私ニ因スル死亡數ハ全死亡者ノ六一七分ノ一ヲ占ムト謂フ。

臺灣ニ於ケルパラチフスハ初メ堀内氏ニ依リ次テパラチフスBノ報告ハ蒲地氏ニ依リパラチフスAハ黒川氏ニ依リ報告セラレ爾來パラチフス殊ニA型ノ報告ハ各地ヨリ出テ臺灣ニ於ケルパラチフスハ其ノ度比較的濃厚ナルモノト認めラル臺灣ニ於ケルパラチフ

スAB型ノ割合ハ概ネ次ノ如シ。

土地別		病名別	
臺	高	臺	臺
東	雄	南	中
五	三	三	七
一	一	一〇	一
一	三	三	一八
一	三	四	五
一	三	四	五

備考 大正五年 九年ニ亘ル實數トス、アラビヤ數字ハ死亡者虛數トス

症狀 腸室扶私潜伏期一―三週間トス漸進的發熱舌ノ乾燥厚苔便通ノ異常時ニ秘結ノ傾向ヲ有ス舌ハ乾燥暗黒色ニシテ特異ノ熱型竝ニ遅脈重脈脈白血球減少症ヲ示シ脾腫ハ軟ニシテ第一週ノ終リニ到リテ明トナリロゼオラハ第一週ノ終リニ現ハレチアツオ反應ハ早期ヨリ陽性トス。

パラチフスA型ハ潜伏期一―二週トス惡寒時ニ戰慄ヲ伴フ俄然發

熱體溫ハ稽留スルコト少ク弛張型ヲ呈ス脾腫ハ發病第二日ニ於テ已ニ表ルルモ其ノ率少シ往々口唇ヘルペスヲ來スロゼオラハチフスヨリ多シ。

バラチフスB型ハ潜伏期數時間ヨリ一週間トスバラA型ト大差ナキモ左ノ特異型ニ分タル○バラAニシテ稀ニ特異型ヲ呈スルモノアリト謂フ。

一般チフス症型(菌血症)(急性腸炎型)(耐熱性中毒型)

診斷 診斷上障碍スルモノハ豫防接種トス特ニマラリア其ノ他ノ熱性病ノ合併ハ臨床的診斷ヲ困難ナラシメ又稀レニハ血清學的診斷上ニモ障碍ヲ來スコトアリ被豫防接種者ノ罹患セル時ハ左ノ二病型トナル。

一、麻痺型 (普通病型)

二、刺戟型 (インフルエンザ型ロイマチス型)

刺戟型ヲ更ニ

イ、低熱型

ロ、發作型 (マラリア型) トス診斷上注意ヲ要ス。

イ、臨狀的診斷 熱型脈搏ロゼオラ、脾腫(バラチフス)ハ已ニ

發病後第二日ニ表ハルマラリア脾ハ硬)チアツオ反應ハ初病

第二週迄ニハ殆ント陽性トナルバラA型14例バラB型12

例陽性トスワイエス氏ウロクロモーケン反應モ價値アリ(チ

アツオ反應ハ粟粒結核肺炎麻疹恙蟲病時ニマラリアニモ證明セ

ラル反應ハ罹病セザルモウロクロモーゲン被豫防接種者ニハ

陽性ナルコト多シ)血球ノ變化麻痺型病ハ白血球減少症ヲ起

シ刺戟型症ハ反對ニ白血球増加症ヲ起シ一萬—三萬ニ達スル

事アリ麻痺型症ニ於ケル各種白血球ト病期ノ關係左ノ如シ。
 (バラチフスモ同様)

第 六 週	第 五 週	第 四 週	第 三 週	第 二 週	第 一 週	淋 巴 球	嗜 好 細 胞	中 性 多 核 球	大 單 核 型
常 態	漸 增	漸 增	漸 增	漸 減	漸 減	常 態	漸 出	漸 減	漸 減
常 態	漸 增	漸 出	漸 失	漸 失	漸 減	常 態	漸 減	漸 減	漸 減
シ	同	ニ	者	前					

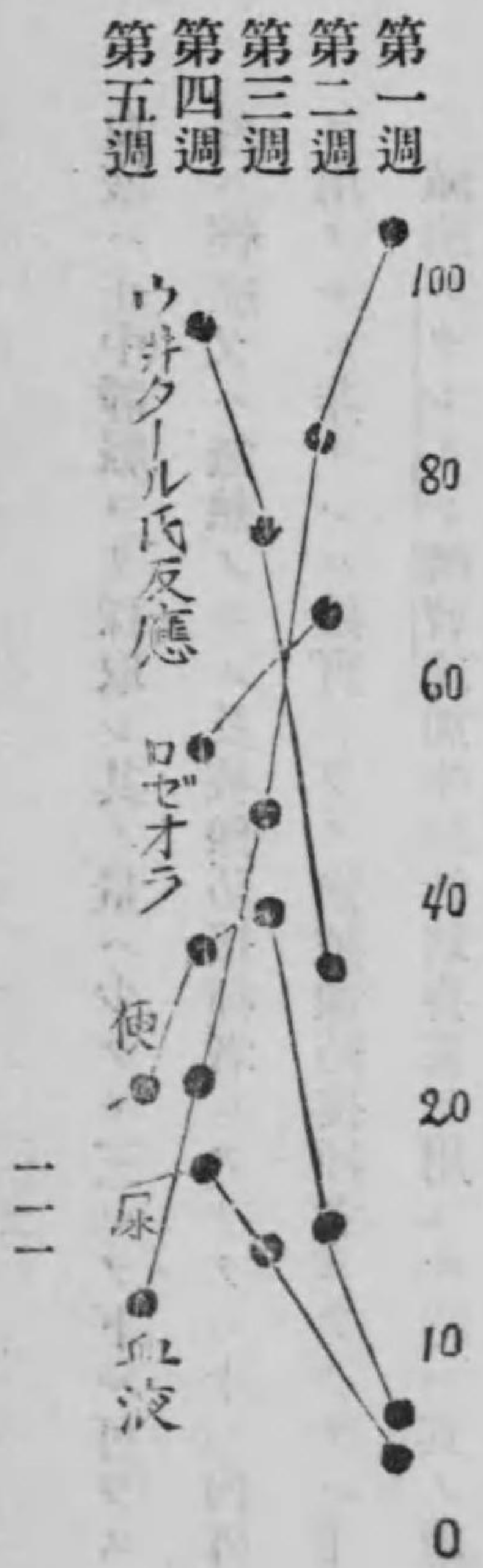
ロ、血清學的診斷(バラチフスヲ含ム)

グルーベルウキダール氏反應ハ多クハ初發後七日及十日ニ證
 明セラルルモ遲發性ノモノ又ハ全經過中無反應ノモノ等決シ
 テ少カラス尙既往ニ於テ腸窒扶私症經過セルモノ被豫防接種
 者ハ本反應ノ異動ヲ來シ他ノ熱性病ヲ合併シタル場合ハ往々

反應ヲ増大スルモノトス。

黃疸患者マラリヤ等ニ其ノ傾向アリ之カ確證ヲ得ンニハ一定
 時日(二―三日)ヲ經テ數回實施シ其ノチーテル漸増ヲ認メサ
 ル可ラス。

ハ、細菌學的診斷 本病診斷上最モ確實ナルモノトス然レトモ
 被豫防接種者ノ患者ニ於テハ往々菌證明ノ困難ナルモノアリ
 各種診斷材料中菌及ヒウキダール氏反應ロゼオラ出現ノ關係
 ヲ百分率ニテ示セバ左ノ如シ。



血液ハ正中靜脈ヨリ採取シ其ノ量ハ少クモ三c.c.ヲ下ル可ラス殊ニ輕症又ハ無熱ノモノ及被豫防接種者ニアリテハ十c.c.内外ヲ用フルニ非サレハ確實ナラス猶被豫防接種者ニアリテハ十%滅菌ヌクレイン酸曹達加牛胆汁培養基ヲ用ユル時ハ其ノ證明率ヲ高メシムルト謂フ。

血液ハ牛胆汁培養基ニ加ヘ振盪シタル後血溫孵卵器内ニ納ム同一培養ヨリ毎日四日間ハ移植培養ヲ試ミ以テ確實ヲ期スヘシ移植培養ニハ遠藤氏寒天培養基ヲ適當トス(乾燥胆汁ハ牛胆汁ヲ一時間煮沸シ後重湯煎上等ニテ乾燥セシメ除濕器中ニテ充分乾キタル後乳鉢ニテ粉末トナシ保存ス用ニ臨ミ八%ノ濃度ニ蒸餾水ニテ溶解シ一時間滅菌シタル後直チニ使用シ得ルモノトス。

多量ノ血液ヲ培養セントセハシユミツト氏法適當ナラン其ノ法三角コルヘンニ牛胆汁十c.c.ブイヨン十c.c.ヲ加ヘ一時間滅菌使用ス此レニ血液五c.c.以上ヲ加ヘ振盪シ六乃至八時間培養後數白金耳ヲ移植スヘシ第一回ニテ陰性ナレハ更ニ八時間ノ間ヲ隔テ數回移植培養ヲナスヘシ。

菌鑑別ノ目安

グラム陰性固有運動聚落ハ半球形靈滴様確實ナルチ

フス、バラチフス免疫血清ニ對スル凝集反應 (1)豫定凝集反應(四〇) (2)定量的凝集反應(試驗

五〇位血清ニテ明ニ陽生トナルモノ) (管内ニテ)バラチフスBハ已ニ二時間ニシテ反應充分ニ起リA型及チフスハ凝集遲シ培養鑑別トス。

而シテ培養鑑別上左ノ培養基ハ使用ノ價値アリ(培養鑑別ニハ必ス對照ヲ要ス)

一、鹽基性醋酸鉛加寒天

一・五%寒天(ペプトン三%性ハラクムス中性)ヲ四十三度ニ冷却シ後分注セル一試験管ニ對シ一%醋酸鉛液一—四滴ヲ加へ(ピベットニテ)ヨク混合スルトキハ白濁ス(溫度ヲ過クルヘカラス)而シテ寒天高層培養基トシテ使用ス培養法ハ管壁ニ添フテ穿刺(三四行)ヲ行フヘシ。

バラBチフス菌ハ十八時間—二十四時間ノ後穿刺線ニ沿フテ黒色トナルバラA及大腸菌ハ黒變セス。

豫後 熱帶及亞熱帶ニテハ輕症型及不全型症ノ多キハ認めラルル處ナルモ時ニ溫帶地ニ於ケルヨリモ氣候ノ關係上重症ヲ呈スルモノアリ孰中麻刺利亞脚氣等ト合併セル場合ニハ大ニ注意ヲ要ス又熱帶地ノ腸窒扶私ハ往々腸出血ヲ起シ易キ傾向アルモノノ如ク之カ爲一層豫後ヲ不良ナラシム。

A型バラチフスニ罹リ死亡モルモノノ剖見上肺炎像竝ニ腸管瀰泡ノ腫大竝潰瘍ヲ認めタリシ實例アリ。

療法 食餌法對症療法ナリトス特殊療法トシテワクチン療法及血清療法アルモ一部人ニ使用セラレアルノミニシテ效果未詳ナリ。

流行性腦脊髄膜炎

- 一、流行 一八〇五年頃歐洲ニハ大流行アリ我國ニハ日清戦争後病原潛入シ明治三十七年ニハ第五師團管下ニ多數患者ノ發生ヲ見ルニ到リ其後大阪敦賀聯隊等ニモ多發シタリ臺灣ニアリテハ明治三十六七年ノ頃南部地方ニ發生シ大正十年ニハ全島ニ蔓延セリ。
- 二、症狀 潜伏期ハ二日乃至三日トス惡寒戰慄頭痛嘔吐頂部強直ヲ以テ始マリ熱ハ不正ニシテ三十八乃至四十度ヲ呈ス脈搏ハ始メ頻數ナレトモ腦壓ノ亢進ニ伴ヒ緩徐トナル意識障礙ヲ來シケルニツヒ氏症狀アリ脊椎ニ沿ヒテ壓痛ヲ訴ヘ皮膚ノ知覺過敏トナル。瞳孔ハ左右不同反應遲鈍或ハ消失ス皮膚ニ發疹來スコトアリ。症狀ニヨリ

- 一、卒中性腦脊髄膜炎
 - 二、持久性腦脊髄膜炎
 - 三、敗血症性腦脊髄膜炎ノ三ツトス。
- 三ヲA Bノ二型トナス。
- (一)ハ頂部強直著明ナラス精神障礙循環障礙烈シク脊髄液ハ常ニ澄清ニシテ早キハ數十時間ニシテ心臟麻痺ノ下ニ斃ル。
 - (二)ハ漸次ニ意識障礙頂部強直ヲ來シ四―七日ニシテ死ノ轉歸ヲトルカ或ハ慢性狀態ニ移行ス。
- A型ハ定型的症狀ノ他菌血症ヲ呈シ一種ノ熱性皮膚病ノ如シ。
B型ハ定型的症狀ヲ缺キ皮膚ノ發疹高熱ヲ主徵トシ麻疹猩紅熱等ト誤ルコトアリ。
- 血液處見ハ一般ニ白血球增多ヲ來シ主トシテ中性多核白血球ニシ

テエオジン嗜好細胞ハ熱ノ上下ニ伴ヒテ増減シ恢復期ニハ淋巴球増多ス血液フイブリンノ増加ハ結核トノ鑑別ニ必要ナリ。

三、斷診 臨床症狀ニヨルノ他腰椎穿刺ハ必要ナリ腦内壓竝脊髄液ヲ検査シ同時ニ細菌學的檢索ヲナス鑑別ノ要點ハ細胞内ノグラム陰性センメル様雙球菌ト血清反應ナリ但シ輕症ノ場合ニハ殆ント全ク菌ヲ認め得サルコト多シ其ノ際液中多形核白血球ノ存在腦脊髄液ノ微濁ト同時ニ頭痛及頂筋ノ強梗乃至疼痛ヲ認ムルトキハ本症ト認定シテ多クハ誤ルコトナシ。

(1) 腦脊髄液ノ所見

流行性腦脊髄膜炎ノ診斷上必要ナルハ腦脊髄液ノ所見ナリ腦壓ハクインケ氏ニ依レハ健康者ハ臥位ハ四〇—一三〇ミリメートル水壓平均一二五ニシテ一五〇以上ハ病的トス。

座位ハ健康者平均四一〇ミリメートルトス。

液ハ比重健康者一五度一〇〇六一—一〇〇七トシ一〇一〇以上ヲ病的トス。

蛋白含量ハ健康者〇・二—〇・五%病的ニハ一〇倍以上ニ達スルコトアリ。

臨床上簡便ナルハ液ニ二%醋酸ヲ數滴加ヘ煮沸シ絮狀物ヲ生スレハ病的トス生理的ニハ僅ニ濁濁スルノミナリ。

有形成分(細胞)

流行或腦脊髄膜炎ニテハ多量ノ多核白血球ヲ有シ此ノ他ニ少數ノ淋巴細胞及大單核細胞アリ。

ニッスル氏ハ二—三c.c.ヲ三十分—二時間遠心沈降シ上清ヲ捨テ沈渣ヲ硝子棒ニテ攪拌シピベットヲ以テ吸ヒ上ケ一枚ノ蓋板上ニ

固定シギムザ又ハメチーレン青ニテ染色シ三百倍廓大シテ檢シ六視野ヲ檢シ平均一視野細胞數

六一二〇 弱增多

二〇一六〇 强增多

六〇之上 最强增多

ト謂フ普通ハフツクス、ローゼンタール氏法ヲ以テ檢ス即チラツクス、ローゼンタール計算室ヲ使用シ穿刺液一立方仙米中ノ數一〇以下ノ細胞數ヲ正常トシ一〇以上ヲ病的トス或ハ又トーマ氏計算室ヲ使用スルモ可ナリ。

(2) 塗抹標本

脊髓穿刺ニヨリ腦脊髓液ヲ採取ス液ハ可及的多量ヲ可トシ少クモ一〇c.c以上トス。

沈澱器ニ裝ヒ塗抹標本作リ殘餘ハ培養基ニ移植ス。

塗抹標本ハレフレル氏液ニ依リ重球菌特ニ細胞中ニアルコト特有ナリ四聯珠菌形ヲナスコトアリ。

咽頭又ハ鼻汁ニ依ルモノハグラム陰性重球菌ノ鑑別ヲ要ス鑑別ハ誤リ易キカ故ニ對照標本ヲ緊要トス。

グラム陰性菌中鑑別スヘキハ淋菌カタール性球菌グラム陽性菌トシテハ連鎖狀球菌葡萄狀球菌肺炎雙球菌假性腦膜炎菌エーゲル氏菌咽頭重復菌ナリ。

(3) 培養竝血清診斷

培養法 培養ハ腦脊髓液或ハ咽頭粘液ヨリ之ヲ行フ敗血症ニアリテハ血液ヨリ移植ス約二〇c.cノ血液ヲ取り直ニ腹水肉汁中ニ混和シ培養ス。

菌ハ極メテ抵抗弱キヲ以テ培養スルニ當リ光線乾燥ニ注意スルコト肝要ナリ。

血液糖加寒天卵黃糖加寒天腦脊髓液寒天等使用セラレ。

血液寒天コロニーハ灰白半透明稍紫様ノ色調ヲ帶ヒ血液脊髓ノモノハ僅ニ黃色ヲ帶ブ。

(イ) 血液寒天 (普通寒天培地八分血液二分ノ割)

弱アルカリ性寒天培地ノ四〇—五〇度ニ冷却セル時脱纖維セル血液(牛、馬、山羊、綿羊)ヲ前記ノ割合ニ混シ平板又ハ斜面ニ培養ス葡萄糖ヲ〇・五%ノ割合ニ加フルトキハ發育一層佳良ナリ。

(ロ) 卵黃寒天 (割合血液寒天ニ同シ)

卵殼ノ儘五%昇汞水ニ三〇—六〇分間浸シ硫酸アンモニニアニテ

中和シ殺菌綿ニテ拭キ卵殼ノ兩極ニ針ニテ穿孔スレハ初メ卵白出テ次ノ卵黃ヲシャールニ取ル此ノ卵黃ヲ攪拌溶解セシメ四〇五〇度ニ冷却セル寒天培地ニ前記ノ割合ニ混シ平板又ハ斜面トス。

(ハ) 脊髓液寒天ハ腦脊髓液一〇—二〇ccヲ沈澱器ニ裝ヒ上清ヲ一

—二時間攝氏六〇度ニ加温シラクムス中性トシ其ノ液一ニ對シ

三ノ割合ニ四十五度トセル寒天ヲ加ヘ三枚ノ平板トナス。

類似菌ノ鑑別ノ爲リリングルスハイム氏ノ糖培地ヲ使用ス。

リングルスハイム氏ノ糖培地

區	分	トマ	セル	デキ	スト	レ	ブ	糖	ガ	ラ	ク	糖	
加答兒性球菌	腸脊膜炎菌	ライクセルバウム菌	ト	セ	ロ	セ	ロ	ブ	糖	ト	ラ	ク	糖
—	—	—	十	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	十	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

菌株	大球菌	肺炎球菌	同型	同型	同型	同型	同型
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+
肺炎球菌	+	+	+	+	+	+	+

十一糖ヲ分解シ培地ヲ赤變スルモノ

リンゲルスハイム氏培地 ラクムス液ニ一〇%ノ比ニ前記糖ヲ溶解シ百度ニ二分間煮沸シ冷却後一〇〇c.cニ對シテ定規ナトロン液〇・五c.cヲ加フ以上ノラクムス糖液一・五c.cト溶解寒天一ニ腹水三ノ割合ニ加ヘ未タ凝固セサルモノ一三・五c.cヲ加ヘテ平板トナシテ使用ス。

ウ井ダール反應ハ血清五十倍ノ稀釋度ニテ現カハルヲ有效トス

本菌ハ菌種ニ依リ三十七度孵卵器ニ二十四時間放置スルモ反應起ラサルコトアリ五〇―五五度ニ二四―五〇時間置ク時ハ凝集反應著明ニシテ確實ナリ類似菌中カタール菌ハ食鹽水中ニ於テモ凝集シ易シ注意ヲ要ス。

鑑別診斷ヲ要スヘキハ急性化膿性腦脊髄膜炎腸チフス結核性腦膜炎インフルエンザ性腦膜炎等トス。

化膿性腦膜炎ハ其ノ原因ニ注意シ又結核性腦膜炎ノ場合ニハ脊髄液ハ殆ント濁濁セス又其ノ細胞成分ハ主トシテ單核白血球ナルヲ以テ容易ニ鑑別シ得ヘシ。

四、豫防法 傳染ハ專ラ飛沫傳染ニヨリ傳染播布者トシテ健康保菌者最モ危険ナリ從來ノ統計ニヨレハ患者一ニ對シ保菌者約十人ノ比ナリ故ニ保菌者ノ檢索必要ナリ口覆、含嗽ノ勵行ヲ可トス敗血

症型ノモノハ尿中細菌ノ排出ニ注意ヲ要ス近時豫防接種ヲ有效トセラル。

液ハ多價ワクチンヲ可トス。

五、豫後 死亡率ヲ異ニシ多キハ七〇%ニ達シ少キハ二〇%ニ過キス幸ニ治癒スルモノ不具トナルモノ尠ナカラス。

六、療法

一般對症療法ノ他腰椎穿刺ハ必要ナリ。

血清療法 脊髓腔内液採取後一〇—二〇ccヲ注入シ連日又ハ隔日ニ數回反復ス敗血症ヲ伴フモノハ靜脈内注射ヲ併用ス保菌者ニハ自家ワクチン有效ナリト云フ其他過酸化水素水過マンガン酸加里ノ含嗽並塗咽藥等ヲ併用ス。

再歸熱

一、原因 再歸熱スピロヘーテ

(一)歐羅巴又ハ露西亞種

(二)アフリカ種

(三)アメリカ種

各種ハ只動物ノ感受性並免疫反應ヲ異ニスルノミニシテ臨床上何等ノ區別スル所ナシ。

二、地理的分布 波蘭、ロシヤ、愛蘭、東部アフリカ、北亞米利加埃及及印度ニ於テハ地方病性ニ存在ス我カ國ニ於テハ日清戰役ニヨリ病毒ヲ齎シ來リ東京ニ於ケル下級勞動者間ニハ絶ヘス患者ノ發生ヲ見ル。

三、傳染經路 オルニトドールス床蟲蚤虱等ノ昆蟲ノ咬刺ニ因ル。
 四、症狀 潜伏期ハ二―八日トセラル多クハ前驅症ヲ缺キ卒然惡寒
 戰慄ヲ以テ三十九度若クハ四十度以上ニ達シ一―五日稽留シタル
 後發汗ヲ以テ常溫以下ニ分利ス脈搏亦之ニ伴ヒ頻數トナリ日ヲ經
 ルニ從ヒ緊張減弱ス該發作ハ一回ニテ治スルモノアルモ多クハ數
 日間無熱期ニ經過シ再ヒ惡寒ヲ以テ第二回ノ發作ヲ來ス然レトモ
 第二回ノ發作ハ第一回ニ比シ經過短カク輕キヲ常トス又往々發作
 三―五回ニ及ヒ間歇期愈長クシテ發作益々輕ク遂ニ分利治癒ス。
 脾腫著明ニシテ發作分利ニ隨伴シテ腫張收縮スルモ硬度軟ナリ。
 肝モ亦多少肥大シ往々黃疸ヲ發スルコトアリ。
 發作時ニハ嘔吐頭痛衄血軀幹及七肢ノ疼痛筋痛等ヲ訴ヘ神識多ク
 ハ犯サレス尿中蛋白質ヲ含有ス。

赤血球ハ多クハ減少ヲ來シ後續發作程著明ナリ血色素ハ五〇―七
 〇% (ザリー)ニ低下シ色素指數多クハ一・〇以下ニ下降ス。
 白血球ハ過多症ヲ來ス場合多ク稀レニ減少症ヲ來スコトアリ第一
 回發作ニ於テ最高度ノ增多ヲ來ス。

中性多形核白血球ハ增多シエオジン時好細胞ハ正常以下ナリ。

五、診斷 卒然惡寒戰慄ヲ以テスル高熱熱型脈搏ノ頻數脾腫血中ス
ピロヘーテノ證明等。

血中スピロヘーテノ検査法 患者ノ血液ヲ取り生理的食鹽水ヲ加
 へ懸滴検査ニヨルカ墨汁ヲ加フルカ暗視野裝置ニ據ルヲ可トス若
 シ染色セントセハギムザ染色ヲ行フトキハ容易ニ之ヲ發見スルヲ
 得。

六、療法 サルグルサン療法

七、豫後 大多數ハ佳良ナルモ合併症ヲ來セルハ危險ナリ死亡率ハ二〇—四〇%ナリ。

八、豫防法 患者ノ隔離家屋ノ消毒床蟲蚤虱等ヲ驅除スルニアリ。

デング熱

原因並流行 病原ハ未タ明ナラサルモ恐クハ可濾性超顯微鏡的微生物ニシテクローレツクスフアチカンス若クハステゴミア種ノ媒介ニ依リ傳播セラル、モノナリト謂フニアリ臺灣ノ研究ニ依レハ動物中モルモット以外ノモノハ何レモ病原血液注射後體溫其ノ他ニ變狀ナク一般臟器又病的變化ヲ認ムルコト能ハス唯モルモットハ血液注射後早キハ七日目遅キハ三十日内外ニシテ死ノ直前食欲減退及多少ノ衰弱ヲ認メ大部分斃死ス脾ハ肥大シ充血ヲ來シ胃粘膜ニハ出血ヲ存シ腸ニハカタル症狀ヲ呈ス此ノ變化ハ恰モ人ノデング熱病ノ變化ト相似タリ而シテ患者ノ血液注射後又ハ其動物血液ヲ更ニ第二回移殖後モルモットハ共ニ斃死スルモ第三回ニハ死

セサルニ到ル點ヨリ見レハ病毒ノ減弱乃至消失ヲ意味スルモノニアラサルナキカ尙血液中ヨリハ何等細菌等ヲ發見セラレタルコトナシ然レトモモルモツトノ血液中ニハ病原體ハ少ナクモ若干時間生存シ或ハ増殖ヲナシオルモノニアラサルカラ疑ハシム而シテ病原體ハ患者ノ血液中ニ存在シ其ヲ人ニ接種スレハ發病セシムルモノナルコトハ已ニ明ナル事實ナレトモ病原體ハ血液中血清中ニアリヤ血球中ニアリヤハ尙成績一致セス又各種ノ實驗ニヨリテ病原體ハ發熱ノ次日ヨリ其後第六日即チ解熱日迄ハ患者ノ血液中ニ存在スルコト明トナリ此ノ期間ニ於テ患者ノ血液ヲ健康者ニ接種スレハ必ス發病シ尙其ノ接種ノ量ハ一立方糎ナルモ其ノ二百分ノ一量ナルモ共ニ五日餘ニテ發病スル事實ニヨリテ見レハ接種量ノ大小ハ潜伏期ノ長サニ著シキ差異ヲ生セシメサルモノナルヤモ知ル

ヘカラス只自然感染時ニ於ケル潜伏期ハ病原體カ直接血液ニ移殖セラルルニヨルモノナルヤ不明ナルヲ以テ前記實驗ヲ以テ直ニ推定スルコト困難ナリ。

臺灣ニ於テハ時々カ侵襲ヲ受ケ臺灣島醫生間ニハ斑疹ノ名ヲ以テ知ラル。

本病ハ熱帶亞熱帶地域ニ於テ屢々大流行ヲ來シ臺灣ニ在リテハ大正四年五月ヨリ十月ニ互リ南部高雄ニ始マリ疾風迅雷ノ勢ヲ以テ全島ヲ席捲シタルコトアルモ軍隊ニ於テハ比較的少數ノ患者ヲ出セルノミ。

大正四年臺灣軍隊ニ流行セル Dengue 熱患者表左ノ如シ。

患者數	區分						計
	臺步一	臺步二	臺山砲一	臺山砲二	澎湖	臺北	
八	一六	一	二	五二	四	三三	一四二
六	二八	九	一四〇	四四七	四四	二八九	一四二
治療日數	八	一六	一	二	五二	四	三三
	六	二八	九	一四〇	四四七	四四	二八九

本病ハ熱帶地ニ於テハ散在性ニ四時本病ノ根絶セシコトナク熱帶
圏外ヨリ來ル者ハ早晚本病ニ罹リ襲撃ヲ免レタルモノ殆ントナシ
流行狀態ハ流行性感胃ニ類似シ猛烈ナル勢ヲ有ス。

症狀 本病ノ徵候ハ熱型關節痛發疹ノ三ナリ第一期(熱發期)第二期
(發疹期)ニ區分ス。

(一)潜伏期 平均三日トスレトモ臺灣ニテハ五日又ハ六日ナルモノ
多シ。

(二)前驅症狀 全身倦怠頭重、頭痛、食思減退、肩胛部及上肢レウ
マチス様疼痛トス之ヲ缺如スルカ甚タシク短キコトアリ。

(三)第一期(熱發期) 俄然惡寒時ニ戰慄ヲ以テ熱發シ結膜充血流淚
羞明咽頭充血及鼻加答兒ノ症候アリ顔面潮紅シ恰モ日ニ焦ゲタル
ガ如ク劇シキ頭痛關節痛固有ナリ食慾減少ヲ伴フコト他ノ疾病ニ

比シ顯著ナリ。

初期發疹ハ手掌及手背尺骨側ニ現ハレ前膊上膊ノ内側上胸部ニ波
及ス紅斑様多型性ニシテ數時間乃至一、二日ニシテ消褪スルヲ常
トス。

(四)第二期發疹期(終末發疹期) 體溫ノ上昇ニ伴ヒ發疹ハ手掌手背
前膊上膊次テ全身ニ蔓延シ發病第四日乃至第六日ニ於テ最モ著明
ナリ發疹全身ヲ被フニ至ルトキハ體溫ハ下降分利ス發疹ノ現出ト
共ニ搔痒輕痛限局性ノ知覺障礙ヲ呈スルコトアリ疹ハ麻疹様猩紅
熱様若クハ蕁麻疹様等ニシテ小溢血斑若クハ水泡ヲ形成スルモノ
アリ解熱後一、二日ニシテ褪色暗紫色トナリ色素ノ沈著ヲ遺スコ
トナシ徐々ニ糖枇狀落屑ヲナシ二週乃至三週ニ及フ。

頭髮ノ脱落ヲ見ルコトアリ頸腺腋窩腺鼠蹊ハ屢腫張疼痛ヲ發ス。

(五)熱型 熱型ハ第二期性發作アリ初期熱型ハ數時間ニシテ四十度前後ニ達シ最高四十度以上ニ及フコトアリ次テ數時間或ハ一兩日ニシテ劇シキ發汗ト共ニ分利ス二三日間ハ三十七八度内外ニ弛張シ再度上昇第二期(發疹期)ニ移行ス體温ハ概テ階段狀ニ上昇シテ三十九度乃至四十度内外ニ達スルモ數時間ノ後分利シ早キハ發病第六日遲キモ第七日ニシテ平温ニ下降ス。

熱型中初メヨリ第二期發疹期迄間歇期ノ弛張ナク高熱持續シ發病第四乃至第五日ヨリ散渙狀ニ下降スルモノ又ハ初期熱發ノミニシテ第二期熱發ヲ缺クモノアリ。

(六)其ノ他ノ症狀 重症者ハ尿ニチアツオ反應ヲ呈ス脾腫ハ稀ナリ赤血球竝ニ血色素ニ著變ナク白血球ノ減少竝大單核細胞ノ増加ハ本症ノ注意スヘキ點ニシテ中性白血球及小淋巴球ノ減少ヲ呈シエ

オジン嗜好細胞ハ著變ナシ先天免疫ハ多少存在スルガ如キモ病後免疫ノ期間ハ甚タ短キカ如シ一流行期間ニ再感スルモノ稀ナラス

診斷 前記諸症ニヨリ診斷敢テ困難ナラス本病ト鑑別ヲ要スル疾患左ノ如シ。

流行性感冒、急性關節レウマチス、猩紅熱、麻疹、指端過敏症、
ワイル氏病、風疹、黃熱トス。

豫後 生命ニ關スル豫後ハ佳良ニシテ未タ單純ナル本症ノ爲ニ死亡シタル例ヲ知ラス然レトモ病後ノ衰弱及消化機障礙ハ甚タ長時日ニ涉リ全治シ難キモノ稀ナラス。

豫防法 本病ノ傳播ハ蚊族ニ依ルモノト認メラルルヲ以テ檢疫ヲ嚴ニシ患者ヲ隔離シ防瘧法ヲ嚴守スルヲ要ス。

療法 待期的療法ニシテ未タ特效藥ナルモノナシ。

麻刺利亞

一三八

麻刺利亞原蟲 麻刺利亞原蟲(フラスモヂウム)ハ單細胞原生動物ニシテ人體内ニアリテハ無性生殖蚊體內ニアリテハ有性生殖ヲ營ミアノフェレスハ固有宿主。人體ハ中間宿主ト認メラル無性生殖ハ原蟲發育シテ核ハ分裂シ原形質モ亦分裂シテ多數ノ小個體即チメロツオイトヲ形成ス此ノ小個體ハ各再ヒ新シキ赤血球ニ浸入ス此ノ期ハ熱發作ト相一致スルモノトス有性生殖ハ無性生殖即チシツオゴニー中形生セラレタル雌雄(大小)ガメートガ蚊ノ胃内ニ入レハシツオントハ死滅シガメートハ成熟受精シオーキネートトナリ胃壁ニオーチステヲ生シ核分裂ニヨリ多數ノスプロプラストニヨリ多數ノスプロツオイトヲ生シ此ノスプロツオイトハ唾液腺

ニ集ル。

麻刺利亞原蟲ニ三種ヲ區分ス。

- (1)三日熱原蟲 北ハ樺太ニ達シ北海道本州九州朝鮮支那琉球臺灣等ノ熱帶亞熱帶地共最モ廣ク汎布ス。
 - (2)四日熱原蟲 日本内地ニナシ臺灣ニハ發生稀有ナラス。
 - (3)熱帶熱原蟲 八重山竝ニ臺灣ニハ比較的多シ。
- 三日熱原蟲ハメロツオイトヨリ分裂迄ニ要スル時間ハ四十八時間トス。

初ハ三日熱小環狀體ヲ形成シ赤血球ノ六分ノ一大ヲ占メ忽チ發育シテ大環狀體血球ノ三分ノ一大トナル血球又膨大スアメーバ様態次テ桑實狀トナリ遂ニ二十四—二十五個ニ分裂ス。

經過中小環狀體ヨリ雌雄ガメートヲ生シ雌ハ稍大ニ原形質濃染シ

クロマチンハ少シ雄ハ稍小ニシテ原形質濃度淡ククロマチンハ多シ。

四日熱原蟲ハ發育ニ七十二時間ヲ要ス。

環狀體ヨリ帶狀帶次テ四角形ヲ呈シ遂ニ菊花狀ニ化シ八個一十二個ニ分裂ス血球ハ膨大セスアメーバ狀ヲ呈セス。

ガメートハ三日熱ト大差ナシ。

熱帶熱原蟲ハ二十四時間—四十八時間ヲ要ス小環狀體ヨリ中、大環狀體トナルモ大サ血球ノ六分ノ一ニ過キス環狀體ハ内臟毛細血管中ニ入り茲ニ發育分裂シ二十一—三十二個ニ分ル赤血球ハ寧ろ萎縮シ時ニ血球中二—三ノ原蟲ヲ認メ血球ノ表面ニ存スルコトアリガメートハ固有半月形ニシテ赤血球ノ二倍大ニ達ス女性ガメートノ單生生殖即チ分裂體ニ變化スルノ說ヲ以テ再發ノ原因ト認ムル

モノ多シ然レトモ再發ニ就テハシツオントノ遺存說又力アリテ兩者一致スルニ到ラス原蟲最終ノ運命如何モ亦詳カナラサル所ニシテ從テ再發ニ關シ絶對撲滅ヲ期シ得ヘキヤモ未詳ナリ。

アノフェレス

アノフェレス蚊動物學上ノ分類

麻刺利亞媒介蚊タルアノフェレス蚊ハ動物界中前肢類ノ昆蟲類中雙翅類ノ亞目線狀觸角族中蚊料動物ニシテ從來之レヲ九亞科八十二屬ニ分ツ(セオバルト)吾人日常接觸シテ煩痒ヲ與フルモノハアノフェレス亞科及クレーレツス亞科トス。

アノフェレス亞科ハ更ニ二十二屬百二十餘種ニ區分セラレアリシカ(セオバルト)近年ニ至リテハ其等ノ屬ノ獨立ヲ認メス全部アノフェレス屬ニ併合セララルニ至レリ以上新分類ニヨリ總テニアノ

フェレスノ名稱ヲ冠セリ。

臺灣ニ於ケルアノフェレスノ種類ハ約九種ニシテ次ノ如シ(小泉氏)

- (1) アノフェレス、シネンジス *Anephelus sinensis*
- (2) アノフェレス、プレツカウ *A. plecau*
- (3) アノフェレス、ミニムス(リストニー) *A. Minimus*
- (4) アノフェレス、マクテトウス(ウイルモリ) *A. Maculatus*
- (5) アノフェレス、テツセラーツス(ブンクチュタタ) *A. Tessellatus*
- (6) アノフェレス、フリギノーズス *A. Fuliginosus*
- (7) アノフェレス、スブレンテイヅス(マキユリバルビス) *A. Splendidus*
- (8) アノフェレス、ハトリイ *A. Hatori*

(9) アノフェレス、ロツシイ *A. Rossii*

備考 以上ノ他臺灣内ニモア、コツヒイヲ發見セリト謂フ報告

アリ。

アノフェレスノ分布區域次ノ如シ。

名	日				本	其		他
	内地	琉球	臺灣	印度		印度支那	比律賓	
アノフェレス、シネンシス	+							
アノフェレス、プレコウ			+					
アノフェレス、ミニムス			+					
アノフェレス、マクラトウス			+					
アノフェレス、テツセラーツス			+					
アノフェレス、フリギノーズス			+					
アノフェレス、スブレンヂヤニス			+					
アノフェレス、ハトリイ			+					

アノフェレス媒瘡性ニ關シ臺灣内ニ於ケル從來ノ調査ハ次ノ如シ。

三日熱チ輕度ニ傳染スルモ多數ナル關係上若干ノ意義アリ四日熱又傳播スルト謂フ
三日熱 都築、宮島氏ハ其ノ媒介者ナルコトヲ實驗セリト謂フ
小泉氏ハ本病原蟲ノ發育盛ナラズト云フ
四日熱 木下宮島二氏ハ本病原蟲ノ發育シ得ルコトヲ知レリ

アノフェレス、ミニムス
三日熱熱帶熱共ニ強度ノ傳播チナシ大ナル意義チ有スルモノナリ
熱帶熱 木下氏ハ吸血試験ニ於テ五〇—九八%ニ感染セシメタリ

アノフェレス、テツセラーツス
麻刺利亞傳播者ト云フモ大ナル意義チ有セサルモノナラン
熱帶熱 木上氏ハ五中三ニ本病原蟲ヲ感セルヲ證セリ

アノフェレス、フリギノーズス
麻刺利亞傳播者ナリト言フモ少數ノ關係意義少ナシ
熱帶熱 クリストフアー、ステフェニン、邊氏ニヨリ本病原蟲ノ包囊ヲ形成シ得タリ
四日熱

アノフェレス、スプレントイツス
前者ニ同シ

アノフェレス、ハトリ
アノフェレス、ラドロウイ
モ媒介性アリ其ノ種類不明ナリ

各種麻刺利亞媒介者トシテハ熱帶熱ハ主トシテアノフェレス、マクラトウス、アノフェレス、ミニムスニ依リ三日熱ハアノフェレス、シネンジスニ因スルモノナルカ如シ。

アノフェレス蚊ノ發生地

- 一、概シテアノフェレス蚊ハ普通ノキユレツクス蚊ト異ナリテ比較的清キ水中ニ於テ發育ス（汚穢セル水中ニモアノフェレス蚊ハ成育スルコトアリ小泉氏）
- 二、田圃及其ノ灌溉溝ハ普通アノフェレス、シネンシスノ發育ヲ見ル（ウオットナン氏）（小泉氏）
- 三、圳路及溝渠（岸ノ土堤ニ草生シ水ノ澱ム所）アノフェレス、ミ

ニムス、アノフェレス、マキユーラツス多ク發育ス。

四、河川溪流河崖河床河岸ノ湧水瀦溜（流速ノ緩徐ナル河岸草茂ル地）

アノフェレス、シネンジス

アノフェレス、ハトリ

アノフェレス、マキユーラツス

五、池沼凹地坑穴等ノ諸流ノ流入スル瀦溜地及濕潤地ニ種々ノアノフェレス集合シ來リテ成育ス。

六、湧泉（アノフェレス、ミニムス、アノフェレス、マキユーラツス等アリ）

七、植物（草卉樹木叢森林等ナリ）概ネアノフェレス以外ノモノナリ。

アノフェレストクユレツクストノ鑑別

アノフェレス

卵

- 一、長サ〇・六ミリ米
- 二、形状不正紡錘形ホート形
- 三、孤立又ハ星形ヲ呈ス
- 四、側面ニ空氣胞囊アリ浮游性ヲ帶ブ
- 五、水平面ト平行

幼

蟲

- 一、全般ニ色ハ暗色
- 二、體ニアル毛ハ羽狀ヲ有ス
- 三、體ニ掌狀毛ヲナス
- 四、吸氣管ナシ短キ氣孔アリ
- 五、水面ニ平行ス
- 六、頭部ノ發育不良

蛹

頭部胸部ノ直徑水面ト平行ス

アノフェレストクレシクストノ區別ハ第一羽根ノ色第二鬚第三羽

クユレツクス

卵

- 一、長サ〇・七ミリ米
- 二、形状硝子瓶狀ヲナス
- 三、長軸ニ併立シテ束狀トナル
- 四、下端ニ空氣皿ヲ有スルカ如シ
- 五、水平面ニ斜トナル

幼

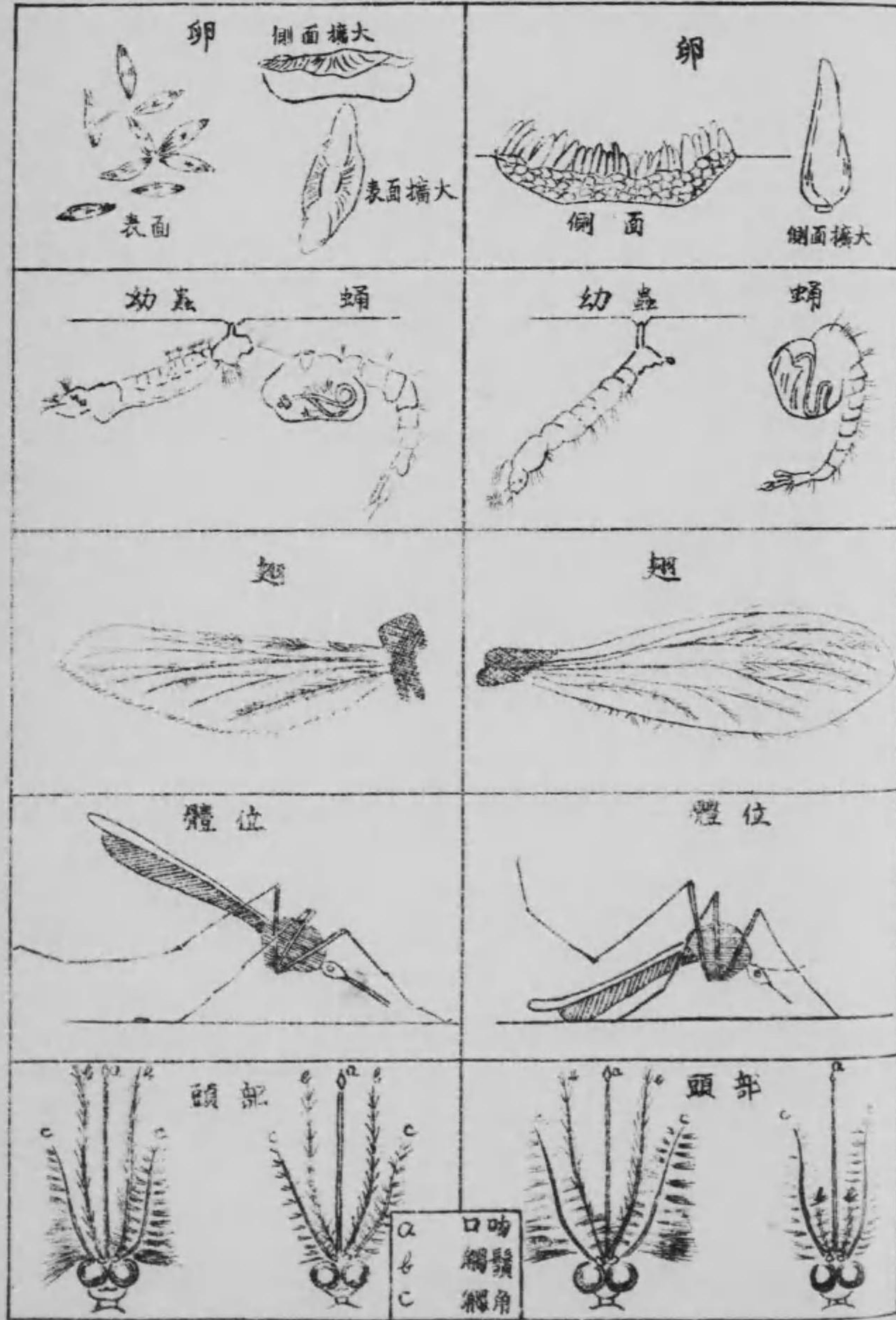
蟲

- 一、全般ニ色ハ褐色
- 二、毛ハ分枝スレトモ羽狀ヲナス
- 三、掌狀毛ナシ
- 四、吸氣管アリ
- 五、水面ニ斜ニ下垂セリ
- 六、頭部ノ發育良好ナリ

蛹

頭部胸部ノ直徑水面ト直角ヲナス

アノフェレスト、クエレックストノ區別圖解
(アノフェレス) (クエレックス)



鑑別圖左ノ如シ。

- 蚊 體
- 一、翅ニ斑點アリ鱗層ハ檢狀刀形
 - 二、頭部胸部腹部口吻ハ一直線ナナス
 - 三、靜止スルトキハ壁ニ對シテ四五度ノ角度ヲ形成ス(例外アノフェレス、グリシフエーシエスハクレッツクスト同シ體位ナナス)後肢ハ吸血ノ際下ニ觸レス
 - 四、觸鬚ハ雌雄共ニ口吻ト同長ニシテ雄ハ觸鬚大ナリ
 - 五、芽宮ノ發育不良
 - 六、肢ハ前ヨリ後方ニ向ヒ漸次長シ
 - 七、唾腺ノ末端ニ壺部アリ
- 蚊 體
- 一、翅ニ斑點ナシ鱗層ハ狹クシテ伸直ナリ
 - 二、頭部胸部腹部ニ口吻ハ腹面ニ多少ノ風曲ス
 - 三、壁上ニ靜止スル時體ハ概シテ水平ナリ吸血ノ際肢ハ總テ臺上ニ置ク
 - 四、觸鬚ハ雌ハ雄ニ於テ甚タ短ナリ雄ハ口吻ヨリ長シ
 - 五、芽宮ノ發育良好三葉トナル
 - 六、肢ハ全部概シテ同長ニシテ體長ニ等シ
 - 七、唾腺ノ末端ニ壺部ナシ
- 但クエレックス、ミメチイクスハ羽ニ斑點アルモ體ニ黄色ノ輪アリ又クエレックス、ピオニオルヒンクスハ羽ノ色黒ケレトモ斑ナシ。

縁ノ斑紋ノ有無ニヨリ區分ス概ネ左ノ如シ。

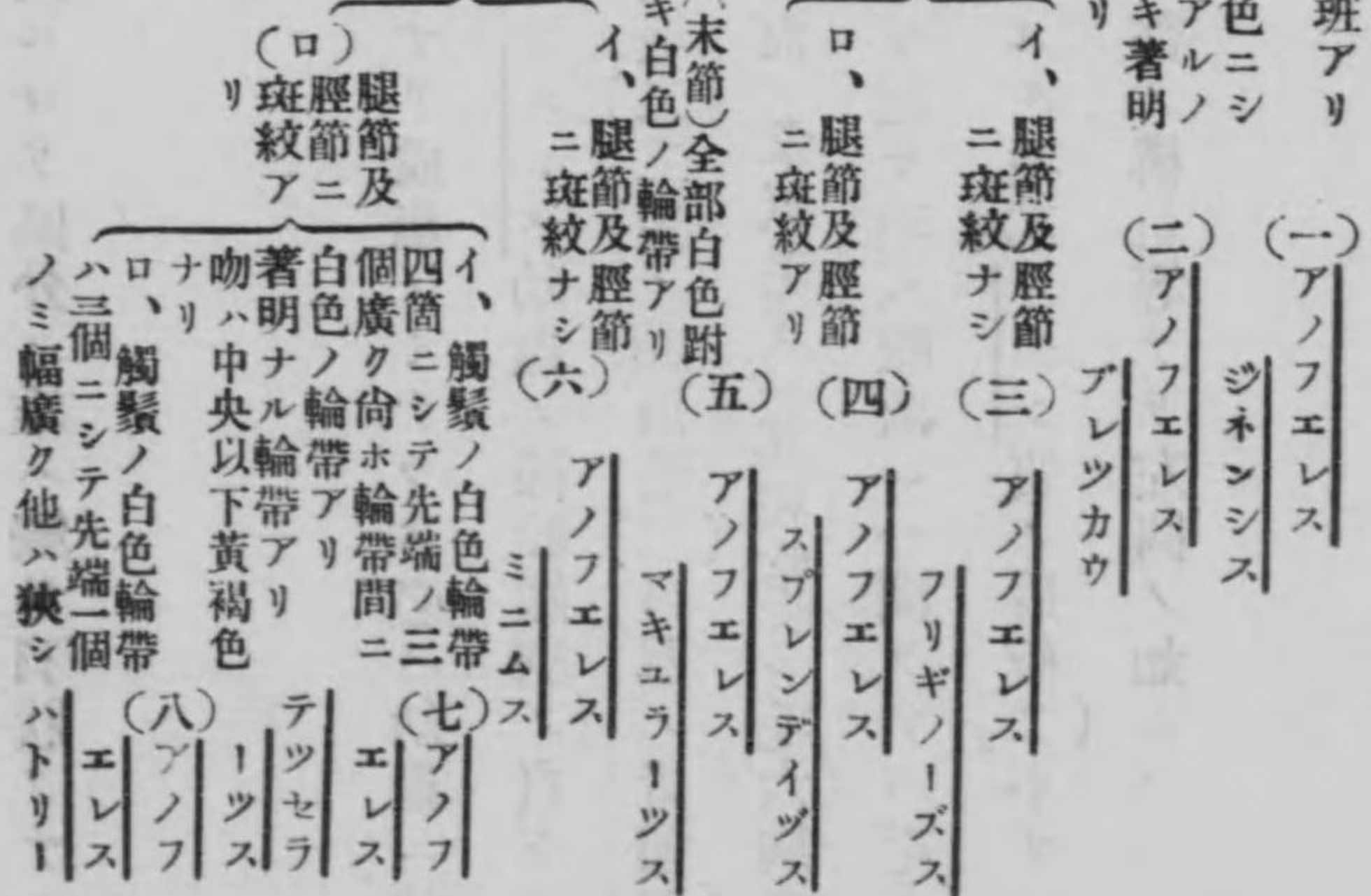
「アノフェレスノ」種類鑑別（小泉氏）

甲 翅ノ前縁脈ノ明斑
二個以下體大ナリ

前縁脈ニ二個ノ明斑アリ
前縁脈ノ大部分黒色ニシ
テ末端三個ノ明斑アルノ
ミ後肢ノ腿節ニ廣キ著明
ナル黄色ノ輪帶アリ

乙 翅ノ前縁脈ノ明斑
四個以上ナリ

(1) 後肢第一跗節ノ
末端及其以下
ノ諸節全部白色
ナリ
(2) 後肢ノ第四跗節
ノ關節部ニ廣キ白色ノ
輪帶アリ
(3) 後肢ノ跗節ニ全
部白色ナシ

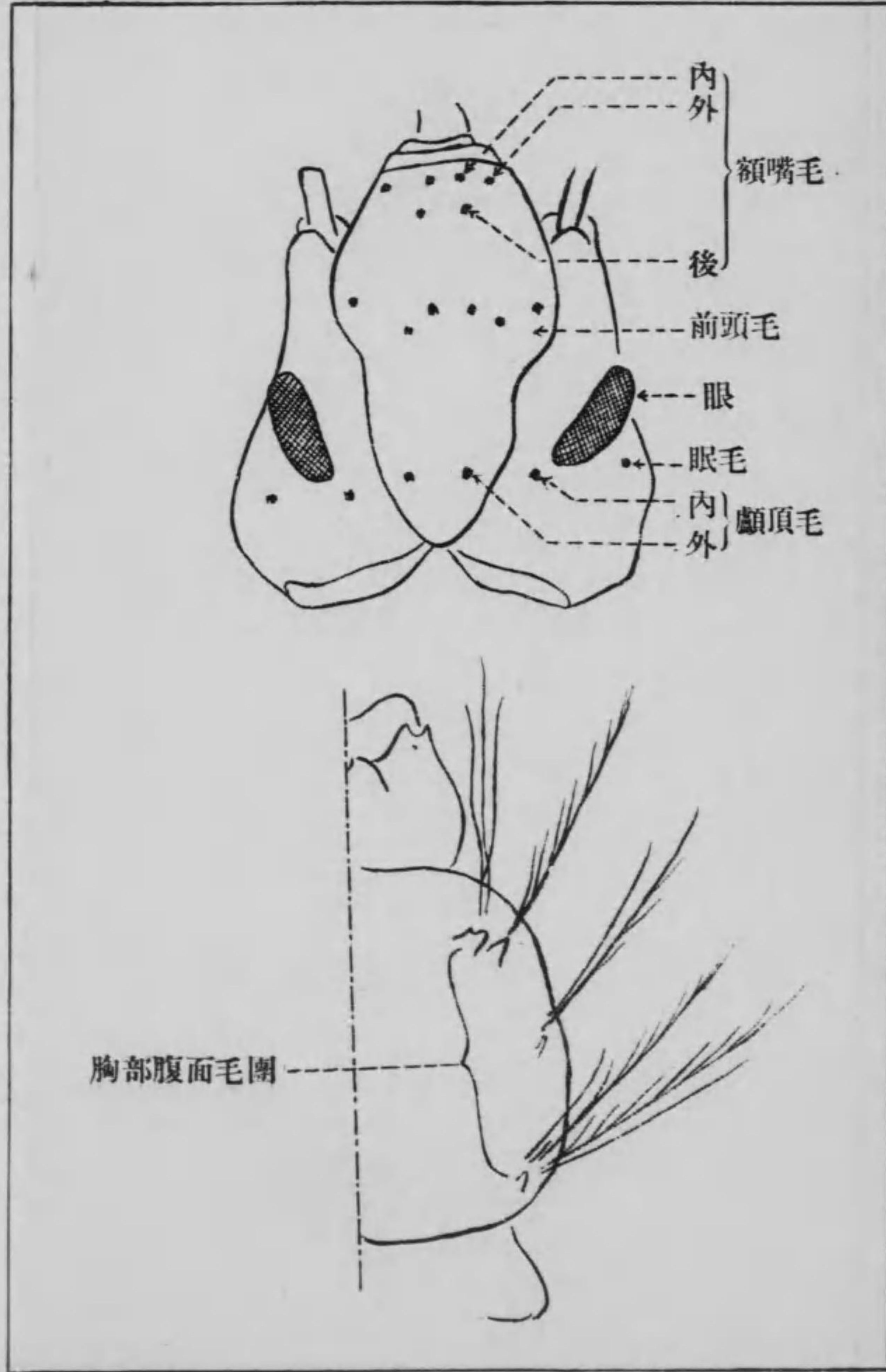


アノフエレスノ雌雄ハ觸鬚觸角ニヨリ區分ス雄ハ觸角羽狀ヲナシ觸鬚末端膨大ス。

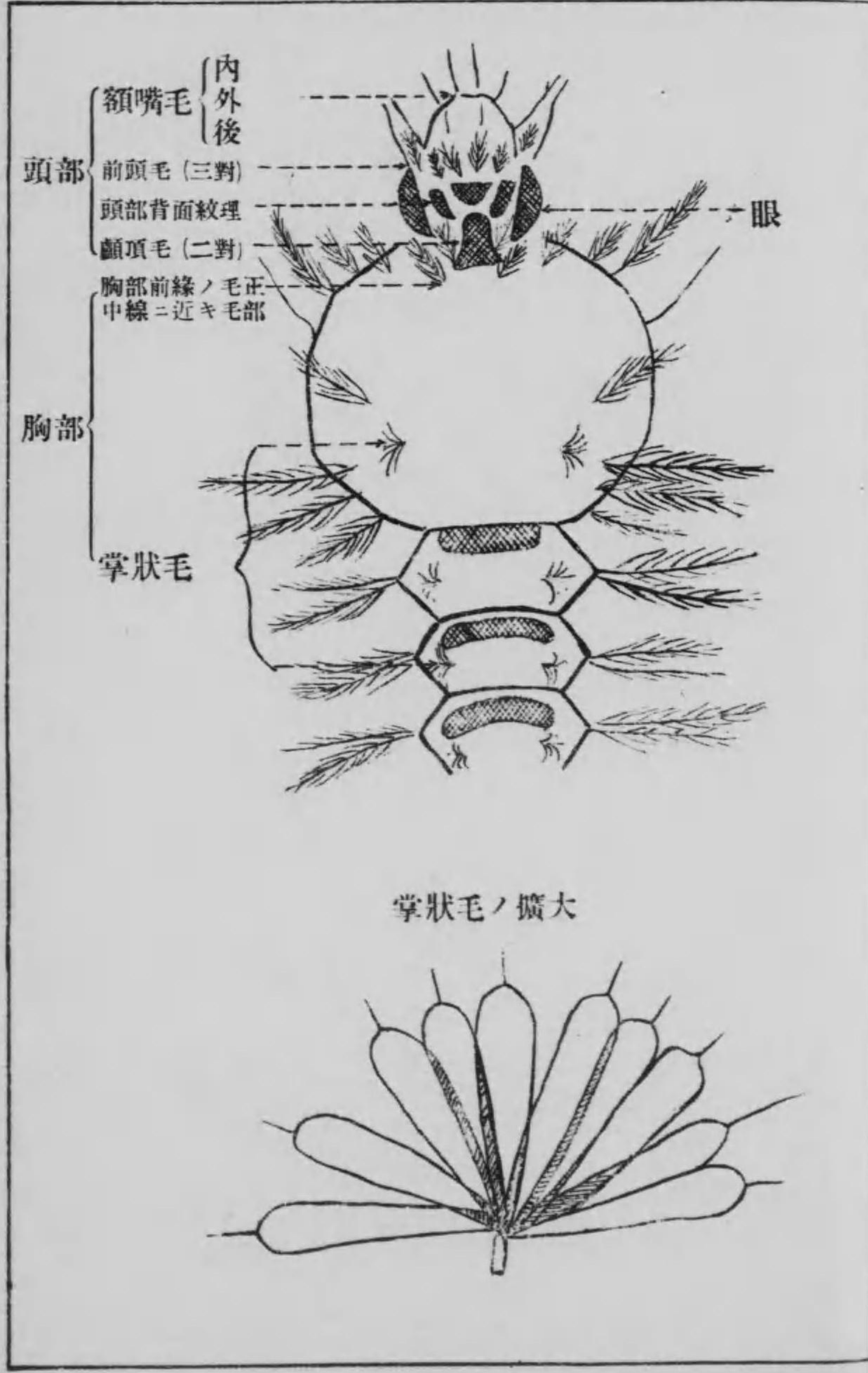
幼蟲ノ種類鑑別

幼蟲ノ形態學的研究ハ近時重要ナリ成蟲ノミナラス必ス幼蟲ニ就テモ検査スルヲ要ス而シテアノフエレス幼蟲ノ種類鑑別ノ資トナルハ一)頭部内外後ノ三對ノ額嘴毛二)二對ノ顛頂毛三)口器ノ諸節四)背面上ノ黑褐色ノ紋樣五)胸部背面ノ掌狀毛又ハ其相當スル毛六)胸部前緣ノ毛ノ列七)胸部正中線ニ最モ近キ毛八)腹面ニ一團ヲナス毛九)腹部背面ノ掌狀毛又ハ其ニ相當スル毛一〇)キチン質ノ盾板二)小ナル毛ノ特殊ナルモノ三)呼吸器ノ一部ノ構造等ナリ左圖ノ如シ。

根部ノ詳圖



アノフェレス、ミニムス 幼蟲



幼蟲ノ形態學的研究ハ近時重要ナリ成蟲ノミナラス必ス幼蟲ニ就
 テモ検査スルヲ要ス而シテアノフェレス幼蟲ノ種類鑑別ノ資トナ
 ルハ(一)頭部内外後ノ三對ノ額嘴毛(二)二對ノ顛頂毛(三)口器ノ諸節(四)
 背面上ノ黒褐色ノ紋様(五)胸部背面ノ掌狀毛又ハ其相當スル毛(六)胸部
 前縁ノ毛ノ列(七)胸部正中線ニ最モ近キ毛(八)腹面ニ一團ヲナス毛(九)
 腹部背面ノ掌狀毛又ハ其ニ相當スル毛(十)キチン質ノ盾板(二)小ナル
 毛ノ特殊ナルモノ(三)呼吸器ノ一部ノ構造等ナリ左圖ノ如シ。

左記主要ナル幼蟲八種ニ就キ大體ノ區別ヲナスタメノ檢索表ヲ揚ク。

アノフェレス幼蟲檢索表

甲、内額嘴毛ハ正中ニ相接近シテ位置ス體ハ大ナリ。

(一) 外額嘴毛ハ房狀ナリ ア、シネンシス

(二) 外額嘴毛ハ單條ナリ ア、プレツカウ

乙、内額嘴毛ハ相隔リテ位置ス體ハ小ナリ。

(一) 胸部竝ニ第一腹節以下ニ掌狀毛アリ額嘴毛ハ内外共ニ單條ナリ。
ア、ミニムス

(二) 胸部ニ原始的ナル掌狀毛アリ。

(イ) 内額嘴毛ハ數條乃至十數條ノ細枝アリ外額嘴毛ハ房狀ナリ

ア、フリギノーズス

(ロ) 内外兩額嘴毛何レモ單條ナリ。
ア、テツセラーツス

(三) 胸部ニ掌狀毛ナシ内額嘴毛ハ單條或ハ二三乃至十數條ノ細枝ヲ具ヘ外額嘴毛モ單條ナルカ或ハ二三乃至數條ノ細枝ヲ具フ

ア、マクラトウス

ア、スブレンデイツス

ア、ハトリイ

掌狀毛ハアノフエレスニアリテハ腹部第三節ヨリ以下ニハ何レモアリ只胸部ト第一第二節ニアルハ種類鑑別上肝要ナリ。

蚊ノ研究法

蚊體ノ解剖

蚊體ノ名稱ヲ表示スルニ左ノ如シ。

區	分	各	部	名	稱	摘	要	
頭	部	眼	眼	(Auge)	複眼ニシテ最大Ternノ廣サチ跳ム エビフアリンキス(上唇)マンザア ル(顎)マキシラ(顎)ヒボフアリキ スラビウム(下唇)ラベルラ(小唇) ノ區分アリ。吸攝ノ用ナナス 觸覺ヲ司ル 聽覺嗅覺ヲ司ル	觸鬚 (Palpi)	觸角 (Antennae)	
			中胸 (Mesothorax)	芽宮 (Sutellum)				前胸 (Prothorax)
胸	部						二葉ニシテ翅脈ノ分布ハ時有ナリ 前緣脈並ニ副脈六條ノ第一―第六 縱脈アリ 前緣脈ハ翅ノ周圍ヲ圍繞ス 體ノ平衡ヲ保持ス	八節アリ他ノ體部ト同シク鱗片ヲ 以テ被ハル鱗片ニ種々ノ形狀アリ
		腹	部					

蚊體並ニ諸機關式圖ノ如シ。

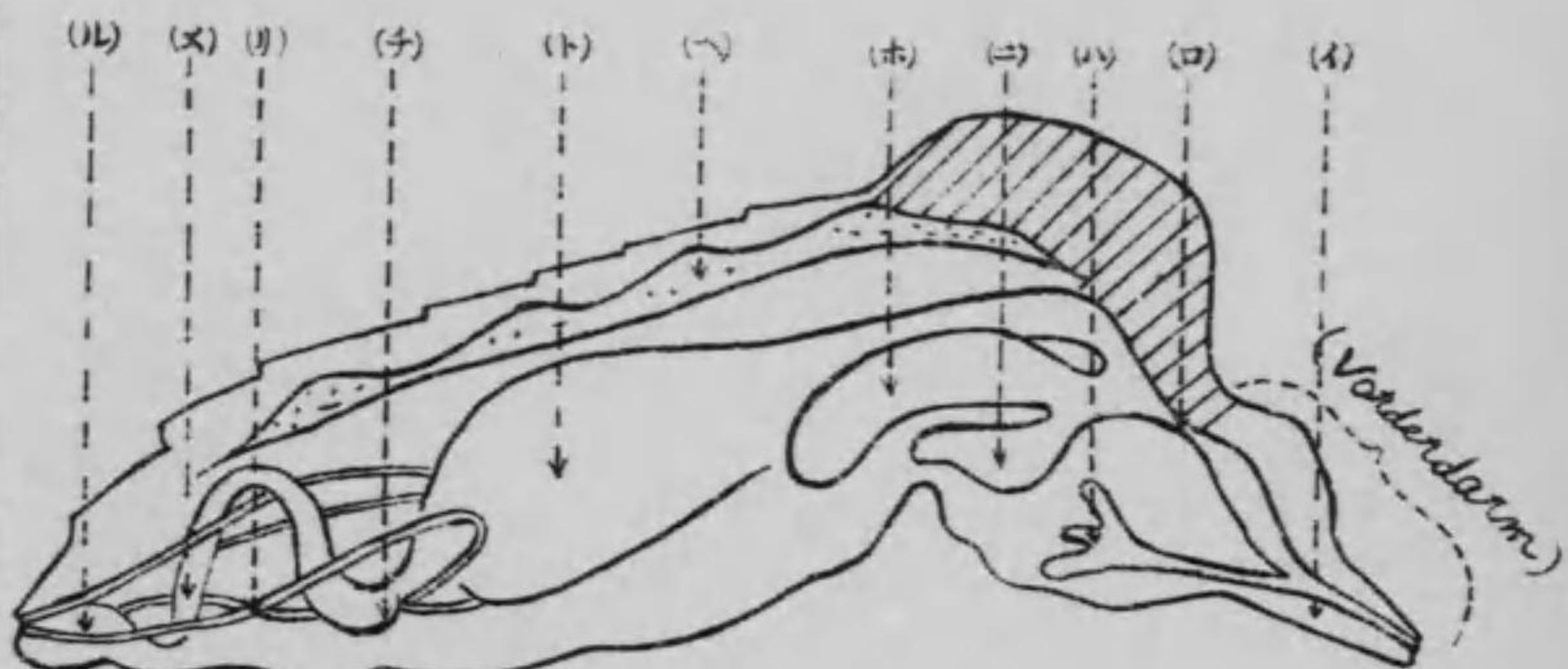
[Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through or extremely faded print.]

郡	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
...
...

[Detailed description of the table content: The table contains multiple rows and columns of text, likely representing administrative or geographical data. The text is very faint and difficult to read, but appears to be organized in a grid format.]

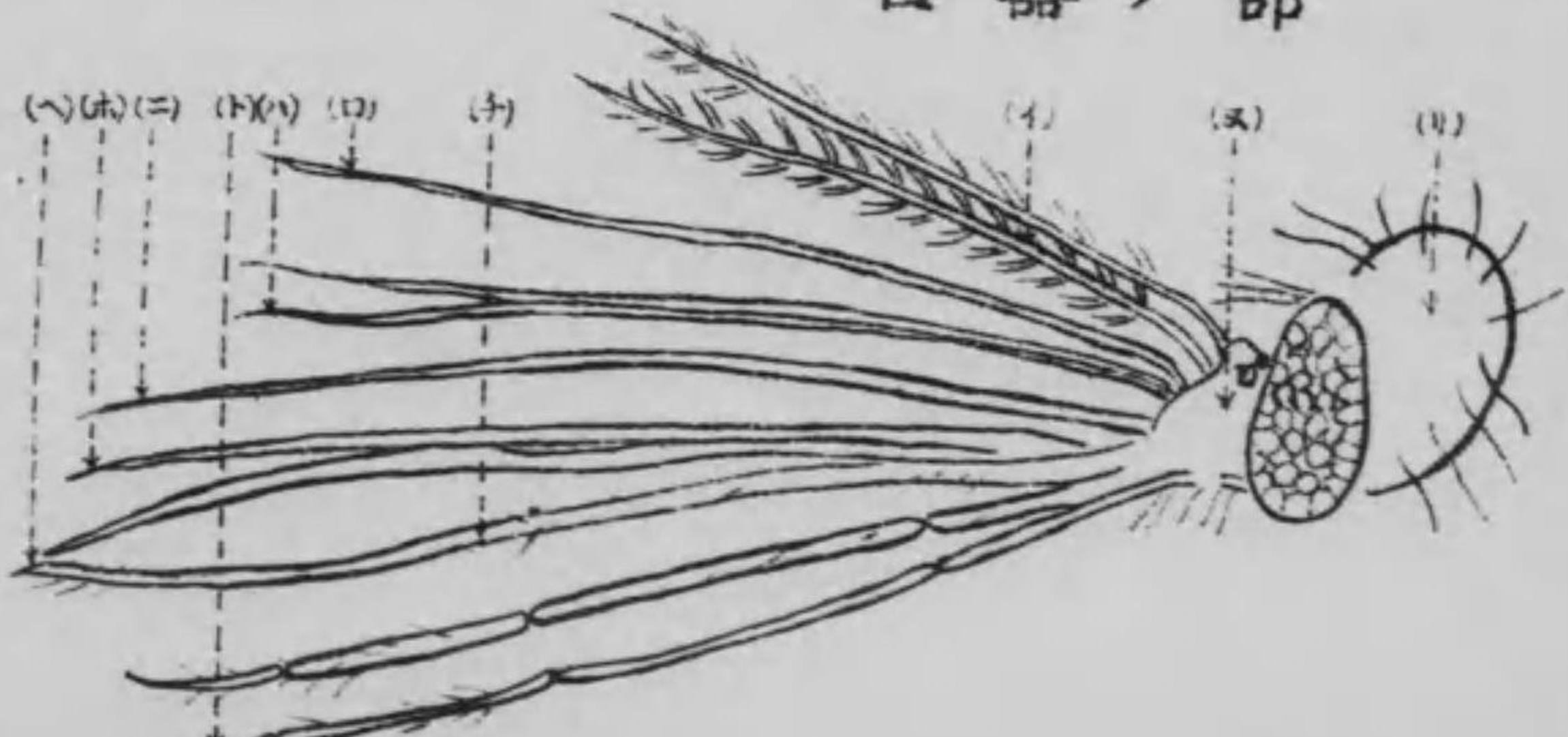
對德通商口岸之通商口岸

内臓ノ部

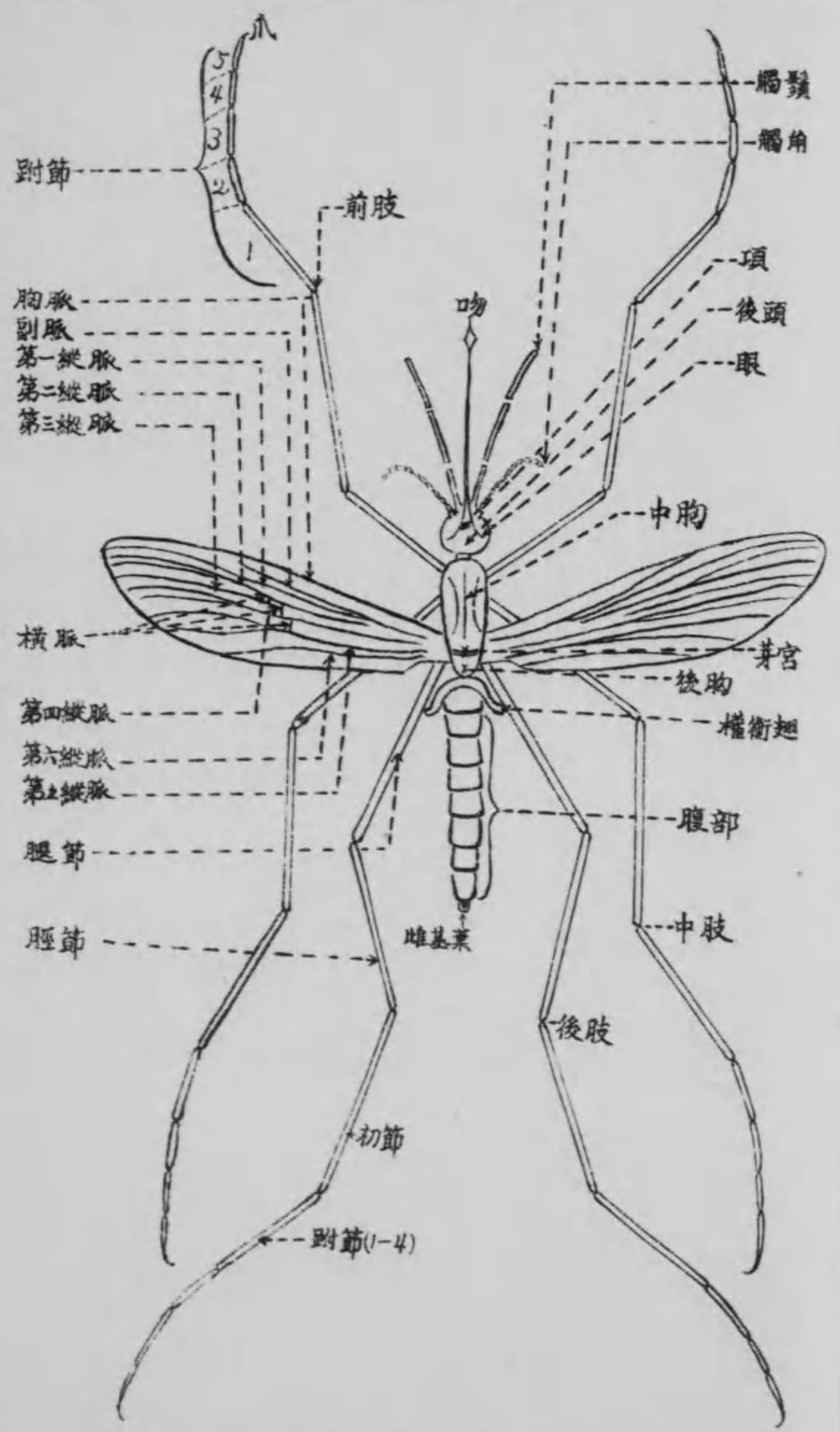


- (1) 口部 *münd*
- (2) 食道 *Ösophagus*
- (3) 唾液腺 *Speichel drüse.*
(スボツトノ組織ニ來タル所ニシテ唾液ト共ニ吐出ス)
- (4) 副唾液腺 *Sacci accessorii.*
(空氣ヲ含ム左右一対アリ)
- (5) 主唾液腺 *Sacci principia.*
(食物残渣血液ニリツテ貯ラザルニ際入口ニ分泌スル此ノリツノ爲ナリト云フ)
- (6) 背血管 *Circulations organo.*
- (7) 中腸 *magen.*
(ヤリテ消化ノ業ヲ行ハス)
- (8) 腸門 *Glaim.*
- (9) 小腸 *maipighischen Gefüße.*
- (10) 後腸 *hinterdarm.*
- (11) 直腸 *Rektum.*

口器ノ部



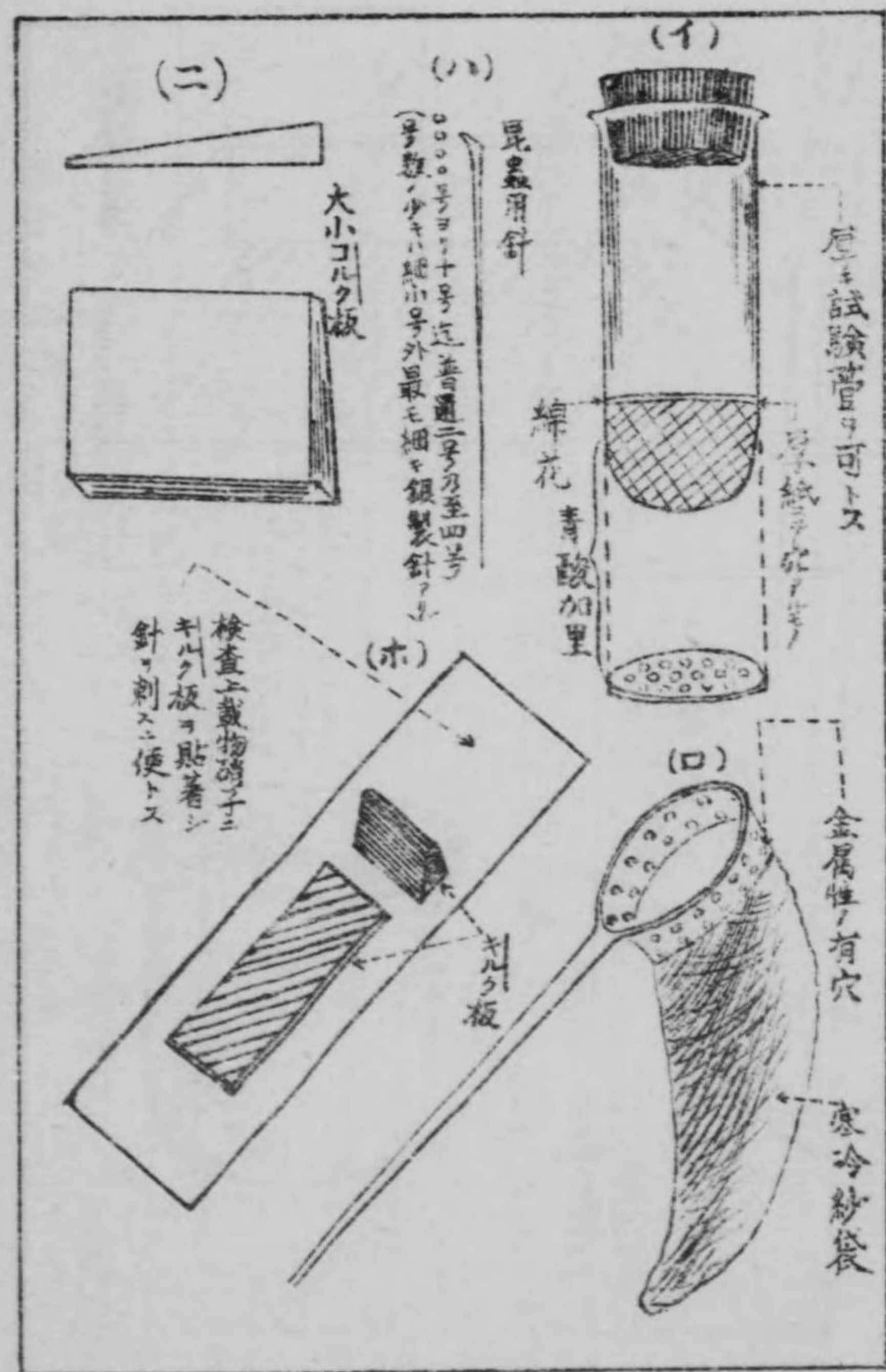
- (1) 觸角 *antennae.*
- (2) 上唇 *epipharynx.*
- (3) マンダブル *mandible.*
- (4) ヒョウコウ *lypopharynx.*
- (5) マキシヤ *maxillae.*
- (6) 小唇 *labella.*
- (7) 下唇 *labium.*
- (8) 觸鬚 *Palpi.*

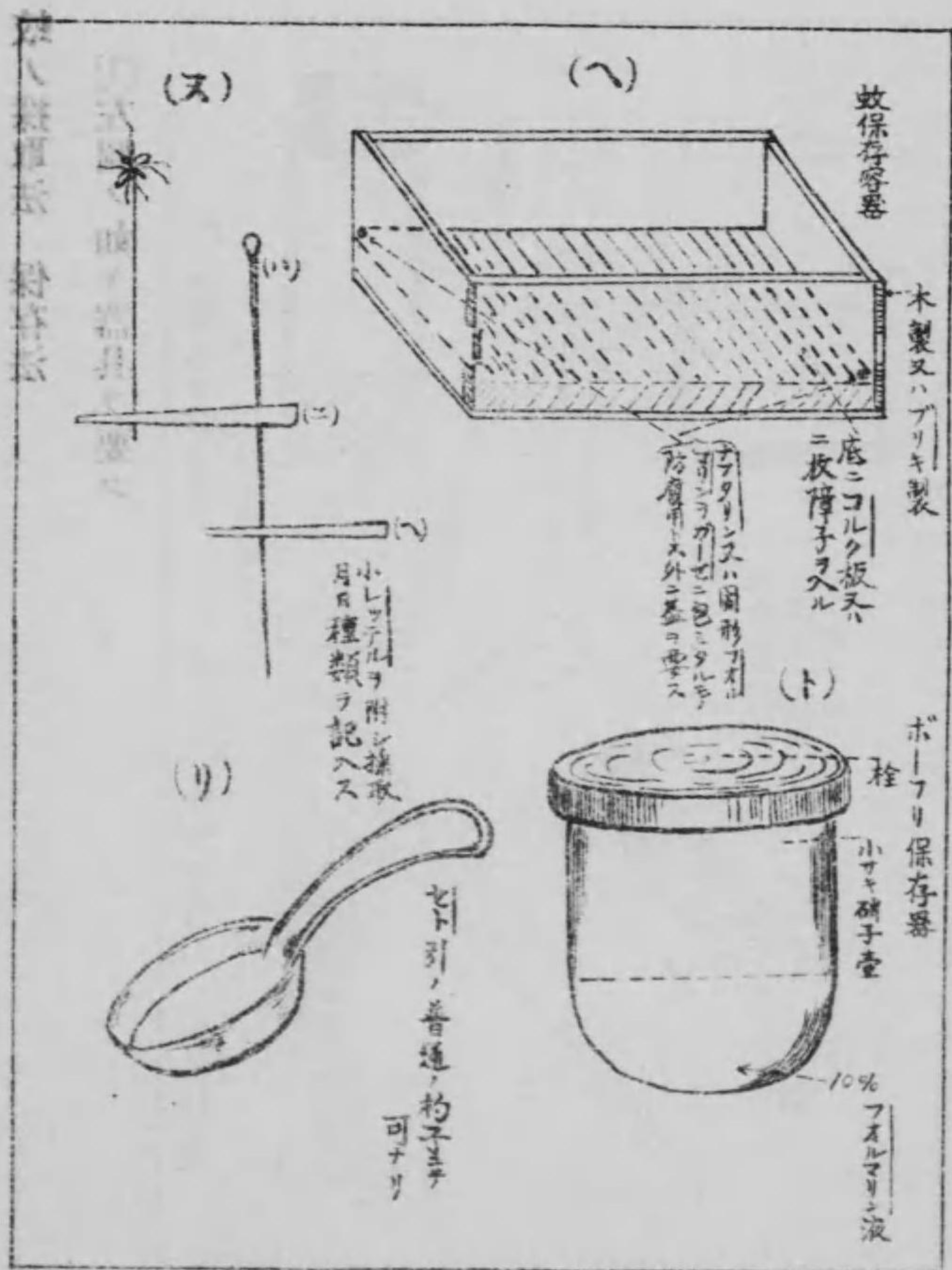


- 觸鬚
- 觸角
- 項
- 後頭
- 眼
- 吻
- 前肢
- 中胸
- 横脈
- 第四縱脈
- 第六縱脈
- 第七縱脈
- 腿節
- 脛節
- 翅
- 後翅
- 中翅
- 後翅
- 權衡翅
- 腹部
- 中肢
- 後肢
- 雌基葉
- 初節
- 跗節(1-4)

蚊ノ採取法 保存法

(1) 左圖ノ如キ器具ヲ要ス

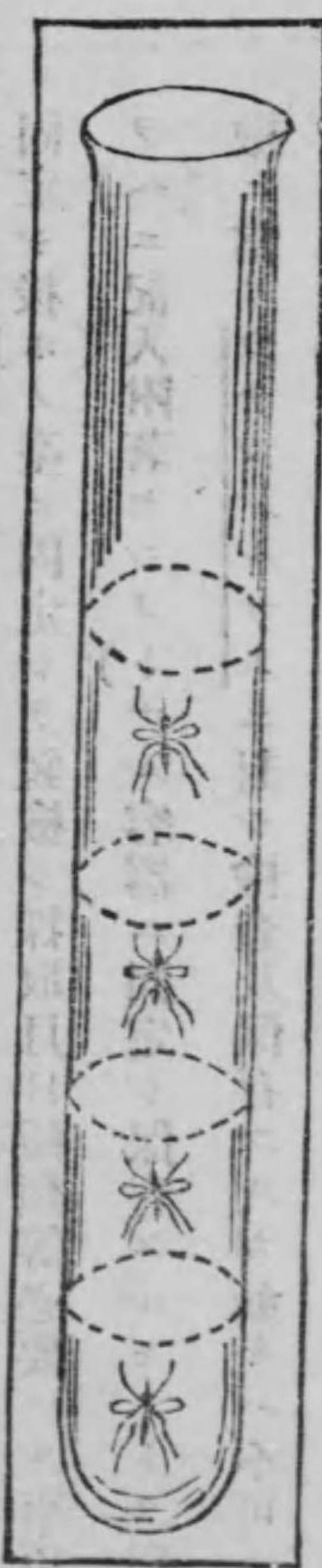




(2) 試験管ノ他ランプノホヤ(一方ヲガーゼニテ蓋フ)又ハノホト試験管用ヒラル次ノ如シ。



試験管ニテ次ノ如ク綿球ヲ填ス充ル時ハ五六疋ヲ捕フルコトヲ得



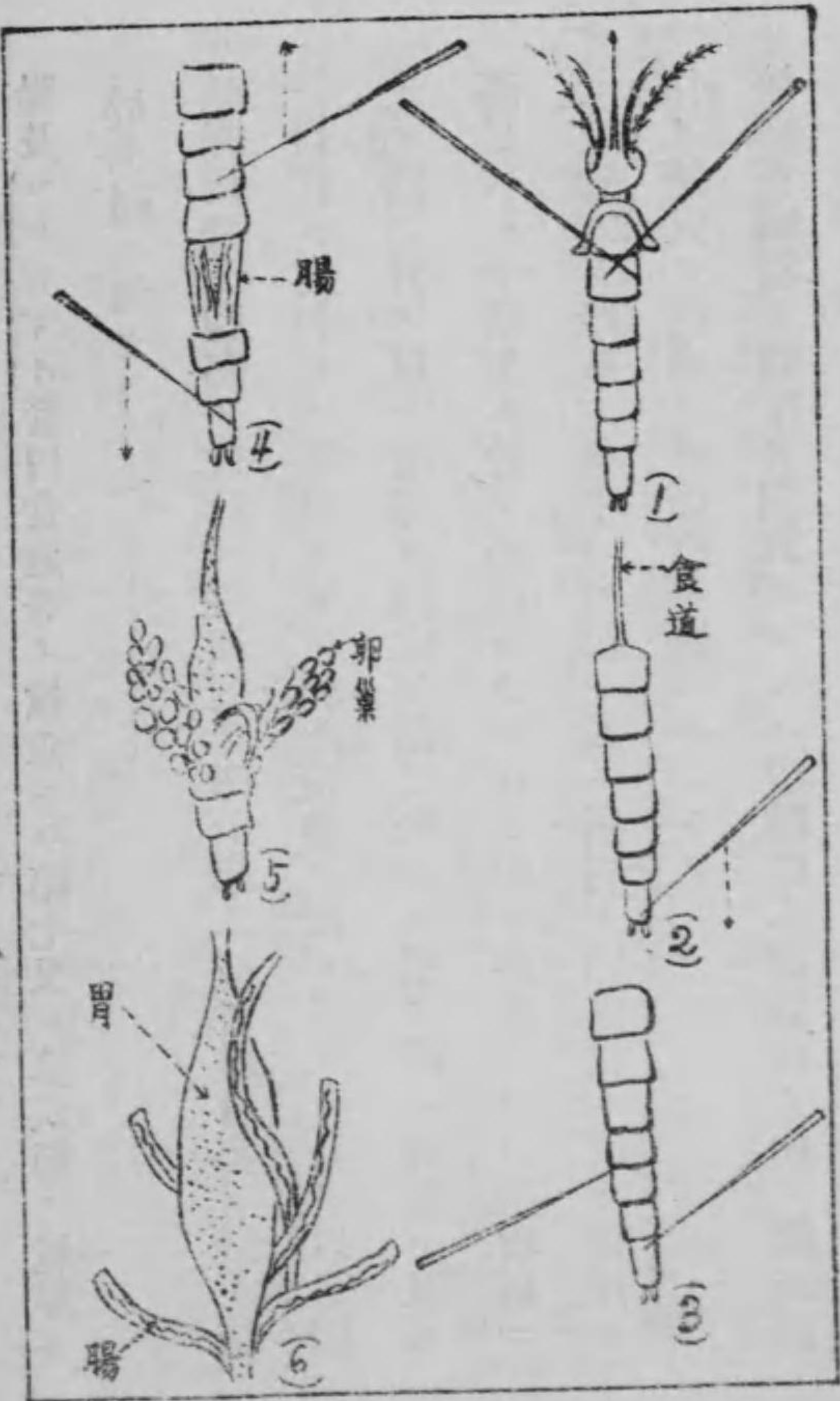
(3) 簍等ニ於テ棒ニテ蚊ヲ追ヒ出シ其レヲ網ニテ掬ヒ網中ヨリイヲ用ヒテ捕殺スルカ又ハ壁ニ止マルヲ突然蓋フ而シテ死シタル蚊ハ

(イ)ヨリ出シ昆蟲針ニテ腹ヨリ刺シヌノ如ク姿勢ヲ正シテコルク片ニ固定シ針ノ上端ヲ切り捨テ更ニ他ノ昆蟲針ニテコルク片ヲ固定シ後ホノ臺ニ固定シテ鏡檢シ採取月日種類等必要ナル事項ヲ(ヘニ記入附著セシメトナル容器ニ固定シ保存スルモノトス鏡檢ニ當リカナダバルサムニ封シ檢査及保存スルカ如キハ不可ナリ子子ハリナル杓子ニテ掬ヒ取り鏡檢又ハ保存スルモノトス。

蚊ノ各部檢査法

- (1)翅肢ノ檢査 殺シタル蚊ヲ前記ノ如ク固定シ鏡檢シ更ニ精査ヲ要スルトキハ注意シテ其ノ翅肢ヲ除去シ其ノ上ニ乾燥シタル被蓋硝子板ヲ載セ之ヲ檢ス。
- (2)内臓ノ檢査 翅及肢ヲ除去シタル體ヲ食鹽水ヲ點滴シタル物體硝子板上ニ載セ極メテ徐々ニ組織分離針ヲ用ヒテ壓迫シタル後

左圖ノ如ク皮殼ニ切痕ヲナシ於此乙針ヲ以テ硝子面ニ對シテ蚊體ヲ壓迫シツツ矢ノ方向ニ引ク時ハ腹部内容ハ徐々ニ食鹽水中ニ引出サルヘシ。



腸及マルビギイ管胃食道等ノ検査ニハ第七又ハ第八節ノ境界ニ於テ圖ノ如クス。

(3)唾腺検査 胸部ノ背面ニ縦切痕ヲ印シ第二肢ノ附着部ニ於テ第一切痕ニ直角ニ一切痕ヲ加フ於此頭部ヲ頸ニ接シテ針ヲ以テ固定シ他ノ針ヲ以テ胸部ヲ固定シ頭ヲ徐々ニ引ク時ハ唾腺ハ最も満足スヘキ状態ニ於テ摘出セラルヘシ直ニ検査シ又ハ吸収紙ニテ食鹽水ヲ吸收シ氣中ニ乾燥シ或ハ所定ノ固定法ニ依リ切片ヲ作り適宜ノ色素ニテ染色シ檢スルコトアリ。

蚊體各臓器ノ切片ヲ調製スルニハ組織標本調製法ノ如ク數時間ツツ遂次濃厚ナルアルコールニ移シ後バラフィン包埋斷切片ヲ製ス之レカ爲蚊體ニバラフィンノ浸入ヲ容易ナラシムルヲ可トス。

蚊體ハ包埋ニ先チテメチーレン青又ハヘマトキシリン染色ヲ施シ次テバラフィン包埋後列切片標本ヲ製リ載物硝子ニ順序ニ卵白ヲ以テ固定シ更ニエオジンニテ復染ス又チエルロイチン包埋ヲモ推奨スルモノアリ。

(4)吸血試験 吸血試験ハ幼蟲ヨリ發生シタル成蟲ヲシテ患者ノ吸血ヲナサシメ約一週間ノ後又同時ニ流行地方アノフェレスニ就テ共ニ胃壁ノチステヲ検査ス而シテ麻刺利亞ノ種類ハチステ又ハスプロツオイトニ依リテ鑑別スルハ困難ナルヲ以テ人又ハ動物試験ニ依ルヲ便トス。

スプロツオイトヲ検査スルニハ食鹽水ヲ點滴シタル載物硝子上ニ「チステ」ヲ破壊シ食鹽水ヲ吸收シ乾燥ノ後純アルコールニテ一五—二五分固定シロマノスキー液ニテ染色検査ス。

蚊ハ寒冷紗ノ箱内ニ養ヒ砂糖水ヲ脱脂線ニ浸スカ又ハバナナヲ
入レ置クラ可トス。

幼蟲ハ小ヨリハ大ナル容器ヲ撰ミ藻ヲ入レ置クハ生育上便ナリ
吸血ニ當リテハ寒冷紗ノ囊又ハ箱ヲ用ユ。

麻刺利亞ノ症狀

潜伏期 三日熱、十日乃至二十五日四日熱、十二日乃至二十一日熱
帶熱、五日乃至十五日トス一般ニ早キハ六日遅キハ二十四日平均
十四日ナリ然レトモ鹽規ノ内服ヲ用ヒタル時ハ十六日遅キハ二十
二日ニ至ルモノアリ。

前軀症狀 全身倦怠諸部ノ疼痛等不定ニシテ何等ノ前軀症ナクシ
テ俄然發作スルコト尠カラス。

一、三日熱並ニ四日熱

(1)發作ハ惡寒期灼熱期發汗期ノ三ツトス。

惡寒期ハ皮膚厥冷顔面蒼白鬪牙及全身震顫ヲ發ス瞳孔ハ多ク
ハ散大シ脈搏ハ小ニシテ一〇〇乃至一四〇ヲ算スルモ緊張強
シ嘔心嘔吐下痢ヲ伴フコトアリ尿量ハ増加ス一、二時間ニシ
テ灼熱期ニ入ル。

(2)灼熱期ハ顔面皮膚ノ潮紅灼熱體溫ハ三十九度—四〇度—四一
度ニ達シ呼吸促進脈搏頻數九〇乃至一二〇ヲ算シ往々重複脈
ヲ呈スルコトアリ氣管支炎肝脾ノ腫大匍行疹顯血紫斑或ハ結
節性紅斑ヲ發スルコトアリ通常二、五時間或ハ其レ以上持續
發汗期ニ入ル。

(3)發汗期ハ多量ノ發汗ト共ニ體溫下降症狀輕快シ頓ニ爽快ヲ覺
ユ尿中微量ノ蛋白ヲ證スルコトアリ以上ノ發作ハ三日熱四日

熱ニアリテハ概ネ一〇―一八時間ヲ常トシ發作ハ夜間ヨリモ晝間ニ多キカ如シ三日熱概ネ三〇―三八時間四日熱五四―六二時間持續シ體溫常溫ニ復ス第二發作ハ三日熱四八時間四日熱七二時間ヲ隔テテ來リ第三第四ノ發作ヲ反覆スルモノトス然レトモ殊ニ三日熱初感患者ニアリテハ初メ高熱持續スルコト數日ニ互リ次テ定型的ノ熱型ヲ呈スルモノ尠カラス第二第三發作カー―二時間宛早ク起ルコトアリ又遅ルルコトアリ前者ヲ前進後者ヲ後退ト稱ス前進スル場合多シ三日熱四日熱ニ於テ原蟲ノ世代ヲ異ニスルモノ重復感染スルトキハ重復三日熱重復四日熱ト稱シ三重スル時ハ三重三日熱三重四日熱ト稱ス三日熱四日熱ニ於テ發作頻回ナルトキハ脾肝ノ腫大ハ著明ナリ其ノ質硬固ニシテ終身之ヲ貽スモノアリ脾腫ハ腹腔ノ

半以上或ハ全腹腔ヲ占ムルモノアリ然レトモ一回ノ發作ニアリテハ觸レサルモノ少ナカラス。

二、熱帶熱(惡性麻刺利亞)又惡性三日熱

熱帶熱ハ二四―四八―五六時間毎ニ發作ヲ反復シ初發ノモノニ於テハ概ネ稍特異ナル熱型ヲ有ス即

- (1) 發作時間ノ長キコト三日熱ノ約三倍以上ナルコト。
- (2) 體溫ノ昇降ハ三日熱ノ如ク急ナラサルコト。
- (3) 發作後一〇―一八時間ニ於テ體溫僅ニ下降ス。

前記ノ如ク體溫ノ下降後間モナク再上昇シテ高熱ヲ持シ一二―一八時間ノ後更ニ下降スルコトアルモ再發セルモノニハ之ヲ見サルコトアリ然レトモ熱帶熱ノ熱型ハ一般ニ不規則ニシテ第一發作ノ熱下降脚ハ常溫下ナルコトアルモ多クハ常溫以下

ニ降ルコト少シ又始メヨリ四、五日間高熱稽留スルカ僅カニ弛張ヲ呈スルモノアリ又各發作ノ高熱時カ隔日ニ來ルカ如キモノアリ之レ惡性三日熱ノ名アル所以ナリ尙二四時間ニ急斜降脚ヲ以テ平溫下ニ下降シ日々之ヲ反覆スル時ハ熱型恰モ三日熱ニ類似スルコトアリ故ニ熱型ノミニテ熱帶熱ヲ診斷シ得ル場合ト然ラサル場合アルヲ以テ必ス原蟲検査ノ必要アリ。患者發熱スルヤ多クハ輕度ノ惡寒又ハ之ヲ伴ハサルコトアリ戰慄ハ見サルコト多シ體溫ハ漸次上昇シテ三九—四〇—四一又ハ其ノ以上ニ達ス肝臟及脾臟ノ腫大ハ三日熱及四日熱ニ於ケルヨリモ屢々ニシテ脾ヲ觸知セサルモ肝ノミ觸知スル場合アリ尙肝臟ノ壓痛アルハ熱帶熱ノ診斷上價値アリト謂フ熱下降スルトキハ發汗ヲ伴フコトアリ或ハ然ラサル場合アリ原

蟲ハ末梢血管ニ現ハルルコト一般ニ少ナキモ重症者ニアリテハ切ツテ無數ノ原蟲ヲ見ル屢々再發スル者ハ初發者ニ比シ自覺症輕キカ如シ。

以上ハ各種麻刺利亞ノ症狀ナレトモ各種互ニ混合感染スルコト尠ナカラス就中三日熱ト熱帶熱トノ混合感染最モ多シ麻刺利亞經過中突如トシテ惡性ノ徵候ヲ呈スルコトアリ。

(一) 昏睡麻刺利亞 高熱中嗜眠昏睡ニ陥リ牙關緊急齒軋項筋痙攣等ノ症アリ時トシテ腦膜炎症狀ヲ呈シ或ハ吃逆ヲ起シ肺水腫ヲ發シ死ノ轉歸ヲ取ルコトアリ。

(二) 譫忘性麻刺利亞 意識濁濁シ甚シク不穩ニシテ躁狂狀ヲ呈シ妄覺妄想ヲ有シ或ハ鬱憂狀ヲ呈ス死亡率ハ二三%ナリト謂フ。